

# 演習林の近況

## 目次

まえがき	171	V 愛知県演習林	223
I 総括	171	VI 富士演習林	238
II 千葉県演習林	186	VII 樹芸研究所	239
III 北海道演習林	193	VIII 田無苗畑	257
IV 秩父演習林	208		

## まえがき

演習林の近況は、昭和30年1月刊行の演習林第10号に初めて掲載し、その後、1~2年毎に載せる予定であったが、原稿の都合で延び延となっていたことは遺憾である。

今回は主に終戦から昭和28年度末までのものを掲載したので、今回はそれ以降昭和35年末までのものとした。今回の内容も前回同様、人事の移動、主要な業務、災害の状況、試験研究の進捗状況、あるいは植物目録等各演習林の好みに雑多な項目となったが、このほうが、各演習林の特色があらわれて、かえって興味深いと考え、無理に統一せずそのまま載せることとした。

## I 総括

昭和29年以降、演習林としての大きな出来事がいくつかあった。その内で、まず人事については、演習林長の藤林教授が、昭和33年1月10日に急病のため逝去されたことである。このことは、ひとり演習林のみならず、広くわが国林学界にとって大きな損失であった。しかも続いての傷手は、藤林教授のあとをうけて林長に就任された永田教授が、就任2年後の昭和35年1月に病にたおれ、療養1カ年の後休職となり、現在なお、自宅療養を続けておられることである。われわれは、同教授が病を克服されて、再び第一線で活躍される日の一日も早からんことを心から切望するものである。その他の人事については、本部の今井事務長が昭和32年6月31日付で勇退し、後任に今尾事務官が昇格したほか、各演習林とも多少の異動が行なわれたが、その詳細は別表職員異動一覧の通りである。

つぎに、経営上では、昭和29年9月の第15号台風による北海道演習林の風倒木の被害が特記されなければならないであろう。風倒木110万石、および風倒に起因して発生した虫害木約10万石という被害石数は、全演習林の年伐量約30万石の4年分に相当する大きな被害であった。この処置としては、昭和29年~32年の4カ年に、風害調査費および処理費予算の配布をうけ、北海道演習林の正規の伐採は全面的に中止して、これ等風害木および虫害木の整理を行なった。その結果、風害木の大半、および虫害木の全部は利用することが出来、現存立木そのものに対する被害は軽微であったわけであるが、跡地更新困難地が相当面積にのぼり被害前の状況と比べると、結局百数十町歩の造林費が、現実の被害として残されたことになる。この分に対する造林費の予算は、年々要求を続けてきたが、昭和36年度に至って初めて認められ、その若干が計上された程度である。

このほかに、ほとんど毎年比較的小規模の災害は各演習林に発生したが、それらについては各演習林の項で述べられているのでここでは省略する。

なお、この期間中の年度別予算の概要および業務の概要を各演習林別に別表に掲げた。

本 官 者 職 員 異 動

昇任	技術補佐員より	技官	大塚 通夫	29.10.1
"	"	"	上原 桂造	"
"	"	"	佐藤 利三	"
辞職		助手	石川 七郎	30.2.28
転任	名古屋大学助手より	"	若林 義男	30.3.1
出向	名古屋大学へ	"	右田 一雄	"
採用		"	山口伊佐夫	30.4.1
出向	助手より東京農工大講師へ	"	川名 明	30.5.1
採用		"	丹下 勲	30.5.1
配置換	演習林より農学部へ	"	山口伊佐夫	30.7.1
採用		"	石津 敦	"
昇任	助教授より教授へ	教授	渡辺 資仲	30.11.1
辞職		助手	島津 永司	31.3.31
配置換	演習林より農学部へ	"	平田 種男	31.4.1
"	"	"	筒井 迪夫	"
"	農学部より演習林へ	技官	桜井 正衛	"
採用		助手	根岸賢一郎	"
"		"	笠原 六郎	"
昇任	事務長補佐	事務官	今尾清九郎	31.8.1
"	助手より講師へ	講師	住田芳太郎	"
出向	助手より東京教育大学助教授へ	助手	堀田 雄次	32.2.16
採用		"	伊藤 幸也	"
辞職		講師	住田芳太郎	32.3.31
採用		助手	塚本 良則	32.4.10
"		"	金光 桂二	32.4.20

昇任	助手より講師へ	講師	中島 圭一	32.5.16
"	"	"	佐藤 修	"
"	演習林事務長	事務官	今尾清九郎	32.7.1
配置換	農学部林学科事務主任	"	今井 正三	"
昇任	技術員より	技官	川口 優	32.9.20
辞職		助手	井上 丹治	32.9.30
転任	技官より北海道技師	技官	川口 優	32.10.31
出向	林野庁林業試験場へ	助手	有水 疆	33.1.1
採用		"	沼田 善夫	"
配置換	演習林より農学部へ	"	多田常喜代	33.4.1
採用		"	佐保 春芳	"
転任	林野庁札幌営林局より	技官	中村 幸	33.8.1
昇任	技術員より	"	鈴木 健治	34.1.1
辞職		助手	山本 悌三	34.1.31
採用		"	南雲秀次郎	34.3.1
昇任	技術員より	技官	田中 行雄	34.7.1
"	"	"	向井 竹雄	"
"	"	"	高村 菊蔵	"
"	"	"	武井 直人	"
"	"	"	西田 信雄	"
"	"	"	安達 守	"
"	"	"	岩崎 訂	"
"	"	"	仁原 勝男	34.9.1
"	"	"	三枝 博	"
"	"	"	稲垣 豊樹	"
"	"	"	赤岩 朋敏	"
昇任	技術員より	技官	太田 重之	34.9.1
"	"	"	中山 勇	"

年 度 別 演 習 林

年 度	事業種別	千 葉	北 海 道	秩 父	愛 知	樹 芸
	利 用	355,632	10,623,218	81,140		
昭	造 林	1,121,641	6,725,892	2,732,654	751,041	597,521
和	土 木	2,327,211	6,465,461	4,367,186	639,887	450,536
二	演習及試験	1,716,679	3,513,258	149,099	1,144,910	1,092,483
九	調 査	1,583,744	2,018,976	212,621	30,817	48,173
年	事 業 外	2,684,167	10,774,203	1,225,299	1,799,386	778,217
度	そ の 他		風害調査費 1,983,858			
	支 出 合 計	9,789,074	42,104,866	8,767,999	4,366,041	2,966,930

一 覧 (昭和 29.10~36.10)

"	"	"	笠井 徳人	"	"	北海道演習 林麓郷 作業所事務 主任	"	片山 敏久	"
"	事務員より	事務官	富田 友吉	"	配置換	助手より事 務官へ	"	加茂 貢	"
"	"	"	赤石 与助	"	"	北海道演習 林会計掛長	"	事務官より 技官へ	技 官 宮永 博章
"	"	"	村上 保	"	昇 任	事務員より	事務官	高橋 光枝	"
"	"	"	谷口 政子	"	辞 職	助手	今井 武雄	34.12.31	
"	"	"	星 圭 介	"	配置換	用度掛長より 総務主任	事務官	吉田 武雄	35. 1. 1
"	"	"	中元 昭二	"	昇 任	用度掛長	"	鶴田 和正	"
"	"	"	大森 憲昭	"	配置換	農学部より 演習林へ	助 手	浜谷 稔夫	"
"	"	"	里見 光一	"	辞 職	技 官	金子 関	35. 3.31	
"	"	"	三村 輝夫	"	転 任	名古屋大学 助手より技 官	"	右田 一雄	35. 4. 1
死 亡	"	"	佐藤 友吉	34. 9. 2	採 用	助 手	藤田 寿雄	"	
昇 任 技 術 員 以 上	技 術 員 以 上	技 官	金子 関	34.10.1	配置換	演習林より 農学部へ	助 手	南雲秀次郎	35. 7. 1
"	"	"	永島 一治	"	昇 任	事務員より	事務官	山本 利定	35. 9. 1
"	"	"	近山弟次郎	"	"	"	"	三浦 俊暁	"
"	"	"	河村 義正	"	"	"	"	山本 孝一	"
"	"	"	嶋田 良平	"	"	技術員より	技 官	北沢 正次	"
"	"	"	根本 宏	"	"	技能員より	"	羽田 喜藏	"
"	"	"	須田 文夫	"	採 用	助 手	福島 康記	36. 1. 1	
"	"	"	相沢エイ子	"	休 職	病気のため	教 授	永田竜之助	36. 2.16
"	"	"	田中 澄子	"	辞 職	技 官	須田 文夫	36. 2.28	
"	"	"	高塚 春子	"	配置換	技官より事 務官	事務官	長谷川サト	36. 4. 1
"	"	"	白石喜美子	"	昇 任	助教授より 教授	教 授	扇田 正二	36. 4.16
"	"	"	長谷川サト	"	昇 任	助手より助 教授	助教授	渡辺 章	36. 5. 1
"	"	"	塚本 威彦	"					
昇 任 技 術 員 以 上	技 術 員 以 上	技 官	諸戸 清一	34.10. 1					
"	"	"	会田 武郎	"					
"	事務員より	事務官	山口 昌江	"					
"	"	"	田島 寿吉	"					
辞 職	"	技 官	大塚 通男	34.10.15					
"	"	"	西山 文	34.11. 1					
昇 任 事 務 員 以 上	事 務 員 以 上	事務官	菊池 雄也	"					

経 費 の 概 要

富 士	田 無	本 部	合 計	備 考
			11,059,990	風害処理費
18,550			11,947,299	北海道 を含む 配付予算外経費
			14,250,281	災害復旧費
132,960		3,085,671	10,835,060	北海道 794,969
		80,474	3,974,805	秩父 400,000
347,862		4,208,770	21,817,904	愛知 1,123,310
			1,983,858	各所修繕 北海道 240,000
499,372		7,374,915	75,869,197	樹 芸 147,600

年 度	事業種別	千 葉	北 海 道	秩 父	愛 知	樹 芸
	収 入	14,644,395	98,992,810	10,075,911	289,651	915,358
昭 和 三 〇 年 度	利 用	390,259	11,542,178	203,673		
	造 林	1,397,558	7,750,340	5,042,391	843,155	495,908
	土 木	3,150,226	11,420,322	1,718,718	858,019	544,846
	演習及試験	1,470,677	3,692,348	250,828	1,220,298	935,600
	調 査	1,396,319	2,762,336	392,675	14,103	57,260
	事 業 外	2,631,256	12,375,073	1,901,580	1,127,827	847,358
	支 出 合 計	10,436,295	49,542,597	9,509,865	4,063,402	2,880,972
	収 入	14,311,093	117,923,492	11,662,606	476,192	885,131
昭 和 三 一 年 度	利 用	707,168	7,475,847	1,916		
	造 林	1,374,527	8,547,523	4,914,671	885,806	481,258
	土 木	3,779,844	9,097,458	2,314,785	2,225,172	560,135
	演習及試験	1,979,693	4,263,763	180,841	637,822	1,053,516
	調 査	1,206,455	3,680,797	374,368	62,743	103,185
	事 業 外	3,193,169	12,981,876	1,819,563	1,033,460	931,041
	支 出 合 計	12,240,856	46,047,264	9,606,144	4,845,003	3,129,135
	収 入	32,260,677	140,005,394	13,154,703	558,709	1,350,827
昭 和 三 二 年 度	利 用	668,923	715,191	4,808		
	造 林	1,687,550	7,173,080	4,631,383	792,513	458,599
	土 木	1,414,310	4,511,819	4,157,421	1,285,161	349,369
	演習及試験	1,699,954	4,146,188	345,824	1,333,701	1,043,152
	調 査	1,017,194	4,706,276	595,913	28,142	57,778
	事 業 外	3,125,283	12,858,019	1,775,254	929,275	971,519
	そ の 他		橋架替負担金 1,340,000 消防負担金 700,000			
支 出 合 計	9,613,214	36,150,573	11,510,603	4,368,792	2,880,417	
	収 入	31,465,324	119,271,586	11,584,140	1,006,737	2,081,780
昭 和 三 十 三 年 度	利 用	959,951	2,327,113	3,012		
	造 林	1,832,084	8,691,194	3,854,280	674,197	527,084
	土 木	5,384,740	3,414,886	1,914,562	1,696,594	387,206
	演習及試験	1,481,194	6,447,160	809,484	1,141,460	826,603
	調 査	945,764	4,753,533	998,239	20,586	39,133
	事 業 外	3,699,966	11,983,559	1,414,923	1,142,467	920,422
	支 出 合 計	14,303,699	37,617,445	8,994,500	4,675,304	2,700,448
	収 入	26,265,906	120,050,216	11,904,457	1,191,214	1,799,104
昭 和 三 四 年 度	利 用	446,291	3,867,065	2,656		
	造 林	2,298,041	9,270,674	5,269,723	655,274	568,261
	土 木	1,383,775	2,120,564	1,840,340	1,578,375	502,888
	演習及試験	1,667,481	6,750,508	862,402	1,452,933	816,561
	調 査	1,005,597	3,680,900	567,297	92,813	39,715
	事 業 外	3,227,841	12,486,081	1,950,301	1,114,396	876,574

富 士	田 無	本 部	合 計	備 考
3,466			124,921,591	
6,752			12,136,110	風害処理費 北海道 9,000,000 を含む
365,054		4,071,877	15,536,104	配付予算外経費 災害復旧費 北海道 655,000 各所修繕
207,386		40,316	17,692,131	千葉 110,000
579,792		2,583,356	12,006,682	愛知 42,500
		6,695,549	4,663,009	
			21,674,436	
			83,708,472	
597			145,259,111	
			8,184,931	風害処理費 北海道 18,493,700
			16,203,785	虫害防除費 北海道 1,500,000 を含む
316,235	285,201	3,862,209	17,977,394	配付予算外経費 北海道, 温室新宮 1,350,000
11,148			12,579,280	秩父, 倉庫兼学生寄宿 舎模様替 1,720,000
205,508	33,692	2,890,996	5,438,696	樹芸, 定夫舎模様替 183,900
532,891	318,893	6,753,205	23,089,305	災害復旧費, 愛知 562,000
			83,473,391	
12,604			187,342,914	
			1,388,922	配付予算外経費 北海道, 暖房室及温 室暖房取設 2,540,000
			14,743,125	北海道, 西達布作業所 庁舎改修 2,359,900
232,496	314,615	3,995,622	11,718,080	富士, 山中寮模様替そ の他 1,200,000
9,619		50,262	13,111,552	災害復旧費 愛知 2,283,000
396,870	101,914	3,790,844	6,465,184	
		自動車購入費 1,700,000	23,948,978	
			3,740,000	
638,985	416,529	9,536,728	75,115,841	
2,094			165,411,661	
			3,290,076	配付予算外経費 北海道, 育種実験室 新宮 3,645,000
			15,578,839	北海道, 暖房取設 457,700
326,526	330,080	3,931,376	12,797,988	災害復旧費 千葉 2,897,000
			15,293,883	愛知 1,005,000
			6,757,255	各所修繕 北海道 489,000
307,922	167,544	2,799,069	22,435,872	秩父 175,000
634,448	497,624	6,730,445	76,153,913	
2,094			161,212,991	
			4,316,012	配付予算外経費 愛知, 大山作業所 新宮 694,000
			18,061,973	災害復旧費 秩父 1,052,000
319,743	670,143	4,195,736	7,425,942	愛知 99,000
			16,735,507	樹芸 800,000
			5,386,322	各所修繕 北海道 418,000
299,002	119,858	2,620,946	22,694,999	

年 度	事業種別	千 葉	北 海 道	秩 父	愛 知	樹 芸
昭和三四年度	その他 支出合計	林道開設費 4,000,000 14,029,026	消防分担金 200,000 38,375,792	災害復旧費 239,000 10,731,719	道路舗装負担金 248,000 5,141,791	2,803,999
	収 入	33,891,837	143,251,025	33,158,079	2,822,686	1,197,878
昭和三五年度	利 用	697,250	5,211,850	14,341		
	造 林	2,111,512	10,081,560	5,709,291	730,060	561,878
	土 木	2,274,473	1,742,704	1,630,401	1,156,981	302,918
	演習及試験	1,821,548	6,412,506	601,748	1,423,496	802,808
	調 査	1,016,995	1,707,997	735,514	43,141	182,294
	事 業 外	3,723,378 災害復旧費 682,000	11,583,463 林道開設費 1,799,998	1,956,123 林道開設費 3,000,000	1,403,757 災害復旧費 675,000	1,043,428
	そ の 他	各所修繕 120,000	離作補償金 2,582,992 野兎風防除費 2,000,000 各所修繕 661,000	災害復旧費 271,000 各所修繕 76,000	各所修繕 73,000	
支出合計	12,447,156	43,784,070	13,994,418	5,505,435	2,893,326	
収 入	35,063,802	159,670,101	29,000,935	2,847,958	1,144,682	

演 習 林 業 務 及 び

年	本 部	千 葉	北 海 道	秩 父
昭和二九年	11.1~2 地方演習林事務主任会議開催	<p>4.6 午後豪雨(降水量102.4mm)折木沢~郷台林道橋梁流失 2. 崩壊 3カ所</p> <p>5.1 亀山村四方木部落分村天津町に合併林地面積 664,90 ha</p> <p>7.1 鴨川町東条村西条村田原村の四方町村合併鴨川町となる。従って中原試験地の所在地名鴨川町東と改称</p> <p>9.18 台風14号により清澄寺境内第2大杉地上4mから折損倒折</p> <p>10.1 久留里町松江村亀山村が合併上総町と決定</p> <p>10.4 境界標,従来の木標をコンクリート標に取替の方針決定</p> <p>11.28 豪雨(降水量,清澄で186mm),木沢,足谷~一杯水,荒野~大仙場,猪の川,各林道各所崩壊</p>	<p>5.10 全道に亘り大風水害発生,演習林における被害建物5棟立木倒折約5,300本,18,500石</p> <p>9.26~27 台風第15号による全道の森林被害激甚,演習林における被害建物17棟電話線,その他,立木倒折約50万石と推定</p> <p>10.18 台風第15号被害木の整理の一部を官行伐採を計画 29,30年度に造材木 175千石 101,238千円の予算要求</p> <p>11.3 風傾木処理作業開始,12月27日本年度分終了 454千石生産</p> <p>11.15 開拓のため用途廃止予定地(182.10ha)の立木113,907.32石用途廃止大蔵省へ引渡</p> <p>1.18 直営生産木材の検査手数量の取扱いについて総長決裁</p> <p>9.20 資金前渡官吏交替前任高橋延清林長後任朝日正美助教授</p>	<p>1.11 住田林学長病氣療養のため資金前渡官吏交替 前任住田芳太郎林長後任碓谷吉五郎教官</p> <p>4.1 入山製材作業場敷地民地123坪65借入</p>

富 士	田 無	本 部	合 計	備 考
		自動車購入費 1,200,000	5,887,000	秩父 232,000
618,745	790,001	8,016,682	80,507,755	
2,094			214,323,599	
			5,923,441	災害復旧費, 及各所修繕 演習林へ配付となる
			19,194,301	
286,227	557,991	4,036,211	7,107,477	
			15,942,535	
271,938	113,303	3,385,162 自動車購入費 1,200,000	3,685,941	
			23,480,552	
			13,140,990	
558,165	671,294	8,621,373	88,475,237	
270,999			227,998,477	

## 関係事項の概要

愛 知	樹 芸	富 士	田 無	備 考
3.31 犬山団地開墾 適地開放166,497坪 用途廃止大蔵省へ引 渡		3.15 国道団地と して310坪を用途 廃止建設省へ所管 換  11.11 国道付替の ため借入地392坪 山梨県へ返地		

年	本 部	千 葉	北 海 道	秩 父
昭和三十三年	<p>8.24 前沢完次郎教官カナダへ出張出発 31年8月20日帰朝</p> <p>5.19 本学の契約事務委任の改正に伴い前渡金払限度額を10万円に引上げについて総長決裁</p> <p>4.21 区内旅費規則の一部改正(移転料の定額制)</p>	<p>12.1 千葉銀行天津支店へ前渡金の特別保管開始</p> <p>4 第7次経営業による施業期に入る</p>	<p>2.7 外国主張中の高橋延清林長帰任</p> <p>4.1 資金前渡官吏交替前任朝日正美助教後任高橋延清林長</p> <p>6.17 29年台風第15号の風害木の処理について官行斫伐に要する経費 67,015,000 虫害防除に要する経費 3,624,500 30年度予算要求</p> <p>8.26 林道拡充5カ年計画延長(105.7 km, 経費60,645,100円)を樹立初年度計画延長17.7 km, 21,473,600円予算要求</p> <p>4.15 自作農創設のため貸下農地等5,519,562坪を用途廃止引渡</p> <p>3. 樹木園及其の付近を富良野芦別道立公園候補地決定</p> <p>4.1 前渡金を日本銀行富良野代野店へ任意預託開始</p>	<p>2.27 二瀬ダム建設に関連して国道改修のため大滝村強石付近にて特設電話線に支障電柱撤去を要求せらる</p> <p>4.6 28.29年度新植地寒害調査の結果判明、滑沢20, 小滑33, 赤沢25林班, 面積47.37 ha 58,294本, 被害率34%</p> <p>5.20 千葉県より鶴田敏夫指導員を招き築窯及製炭指導を受けていたが6.30一応完了</p> <p>6.11 造林予定地すず竹枯殺試験, 赤沢28林班, 36区設定, 1区9 m<sup>2</sup>, 第1回薬剤(クロシーム)散布, 26日終了</p> <p>12.1 住田林長病氣療養中の処復帰につき資金前渡官吏交替前任碓谷吉五郎教官後任住田芳太郎林長</p>
昭和三十一年	<p>4.1 演習林長中村賢太郎教授停年退職のため藤林誠教授演習林長併任</p> <p>10.1 資金前渡官吏交替前任今尾清九郎事務官後任今井正三事務長</p> <p>4.17 地方演習林における出納事務の取扱要項決定 資金前渡官吏所届出納員北演2名秩演1名任命</p> <p>6.1 区内旅費規則の一部改正(旅費定額等改訂)</p>	<p>7.17~19 文部省主催林学教育研究集会開催文部省大学学術局, 技術教育課中田正明事務官及全国大学演習林長その他, 出席者25名</p>	<p>1.16 職員を11班(1班3人)に分れ全体に亘り精英樹保存木調査に着手</p> <p>10.1 東山村, 富良野町合併</p> <p>10.5 第一苗圃 50 KW受電分担金 (424,736円)及同工事費(471,458円) 配電工事着工11月2日完工</p> <p>12.1 東山発電所を閉鎖, 第一苗圃配電を電力会社線に切替</p> <p>3.8 現在の社会経済事情に適合する様農地貸下料改定(標準料金3.04倍)30年度より実施</p>	<p>6.1 影森苗圃地内に簡易気象観測所を設置, 気温(乾湿)地中温度降水量, 蒸発量を測定</p> <p>5.16 落合~二瀬間国道拡張工事のため特設電話路線支障のため撤収, 迂回張線により接続</p> <p>7.1 大血川作業所構内気象観測は昭和25年以来中止中の処測定再開</p> <p>7.7 鹿の捕獲許可となる, 許可申請する一方5月以来ガス(カーバイト)爆発筒により予防して来たが今回許可となる, 許可期間7月末迄</p> <p>7.27 川俣の倉庫兼学生寄宿舎模様替工事着工, 9月29日完工予定</p> <p>10.1 影森村浦山村合併影森町となる</p> <p>12.10 影森苗圃地内に公務員寄宿舎完工, 大蔵省より引継</p>



愛 知	樹 芸	富 士	田 無	備 考
<p>4.5 犬山国地松毛虫発生、被害甚大のため第一回駆除面積 77.55 ha BHC 散布1008 kg 経費 80,331円 15日完了 第二回 4.23~5.5 面積 29.70ha 経費 18,525円</p> <p>6.25 山腹工事の機械化による能率増進試験 林学科藤林誠教授の指導により実施 30日完了</p> <p>3.30 事務所上水道工事完了</p>	<p>6.21 温室屋根スカイライト工事施行 7月15日完工</p> <p>7.31 南中, 南上, 竹麻, 南崎, 三坂, 三浜の6カ村合併南伊豆町となる</p> <p>3.12 事務所用地として民有地所有者5名より12.216坪寄附受領</p>			<p>2 本学の前渡資金取扱方法の改正に伴う事務取扱要項演(当演を除く)の給与の支払を前渡金払となる</p>
<p>1.13~15 藤林誠教授指導による山腹工事の機械化による能率増進試験</p> <p>11.7 苗圃散水装置一式林野庁より無償所管換を受け受領</p> <p>6.21 犬山地方に14時30分頃より約50分大雷雨と共に降雹(径4~7cm)あり民家殊に農作物の被害甚大、演習林には被害なし</p>	<p>9.27 台風第15号により造林木に僅少の倒折被害、潮風害により広葉樹類の梢葉約15%赤くなる</p> <p>10.22 定夫宿舍模様替工事、着工12月7日完工</p>	<p>2.25 電柱敷地貸付のため山梨県より借入地13坪612返地</p> <p>6. 富士山麓における野鳥棲息密度調査</p>	<p>4.1 農学部管理の林学苗圃及見本林(面積約9町2反)附設の建物施設共演習林の管理とすることに決定</p>	<p>4.24 法律第82号国有資産等所在市町村交付金及納付金に関する法律の成立により農場及演習林所在町村交付金の交付は従来の所在町村財政補助的性格より固定資産税相当額を交付することとなる</p> <p>3.31 国有財産台帳価格改訂</p> <p>9.1 下記補助者に関する規程か制定施行本号支出負担行為担当官及び支出官の補助者指定に関する規程 本学資金前渡官吏及びその補助者に関する規程</p>

年	本 部	千 葉	北 海 道	秩 父
昭和三年	<p>6.5 衆議員文教委員坂田通太氏, 文部省大学学術局長等, 教育研究施設設備状況視察のため来学, 演習林の概要予算, その他について説明</p> <p>7.1 事務長今井正三事務官林学科事務主任に転出, 後任事務長今尾清九郎事務長補佐昇格同時に資金前渡官吏交替</p> <p>9. 演習林業務分掌規程案, 成案</p> <p>12.1 地方演習林と連絡もあり農学部と切離して宿日直を置く</p> <p>12.4 藤林誠林長病氣療養のため永田竜之助教授林長事務代理</p> <p>3.24 各演の貸下地使用料金改訂</p> <p>11.15 区内旅費規則の一部改正(給与法の改正に伴うもの)</p>	<p>6.26~29 豪雨(降水量226mm)により本沢林道欠壊4カ所28m猪の川林道橋台流失1カ所の被害額約 268,000円</p> <p>7.22 豪雨, 各所林道被害15カ所造林地崩壊4カ所</p> <p>11.25 郷台作業所自家発電施設工事完了</p> <p>12.6 地元各部落代表を清澄に招き経営上関係ある事項について懇談会を開催</p> <p>3.28 清澄作業所表口の民有地93坪余試験苗圃用地とに購入</p> <p>12.19 清澄管内の一部を南房総固定公園候補地に編入決定</p>	<p>12.14 小作料改訂のため土地評価委員会を山部で開催</p> <p>12.19 東山事業区において関係職員の測樹講習会を開催</p> <p>11.20 演習林林木育種試験研究5カ年計画を提出</p> <p>2.22 北海道における冷害による救済策として農地貸下料31年度分平均37%減額決定</p> <p>3.20 建物(西達布診療所)用途廃止</p> <p>3.12 自作農創設のため川松沢貸下農地297,888坪用途廃止引渡</p> <p>4.11 新設の林木育種温室2棟営繕課より引渡</p> <p>2.7 麓郷庁舎兼宿舍を1棟2戸建宿舍に模様替</p> <p>3.30 山部第1号官舎1棟1戸建を1棟2戸建に模様替</p>	<p>3.7 国道の拡張改修のため特設電話線支障のため撤取, 無電開設を考慮, 地震研究所に依頼して超短波無線電話実験を2日間に渉り秩父, 栃本大血川間にて実施, 結果良好</p> <p>3.31 林長住田芳太郎講師停年退職, 後任佐藤修教官, 同時に資金前渡官吏交替</p> <p>5. 秩父庁舎正門両側国障, 土境をコンクリートブロック積に改修(98,975円)10月20日完工</p> <p>6.27 栃本作業所庁舎より川俣学生寄宿舎間特設電話架設, 延修735m, 経費33,456円</p>
昭和三年	<p>1.10 藤林誠林長 東大附属病院で逝去</p> <p>1.10 永田竜之助教授 林長事務取扱</p> <p>2.1 永田竜之助教授演習林長</p> <p>4.22 大蔵省, 文部省, 東大本部, 関係係官に対する林木育種研究の説明会を学生会館で開催</p> <p>8.26 北演創立60周年記念式に当り林長より下記の通り感謝及び表彰を行なう</p> <p>地元森林愛護組合, 4組合最初の入植現存者2名永年北演の施設及び経営に貢献した者</p>	<p>4.8 三笠宮殿下天津構内樹木園視察</p> <p>8.22 臨時人夫国吉巡明猪ノ川林道改修作業中公務死亡</p> <p>9.18 台風21号による建物, 林道その他被害見込額75万円</p> <p>9.26~27 豪雨を伴う台風第22号により林道林地その他の被害見込額 11,818千円</p>	<p>2.7 演習林における林木育種試験研究の重要性を強調, 35年度以降同研究予算の独立費目とされたい旨を要望した意見書を林長より本省へ提出</p> <p>4.18 砂金鉞業権消滅を札幌通産局原簿に登録</p> <p>4.1 分任歳入徴収官, 分任権権監理官を北演林長に官職指定</p> <p>6.2 資金前渡官吏交替前任高橋延清林長, 後任朝日正美助教授</p> <p>7.1 皇太子殿下下行啓樹木園及び試験林御視察</p>	<p>5.31 影森町, 秩父市に合併</p> <p>5.16 国道改修のため特設電話撤去により超短波無電装置の設置を申請中の処, 5月12日本免許となり秩父栃本大血川の三無電局開局</p> <p>6.23 演習林専用電話秩父~栃本間廃止届を県知事へ届出</p> <p>8.18 台風第21号による被害, 苗圃欠壊, 林道軌道等損害見込額 3,808千円</p> <p>9.26~27 豪雨を伴う台風第22号により林道軌道林地等被害見込額 749千円</p>

愛 知	樹 芸	富 士	田 無	備 考
<p>7.1 事務所所在地名瀬戸市告示を以て改正 旧大字水野字安戸405番地の19 新東松山町1番地</p> <p>8.7~8 豪雨（降水量、水野団地 374.6 東山同 292、白坂同 263.1 犬山同143.7m）特に瀬戸市にボタ山崩壊により民家11戸全壊、死者29名 演習林の被害、山地砂防地150カ所以上の他林道、電話線（犬山団地は被害なし）被害額6,807,000円</p> <p>4.2 水野団地において耐火粘土、けい石鉸権21,190 a 設定登録</p> <p>9.4 河地島三郎外2名租鉸権 263 a 設定登録存続期間5カ年</p> <p>12.4 富田宗吉租鉸権 119 a の設定登録存続期間2カ年</p>	<p>1.1 民有地97坪を借上げて源泉タンクの移設及び源泉の改修（310,813円）7日着工、3月25日完工</p>	<p>8.31~9.2 南極観測隊員及び関係者60名合宿訓練</p>		<p>3.19 文部省所管行政財産である土地建物の使用収益について、本学の使用料算定方式通牒</p> <p>2.26 校費、賃金支弁の者（臨時筆生を除く）に関する事務取扱要項、判定実施せらる</p> <p>11.26 本学職員の停年制に関する下記規程及び内規制定本学教官の停年に関する規程 11月26日施行 本学職員の停年に関する内規 33年4月1日施行</p> <p>2.10 物品管理事務及び債権管理事務委任等に関する規程（32年文部省訓令）により各演習物品管理職の官職指定</p> <p>11.1 千演、北演、秩演における利用処分掛長に対し林産物品に付分任物品出納官の完職指定</p> <p>7.28 雇傭員名を職種に応じ職名呼称の改正発令</p> <p>11.8 農学部長 交替前任磯辺秀俊教授後任住木諭介教授</p> <p>12.14 総長交替前任矢内原忠雄教授後任茅誠司教授</p>
<p>8.25~26台風第17号来襲、砂防工及量水試験施設等損壊、被害見込額 164万余円</p> <p>11.18 東山~白坂特設電話線東海電波管理局の承認を得て鉄線を硬銅線に取替その他大改修、完了工費 236千円</p> <p>4.1 昭和2年以來果有地を無償借入中の東山庁舎及び官舎敷地有償借入日変更</p>	<p>6.17 町営水道工事加納構内施工工事費 8万円、8月28日通水</p> <p>9.26~27 豪雨を伴う台風第22号により林道の被害見込額 11,044千円</p> <p>10.1 南中郵便局を下賀茂郵便局と改称</p> <p>11.7 源泉埋設鉄管破損地中73尺の部分より熱湯洩れ温室の熱湯必要期に付応急修理を行う工事費 65千円</p>	<p>3.11 地元の発展のため区長外部落代表が代替地提供を条件として演習林地を元の寄附者に返還を求める陳情</p>		<p>1.7 日付蔵管第1号国の庁舎等を使用又は収益させる場合の取扱の基準について通達</p> <p>12.16 国家公務員共済組合法施行令の一部改正により賃金支弁者の組合加入の道が図られた</p>

年	本 部	千 葉	北 海 験	秩 父
昭和三十三年	<p>3名 演習林に勤続30年以上の職員 29名</p> <p>12.4 演習林報告編輯委員会内規及び編輯方針教授会で決定</p>		<p>8.26 北演創立60周年記念会式を挙行</p> <p>10.1 資金前渡官吏交替前任朝日正美助教後任中村幸枝郎</p> <p>3.貸下農地の等級及び使用料改訂</p> <p>3.27 西達布庁舎32年11月改築完工につき営繕課より引渡</p> <p>10.6 西達布機庫用途廃止取こわし</p> <p>4.第8期施業案による経営期に入る</p> <p>12.8 樹木園標木館改修</p>	<p>10.24 赤沢出合の吊修羅、実験目的を達したので不要処分売却承認</p> <p>11.28 寺崎式幹等級による間伐調査法の職員研究修会を開催</p>
昭和三十四年	<p>8.31 金光桂二教官 英国へ出張、35年11月28日帰朝</p> <p>8.30 島地謙教官 米国へ出張、35年10月3日帰朝</p> <p>10.15 農学部構内用地再配分農学部主任会議で決定 旧温室跡約200坪を畜産学科へ、その代地としてグラウンド北側に125坪、温室跡の斜面は演習林へ残し農業工学科へ貸与</p> <p>3.27 各演貸下地使用料改訂</p> <p>6.24 地方演習林長事務処理委任規程の改正総長決裁</p> <p>5.27 演習林会議及び演習林運営委員会内規決定</p>	<p>2.13 造材技術研修会開催、参加者作業所職員全員及び天津より関係職員</p> <p>3.30 南房御旅行中の秩父宮妃殿下天津構内御視察</p> <p>6.24 清澄作業所に局加入電話開通、天津一266の乙</p> <p>7.7 事務研修会、20日試験研修生を開催関係職員全員参集</p>	<p>9.全道的に野鼠の異状発生、その被害甚大、演習林にもその波及をおそれ防除費142万余円を要求したが入れられなかつた</p> <p>3.31 31年末以来使用休止中の軌道、用途廃止撤去</p> <p>6.3 水路用地924坪農林省へ所管換</p> <p>4.10 暖房汽罐室(32年度完成)林木育種実験室(33年度完成)営繕課より引渡</p> <p>9.30 布部検取所建物用途廃止取こわし</p> <p>9.西達布検取所建物を三ノ山保護員詰所へ移転横柳換</p> <p>10.17 山部宿舍敷地162坪大蔵省で購入引継</p>	<p>1.27 栃木官舎敷地導水装置を地中埋設導水式とし過漕を設置し衛生的に改善、工費64,675円</p> <p>5.15 林業人夫藤間隆夫苗木の索道運搬中公務災害死亡</p> <p>8.14 台風第7号来襲降雨量栃本314、大血川403、秩父342mm林道軌道苗圃等被害額715千円 風倒木約1160m<sup>3</sup></p> <p>9.27 林業人夫岡田述赤沢林道練積石垣積作業中公務死亡</p> <p>9.26~27 台風第15号(伊勢湾台風)来襲、風速28~32m降雨量200~270mmに達し林木の風倒、軌道林道の被害甚大</p>
昭和三十五年	<p>2.1 永田竜之助林長病気のため島田錦蔵教授林長事務代理</p> <p>9.21 浜谷稔夫教官 スエーデン政府奨学金留学生として出発</p> <p>11.現在のトラック36年3月車検切れと共に廃車補充しない方針を決定</p> <p>6.1 立木販売予定価格評定公式決定実施</p> <p>3.18 地方演習林在勤共済組合員に対する諸給付金等の送金の取扱について了解事項決定</p>	<p>2.8 林業機械化の一環として苗圃耕耘器(グラベリートラクター)使用講習会開催</p> <p>4.1 林長病気のため資金前渡官吏交替、前任渡辺資仲林長後任唐鎌禎二事務交代</p> <p>5.17 立木販売予定価格評定公式改訂につき指導研修会を開催</p> <p>7.12 本年3月17日黄和田部落の大火災の復興資材(立木1,899石、2,705千円)上総町長へ特売の件決裁</p> <p>8.20~21 豪雨を伴う第10号台風(降雨量</p>	<p>7.1 川松沢開拓予定地(自作農創設)2,310,791坪農林省へ引渡</p> <p>5.31 昨年来全道に異状発生した野鼠の被害甚大に付防除費要求200万円予算化</p> <p>8.第一苗圃接統星野長広へ貸下農地4haを林木育種試験用地に返地せしめることに決定</p>	

愛 知	樹 芸	富 士	田 無	備 考
<p>1.29 東海財務局より使用許可の県道敷地の用途廃止を申入</p> <p>4.1 品野町瀬戸市合併</p> <p>7 犬山市の都市計画用地の一部を市有林と交換について犬山市より陳情</p> <p>9.26~27 台風第15号(伊勢湾台)風来襲犬山団地を除く各所被害甚大,建物工作物,各種試験施設砂防工,林道,電話風倒木処理等復旧に要する経費 1,788千余円</p> <p>8.24 松原藤夫 租 鈿権224 a 設定登録 存続期間 5 カ年</p> <p>8.28 セントラル硝子(株) 租 鈿権 284 a 設定登録 存続期間 5 カ年</p>	<p>8.14 台風第7号来襲(風速49m)温室ガラス100枚破損宿舎屋根瓦340枚吹き飛ば立木の風倒若干</p> <p>11.22 源泉の縦埋設鉄管腐朽損傷のため取替作業 8月24日着手,工事中の処完了 工事費 169 千余円</p>	<p>1.20 無償借入地内における演習林の植栽木について申入</p> <p>4.26 県林業試験場よりポプラ挿木苗1,000本,シラベ他1,000本,試験用として分譲を受く</p> <p>7.11 植物園へ運動会馬術部の馬小屋新築</p> <p>8.14 台風第7号来襲,風速42m,降雨量425mmに達し立木の倒折750本,棧橋流失建物屋根破損,ヨット4隻大破</p>	<p>2.20 同化量並に呼吸量測定用赤外線ガス分析計(米国LB社)好調に始動</p> <p>11.6 金子関 技 官 11月3日付黄綬褒賞受賞,文部大臣室にて授与</p>	<p>9.4 本学日々雇用人事取扱要項決定</p> <p>11.1 本学日々雇用人事取扱要項決定</p> <p>4.1 事務局の部課制施行により庶務課会計課を夫々庶務部経理部と改称</p> <p>5.15 法律第163号により国家公務員共済組合法の改正公務員の年金制度を統合せらる</p>
<p>6.10 瀬戸市の総合的土地開発計画に基づき水野団地の割愛方本省へ陳情あり大学の意見を求めらる</p> <p>4.5 犬山作業所庁舎兼宿舍昭和35年3月完成施設部より引渡</p> <p>12.24 富田宗吉租 鈿権 268 a 設定登録 存続期間 5 カ年</p>	<p>5.20 岩樟園の木造二階建倉庫用途廃止取こわし</p>	<p>3. 学校敷の如き今後返地の可能性なき貸付地の用途廃止を本省より勧告</p> <p>11.18 中野村使用の役場,学校等敷地9,453坪 962 を用途廃止,大蔵省へ所管換引渡</p>	<p>9 苗圃北側の一部を原子核研究所へ割愛について要請</p>	<p>3.30 文部省所管国有財産取扱規程(32年7月文部省訓令)により本学における国有財産管理事務の一部委任</p> <p>3.4 本学における勸奨退職者及び停年退職者に対する感謝状及び記念品贈呈制度が設けらる</p> <p>4.1 本学における契約事務の簡しよを図るため契約事務取扱要項が定められた</p> <p>12.16 営繕課が部課制の施設部を改</p>

年	本 部	千 葉	北 海 道	秩 父
昭和三五年度		310~390mm) 林道, 護岸石垣崩壊流失 (損害額1,964千余円)		
昭和三十一年	<p>2.1 林長交替前任永田竜之助教授, 後. 任島田錦蔵教授</p> <p>8.15 懸案の演習林仮設工作物の固有財産台帳登録について林長, 施設部長と打合せ了解</p> <p>8.9~10 演習林における常勤的非常勤職員の実態調査が行政管理庁関東管区監察局により実施</p> <p>3.1 演習林の利用を許可する場合の基準改訂</p>	<p>6.27~28 集中豪雨(降雨量152~260mm)により各所林道崩壊橋梁流失等損害額2,330千円</p> <p>10.2 資金前渡官吏交替前任唐鎌楨二事務主任後任渡辺資仲林長</p> <p>4. 演習林設置75周年記念事業として展示林の設定を計画, 初年度経費予算50万円</p>	<p>7.24~26 豪雨に襲われ林道橋梁被害甚大損害額 4,674千円</p> <p>7.21 樹木園隣接民地及び道有貸下農地7町84畝を林木育種試験用地として入手することに決定, 所要経費4,258千円37年度概算要求を提出</p> <p>2.27 布部旧土場4,496坪385と山二耕田木工場所有山部の建物(寄宿舎)等価交換受渡</p>	<p>1. 入川林道に設置の自家用軌道枕木製材所は当分閉鎖に決定</p> <p>3.22 地震研究所よりの申入れにより無電の周波数変更手続中の処完成電波管理局の検査終了</p> <p>3.7 苗木業者に養苗を依託する初めての試みとして第一回分ヒノキ1年生苗木4万本を託す</p> <p>3.26 和名倉地先三峯神社との境界決定成立調印</p> <p>6.26~28 集中豪雨(降雨量240mm)のため山腹崩壊軌道破壊, 損害額516千円</p> <p>4. 第5次経営案実行期に入る</p>

愛 知	樹 芸	富 士	田 無	備 考
				称 11.8 農学部 長 交 替, 前任住木諭介 教授後任越智男一 教授
<p>6.27~28 集中豪雨により各団地共被害(降雨量276~382mm) 損害額13万円</p> <p>7.21 瀬戸市の土地総合開発事業に協力する意味において割愛する水野団地の代替地として, 国有林386ha (11,201万円)の購入予算を37年度概算要求することに決定要求</p> <p>9.22 新居海岸砂防試験地31,478坪4借入中の処無償所管換決定</p> <p>1.7 河地島三郎他2名, 租鉦権305a 設定登録存続期間5カ年</p>	<p>3.1 静岡銀行賀茂支店に前渡金の特別保管を開始</p>	<p>7.20 運動場に盛土350m<sup>3</sup>を行ない整備, 工事費14万円</p>		<p>3.31 国有財産台帳価格改訂</p> <p>9.4 本学日日雇用者人事取扱要項決定 常勤的非常勤職員の職名称及び給与変更</p> <p>4.1 国立学校設置施行令及び同施行規則の一部改正により常勤労務者は定員内職員に配置換</p>

## II. 千葉演習林

### A. 千葉演習林の利用状況

千葉演習林は従来から林業，林学関係者の見学がおおかったが，最近の林業に対する関心の昂揚にともない，とくにその数が増加し，連日のように見学者がある状況である。

33年より35年迄最近3年間の視察実習などの利用状況はつぎの通りである。

年次	利用状況	日帰見学	宿泊視察	学校実習	計	備考
33年		647	859	1893	3399	小・中学校生徒の見学人員は計上しない。
34年		650	549	1905	3014	
35年		674	583	1815	3072	

### B. 人事の移動

昭和32年3月1日に札幌作業所主任の右田教官が名古屋大学に転出し，後任として同大学より若林義男教官が着任した。同じく4月5日には秩父演習林より成瀬善高技官が着任し，郷台作業所に配置となった。同年5月1日には試験掛主任であった川名教官が東京農工大学へ常勤講師として転出，丹下試験掛が教官に任官し試験関係を担当することになった。

30年11月1日渡辺助教授が教授に昇任した。

昭和32年2月16日には堀田教官が東京教育大学助教授として転出し，同年7月1日には加藤咲夫教官が着任した。又同33年8月1日付で糟谷由助，長谷川茂，石井朝夫がそれぞれ技官に，同年11月1日には小高好雄が技官，八代保寿が事務官に任官，34年5月山口技官が処分掛に成

千葉演習林職員配置表

	教官	事務官	技官	東京大学 技術員	東京大学 技能員	定員外常勤		計
林務掛	1							1
事務分掛		3	1	1	2	2		9
処分掛		1	1					2
造林掛	1			1				2
土木掛			2	1				3
試験掛	1		1	3				5
標本館掛			1					1
調査掛			1	1				2
清澄作業所			3	2		4		9
郷台作業所			1	2		5		8
札幌作業所			1	2		4		7
中原試験地掛				1	1			2
計	3	4	12	14	3	15		51



瀬技官が清澄作業所主任に、石井技官が郷合作業所主任にそれぞれ配置替となった。同年5月加藤教官が北海道演習林に、若林教官が秩父演習林へ転出し、樹芸研究所より田中四郎技官、秩父演習林より阿部順教官が着任した。同年7月1日岩崎訂が技官に、同年9月に三枝博が技官に、同年10月永島一治が技官に、里見光一が事務官に昇格、同年12月高橋光枝が事務官に昇格、同月末今井教官が退職、山口技官が処分掛に昇格、35年4月名古屋大学農学部附属演習林より右田一雄技官が着任現在に至っている。

### C. 試験の概要

本演習林においては創設以来多数の試験が実行され、その結果が林業の進展に多くの貢献をなしてきたが、林業の技術面についての解明という施業にとくに密接な関係をもつ分野については幾分なおざりにされてきた感がないでもなかった。したがって昭和32年度より、今までの試験のほかに造林学に関する試験としては育苗方法、造林方法についての技術の検討、解明、確立を目的とした試験を実行してきた。育苗技術については床締め、播種、床替、施肥、除草、根切り、仮植、苗木の品質検査、造林技術については地拵え方法、植付時期、下刈時期および方法、造林機械の導入などについての検討に焦点をおいて試験を実行してきた。その結果、優良な苗木の生産が可能となり、造林地においては優秀な造林地が育成されるようになってきた。従来とかく施業から遊離しがちな試験を施業に密着させることによって試験結果がただちに実際の施業の成績に反響するように努力してきたことが、一步一步実を結んできている現状である。今後はこれらの試験を拡充し、さらに枝打、間伐などの技術的面についての検討をおこなうとともに、比較的遅れがちであった林業技術に対する林木の生理的方面からの理論的解析に努力する方針である。

育種については採穂園の整備、精英樹候補木からの採穂による増殖、アイグロマツによる造林試験、外国樹種についての造林試験などが実行されてきたが、昭和34年度以来各地産有名スギ品種の導入増殖、採穂林の拡充、精英樹候補木からの増殖などの事業とともに林木の花芽着生についての試験、スギの品種別の耐病虫害性、肥料に対する反応性についての試験、精英樹候補木の検定、あるいは採穂園、採種園の取扱い方に対する試験など、ただ単なる育種学という面からでなく広く造林学という立場からの検討を加えつつある。

また創設75周年記念事業として本沢林道、一杯水林道の周辺および武者土苗畑を中心とした一帯に広大な展示林の設置、拡充が計画され、すでに昭和35年度より実行に移されている。

### D. 施業の概要

昭和29年度を以て本演習林の第6施業期を終り昭和30年度より第7施業期に入った。

昭和30年5月に第7次経営案の決定を見たので、説明書より千葉演習林の現況および施業方針の概要を転記する。

1. 本演における地種別面積および経営案仕組表はつぎの通りである。

地 種 別 面 積 表

(昭和30年4月現在)

種 別	種 類	名 称	樹 種	輪 伐 期	面 積	摘 要
普通施業地 (普通林地)	小 計	喬林第一	スギ・ヒノキ	50年	636.27 ha	
		喬林第二	スギ・ヒノキ	80年	205.01	
		計			841.28	
		矯林	ザツ・カシ	25年	1,121.93	
		竹林			0.58	
					1,963.79	
特別施業地 (制限林地)	試 験 林 見 本 林 風 致 林 用 薪 炭 備 神 社 境 内 水 源 林 小 計		各 種		136.45	
			〃		36.85	
			〃		42.88	
			スギ・ヒノキ ザツ・カシ		3.65	
			各 種 スギ・モミ・ ヒノキ・マツ		0.59 0.88	
				221.30		
除 地	林業附帯地	苗 圃 建 物 敷 防 火 線 敷 小 計			2.90	
					2.06	
					2.81	
					7.77	
	雑 地	刈 上 場 水 道 田 水 路 敷 共 流 敷 小 通 計				11.61
					0.65	
					8.14	
					7.26	
					10.66	
					38.32	
	合 計				2,231.18	

經 営 案 仕 組 表

(自昭和30年 至昭和39年)

種 別	作 業 級	輪 伐 期 (回帰年)	面 積 (ha)	蓄 積 (m³)	年 伐 量	
					面 積 (ha)	材 積 (m³)
林 地	普通施業地	喬林第一	50年	632.27	主 間 16.55 54.34	4,140
		喬林第二	80年	205.01		1,904
		計		841.28		6,044
		矯林	25年	1,121.93		6,044
	竹林		0.58	4,450		
	計		1,963.79	251,524		10,494
	特別施業地		221.30	7,690	—	—
	除地		46.09		—	—
總 計			2,231.18	259,214	115.78	10,494

2. 喬林作業級は皆伐作業でスギ、ヒノキの用材生産を目的とし、その令級別面積蓄積はつぎの通りである。

喬林令級別面積蓄積表 (昭和30年4月現在)

	I (0~9)	II (10~19)	III (20~29)	IV (30~39)	V (40~49)	VI (50~59)	VII以上 (60以上)	計
面積 (ha)	18.47	39.86	127.84	154.36	307.56	175.72	17.47	841.28
蓄積 (m <sup>3</sup> )	—	958	14,294	27,764	88,505	53,252	5,757	190,530

また標準年伐面積および年伐量は主伐 16.55 ha, 4,140 m<sup>3</sup>, 間伐 54.34 ha, 1,904 m<sup>3</sup> である。

3. 矮林作業級は皆伐作業で主として製炭資材の生産を目的とし、その令級別面積蓄積はつぎの通りである。

矮林令級別面積蓄積表 (昭和30年4月現在)

	I (0~4)	II (5~9)	III (10~14)	IV (15~19)	V (20~24)	VI (25~29)	VII以上 (30以上)	計
面積 (ha)	209.29	140.04	101.86	107.39	292.16	168.51	98.99	1,118.24
蓄積 (m <sup>3</sup> )	1,323	—	117	3,741	14,260	9,581	6,210	35,236

また、標準年伐面積および年伐量はそれぞれ 44.89 ha, 3,035 m<sup>3</sup> でこのほかに前案より中林廃止の主旨による中林上木の伐採をおこなうがその年伐量は 1,366 m<sup>3</sup> である。

4. 前施業期末に主伐が開始され、それにとまって本沢、猪の川林道の拡張工事を開始したが何れも前施業期間中に完成するに至らなかったため、本期初頭においてこれら林道を完成し、同時に各種運材集材施設を充実して喬林の主伐に遺憾なきを期する。

上記の主旨に沿って、昭和30年度にスギ、ヒノキ喬林 14.66 ha, 2,874 m<sup>3</sup>, 昭和31年度に 29.70 ha, 5,060 m<sup>3</sup>, 昭和32年度に 19.20 ha, 4,155 m<sup>3</sup>, 昭和33年度に 22.24 ha, 2,976 m<sup>3</sup>, 昭和34年度に 14.48 ha, 3,153 m<sup>3</sup>, 昭和35年度に 14.53 ha, 2,741 m<sup>3</sup> の主伐を実施した。

造林事業においては、昭和30年度より実行した育苗および造林技術についての試験が実を結

主用樹種生産苗木

	昭和30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度
スギ	20,970 本	19,390 本	28,723 本	68,294 本	73,112 本	57,291 本
ヒノキ	16,390	7,490	18,460	18,844	24,780	51,863
マツ	590	2,345	3,060	5,451	7,462	22,673

造林面積

	昭和30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度
造林面積	7.90 ha	9.79 ha	21.22 ha	13.46 ha	27.51 ha	21.57 ha

び、施業面においてもこれら試験結果の利用によって、良苗の生産、優良造林地の育成が可能となり、演習林各地においてかなりの成果を収めつつある。しかしながら近來賃金の高騰と労働力不足によって人夫の雇用が思わしくなく、また ha 当りの植付本数の増大、下刈回数増加などによる労働量の1時的増大でますます労働力の不足を感じようになってきた。したがって今後はとくに良苗の促成生産、造林木の生産促進、造林作業の機械化によって、下刈、手入期間の短縮、造林作業の能率化を増進させる必要が生じてきたが、造林技術についての試験の進行にともなうて、かなり改善されるようになってきた。なお昭和30年度以来の主用造林樹種苗木の生産状況および造林面積は前表の通りである。

#### E. 本沢林道の改修

本沢林道は前報掲載後30年度末までに991.14mの拡張工事と自動車道終点より奥、馬の背歩道登口に至る1,400mの軌道敷設を終了し、演習林内の拡張工事は橋梁の補強工事を残して終了した。本沢林道拡張工事を完成するため、清澄県道と本沢林道を結ぶ坂本部落内の道路859mの拡張工事は、林内の林道拡張工事着工以来の懸案であったが、坂本部落との数度におよぶ交渉の結果、昭和30年2月に至り地元の了解を得て工事に着手し32年6月完了した。27年より開始された5カ年にわたる本沢林道拡張工事も、32年9月を以て完了し、本沢林道へのトラックの乗入れが実現出来た。

#### F. 猪の川林道の改修

君津郡杭木沢地先、県道より郷台に至る5,300mに亘る猪の川林道はその流域に85,196m<sup>3</sup>の立木蓄積を有し、昭和26年度より28年度に亘り亀山森林組合により奥地林道開発工事として巾3.5mに改修された。しかしながらその後手入れ不十分で欠壊箇所が多く、牛馬車の通行がかるうじて可能な程度であり、林道としての十分な機能を発揮出来ない状況であった。しかも本演習林にとってこれを巾4mのトラック道に拡張整備することは、永年の念願であったがついに昭和33年度より大々的に改修工事に着工し、年々別表の通り施工し、昭和35年度にはほぼ予定通り完了し、一応県道より郷台作業所下まで大型トラックの通行が可能になり、この林道沿線におい

猪の川林道改修工事経過

施行年度	工事種類	延長	工事費	1m当の単価	摘 要
33	林道工事	1,302.00	3,097,819	2,380	路幅拡張
33	橋 梁		18,385		材料代
34	林道工事	1,497.77	3,400,991	2,263	各所新営費 路幅拡張
34	橋 梁	55.00	599,009	10,891	各所新営費 路幅拡張
34	林道工事	4,300.00	177,247	18	路面工事
34	橋 梁	6.00	83,562	13,927	
35	林道工事	5,300.00	585,354	110	墜道拡張及び路面工事
35	橋 梁	32.00	356,464	11,140	
	計		8,318,831		

て昭和35年度に5,210m<sup>3</sup>の立木処分をなし、その材を現在トラックで搬出中である。しかし本林道の橋梁の内5カ所はすでに架替時期が到来しておる状況であるので早急に更新していく必要がある。

### G. 標本館の整備再開

千葉県演習林では古くから学術研究のために採集した資料をそのまま腊葉、液浸、円板などの標本として清澄作業所の標本館に陳列していたが、標本の増加と機能的な陳列をするため、昭和13年に標本館の内部改造に着手し、一時標本を倉庫に収納した。その後標本館の改装は完成したが、第二次大戦が激化し空襲などの危険も考えられたため、標本は倉庫に収められたままになっていた。

たまたま昭和28年5月に天皇陛下をお迎えした際、これら標本の全面的な手入を行った。その後渡辺林長を迎えて標本館再開の方針を決定し、昭和30年度以来標本の類別、整備、充実に努力するとともに視察者の観覧に供しているが、昭和36年度より創立75周年記念事業の一環として標本的価値の低いものを除き、新しいものを補充し、とくに林業技術面において参考となる資料および標本の充実を目標になお一層の努力を傾けつつある状況である。標本の中主なものはつぎの通りである。

1. 造林技術関係資料および標本
2. 育種関係資料および標本
3. 白炭および黒炭標本
4. 炭窯模型
5. 清澄地方民芸品
6. 材鑑
7. 動植物液浸標本
8. 岩石地質標本
9. 林木種子標本
10. 菌類標本
11. 腊葉標本

### H. 台風による災害

別表 昭和33年9月の台風被害状況

台風別	当日の状況	被害状況及び金額		
		建物施設関係	林	地 道
第 21 号	風速 25 m 前後雨量 33.9~800mm(場所により異なる) 風は強かったが雨は比較的少ない。海岸地帯では高潮が発生した。	天津派出所本館屋根50坪被害、天津硝子室倒壊1棟他天津官舎、清澄庁舎、標本館等屋根被害、電話線各所断線	天津構内見本園、本沢12林班 b, e 小班(約3.00 ha は改植の要あり)を始め各所に約1,500本の倒木折損木等被害を生ず	猪の川林道1カ所各歩道3カ所崩壊
復旧要求額 749,250円		536,250円	112,000円	101,000円
第 22 号	風速 15 m 前後雨量 151.0 ~ 250.0 mm (場所により異なる) 雨台風であり出水多く地盤がゆるみ地入り崩壊が多かった。	建物の損害は軽微であるが井戸、官舎敷地等施設に被害をうけた。 電話線各所断線	地入り各所 2,255m <sup>2</sup> 倒木、折損木等被害木多数	猪の川林道、折木沢橋、菅田沢橋、黒滝橋、鳥居沢橋、菅田沢軌道何れも流失または破損 石積9カ所 695 m <sup>3</sup> 崩壊13カ所 694 m <sup>3</sup> 荒澄、大仙場、林道各所路面流失、土砂堆積 本沢橋流失、追原橋流失、その他各林・歩道欠壊、土砂堆積等多数
復旧要求額 11,812,200		350,800	300,000	11,167,400

これに対し大蔵省財務部の実地検査が11月10日に実施され、原形復帰の立前から2,897,000円の災害復旧費が査定配布された。

昭和33年9月18日及び同月26日の2回に亘り相次いで台風第21号、第22号が来襲し本演創設以来大正6年9月30日の大暴風の被害に次ぐ災害を受けた。主なる被害を挙げれば前表の通りである。また35年8月20日に当地方において稀にみる豪雨の来襲によって別表の通り林道関係に大きな災害を受けた。

別表 土木関係被害状況 (35年8月20日の豪雨によるもの)  
(降雨量: 天津302.7 清澄360.0 札郷390.0 郷台310.4)

名 称	場 所	被 害		復旧工事費要求額			災害復旧費 配 付 額
		種 類	程 度				
坂本宿舍敷地	坂 本	護岸石垣流失	延長 10m 延長 27m	石 垣	35m <sup>2</sup>	3,200円	112,000
本沢林道	遠矢ヶ台	路肩欠壊	幅 12m 40m	石 垣	135m <sup>2</sup>	3,200	432,000
"	鍛冶坂(2カ所)	"	" 2m	"	140m <sup>2</sup>	3,200	448,000
"	小坪沢附近	崩 壊	40m <sup>3</sup>	取片付	40m <sup>3</sup>	200	8,000
"	全 線	敷砂利流失	3,500m 6m	路面手入	3,500m	30	105,000
荒樫間林道 大仙場	三号橋附近	路肩流失	1m	片軌道	10m	3,000	30,000
"	全 線	敷砂利流失	2,200m	路面手入	2,200m	30	66,000
大仙場間林道 濁川	墜道入口	崩 壊	300m <sup>3</sup>	取片付	300m <sup>3</sup>	250	75,000
"	全 線	敷砂利流失	1,500m	路面手入	1,500m	30	45,000
札郷林道	"	"	570m 12m	"	570m	50	28,500
猪の川林道	黒 滝	路肩欠壊	1.5m 20m	石 垣	36m <sup>2</sup>	3,200	115,200
"	柚 の 木	"	1.5m	"	50m <sup>2</sup>	3,200	160,000
"	各所 11カ所	崩 壊	300m <sup>3</sup> 32m	取片付	300m <sup>3</sup>	150	45,000
"	折木線 2カ所	路肩欠壊	1.2m	杭打盛土	32m	1,000	32,000
"	全 線	敷砂利流失	5,300m	路面手入	5,300m	50	265,000
計							1,966,700
							682,000

これに対し、11月24日大蔵省財務部の実地検査があり、その結果682,000円の災害復旧費が査定配布された。

### III. 北海道演習林

昭和29年以降に北海道演習林内で行なわれたことがらは以下の項目においてのべる如くであるが、あらかじめ記したいことは、試験研究の拡充、特に林木育種の研究が強化されたこと、経営においては昭和29年第15号台風による被害発生およびその後の風倒木の処理、また第8期施業案を編成し林分施業法の大規模実験に着手したことである。

昭和27年に北海道演習林の経営変革が計画され次の方針が立てられた。即ち、

1. 利用事業を縮少し育成林業に重点をおく。
2. 近代的育成林業にふさわしい試験研究を拡充する。
3. 地方林業に積極的に寄与するため演習林の門戸を開放する。

以上の方針が着々と具体化され、成果をおさめつつあるが、研究費、経営実験費の不足のため今後の発展があやぶまれている。

#### A. 15号台風被害の発生とその処理

昭和29年9月26日、本道を襲った15号台風は、一方においては青函連絡船洞爺丸のほか世界海難史上特筆すべき遭難をひきおこすとともに、本道森林に対しても風倒木8000万石におよ



写真 1. 最も被害をうけた丸山周辺の天然林



写真 2. ヨーロッパトウヒ造林地の被害

ぶ被害をあたえた。本演習林においても、全林地の南へ西斜面を主に団状、散点状に約110万石に達する被害を受けた。他に電話線および建物にも被害を受けた。

これが被害処理のため、施設に対しては国立文教施設災害復旧費の配布を受け29~30年にわたりこれを復旧し、立木被害に対しては風害調

査費および風害処理費の配布を受け 29～32 年にわたってこの処理を行なった。30 年風倒木に寄生し急速に増加したヤツバキタイムシほかの穿孔虫類は、薬剤の散布その他の防除にもかかわらず、31年風倒被害地周辺の生立木に被害を及ぼし、これが全林に蔓延の徴候を見たため、冬期これら被害木を末木枝条焼却、伐根剝皮を条件に立木払下を行なったので大被害発生を防ぎ得た。

次に年度別風倒木および虫害木の処理数量を掲げる。

事業区別 種類別 処理区 処理年度	東 山				麓 郷			
	風 倒 木		虫 害 木		風 倒 木		虫 害 木	
	官斫資材	立木売払	官斫資材	立木売払	官斫資材	立木売払	官斫資材	立木売払
29	39,854	139,104	—	—	16,372	70,430	—	—
30	68,155	212,924	—	—	—	90,957	—	—
31	46,078	143,012	—	40,392	—	51,000	—	23,446
32	—	27,788	—	21,042	—	14,451	—	11,622
計	1540,87	522,828	—	61,434	16,372	226,838	—	35,068
	676,915		61,434		243,210		35,068	

山 部				計				計
風 倒 木		虫 害 木		風 倒 木		虫 害 木		
官斫資材	立木売払	官斫資材	立木売払	官斫資材	立木資払	官斫資材	立木売払	
—	43,835	—	—	56,226	253,370	—	—	309,596
—	74,290	—	—	68,155	378,171	—	—	446,326
—	51,414	—	8,673	46,078	245,426	—	72,511	364,015
—	7,922	—	2,318	—	50,161	—	34,982	85,143
—	177,462	—	10,991	170,459	927,128	—	107,493	1,205,080
177,461		10,991		1,097,587		107,493		

数字は石数

## B. 農地の開放

本林の農地はいわゆる林内植民の研究を目的として設定され、明治43年から開拓をはじめ終戦以前に面積約5,200町歩、戸数約1,000戸に達していた。

そのあいだ林業経営と農業経営との有機的関連において研究成果を発表し、いろいろ貢献をしてきたのであるが、戦後農地改革の線にそって、昭和24年第一次として東山地区2,600町歩を開放し自作農を創設したことは既報(演習林10号別冊、昭和30年1月)のとおりである。

その後昭和30年4月第二次として麓郷地区約1,800町歩、昭和31年12月川松沢地区約98町



歩を住民の希望により開放し自作農を創設した。したがって現在林内植民は東山奥地（三ノ山方面）約700町歩、戸数97戸をのこす小規模のものとなった。

### C. 皇太子殿下の御来演

皇太子殿下は昭和33年6月23日より18日間にわたり北海道内各地を御視察されたが、御日程の第9日目にあたる7月1日北海道演習林においてになり、樹木園とその周辺を約1時間10分にわたりご見学された。

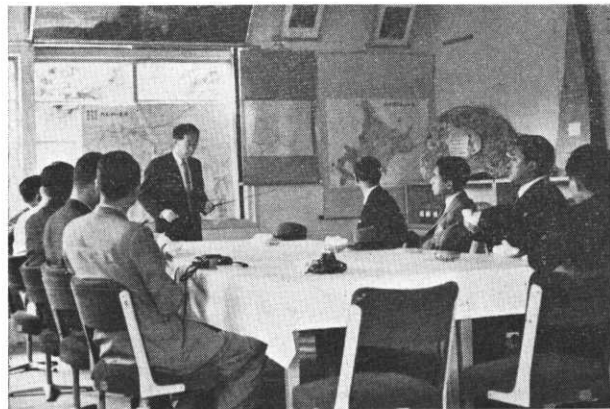


写真 3. 高橋林長より演習林の概要を聞かれる皇太子殿下

における造林上の特殊性などについて御説明申し上げた。

その後、巨大木の並んでいる標本室、精英樹（カラマツ類、トドマツ、ストロブマツ、シラカバ）の接木苗畑、導入ポプラ品種の育成苗畑を御見学され、とくに北海道らしい好印象をあたえたシラカバ並木をぬけ、施業苗畑においてになられた。主要樹種の根系を調査しているところでは、徹底したご観察をなされた。

記念植樹をお願い申上げたところ気軽にお受けされて、トドマツ1株をお植えになられ、引きつづいてオープンカーに乗車、外国樹種見本林を車上より見学され、オンコ沢ストロブマツ造林地に下車し、林内をややお歩きになってから富良野町に向かわれた。

殿下は御来道いらい本道の樹木にとくに興味をもたれ、ご案内役の田中知事にいろいろ質問され知識を広められたが、未だ疑問な点が多かったらしく、演習林にご到着してからお帰りになるまで数多くの御質問があった。なかんづくシラカンバとウダイカンバの

当日は快晴にめぐまれ、本部演習林長代理として千葉演習林長渡辺教授が来演し、ご先導者兼ご説明役は北海道演習林長高橋教授が担当した。

殿下は16時2分山部駅着の列車にて御到着、ただちに自動車にて樹木園にお成り、ご休けい所にあてた苗圃事務室にて、高橋林長より演習林の概況、林木育種の諸問題、本道



写真 4. 苗木の根成の状態を御覧になる皇太子殿下

垂直的分布，シナノキとオオバボダイジュの区別，エゾマツとトドマツの区別，ヨーロッパトウヒとドイツトウヒは同じものか，接木の台木は何年生が適当か，シラカバ，アカシヤ，アカマツは挿木ができるか，イタリーポプラは南方型か，同じ樹種のなかでもウサギの食害を受ける個体と受けない個体があるものかなどと，科学者皇太子らしい，かなり専門的なものであった。

#### D. 創立 60 周年記念式典の挙行政

明治 32 年この地に演習林を創設して以来 60 年，その間いくたの変遷をけいかして，今日のごときやや整備された演習林の姿となった。この姿を祝福すると共に，永年にわたり御指導，御協力をいただいた諸先輩ならびに関係者と関係機関に深甚なる謝意を表わし，あわせて今後の発展を期する意味において，本学永田演習林長の臨席を得て昭和 33 年 8 月 26 日山部において記念式典を行なった。来賓として道知事，北海道大学学長をはじめ道内林業関係諸官公庁，林業関係団体，報道機関，地元協力者の代表など約 400 名を迎え，意義深い記念式典を終了した。当日の式典における高橋林長の式辞は末記のとほり。

なお，同席上において永田演習林長より永年にわたる地元協力者に感謝状を贈呈し，また演習林に 30 年以上勤務の方々に永年勤続者として表彰状の授与があった。



写真 5. 北海道演習林創立 60 周年記念式典における永田演習林長の挨拶

#### 北海道演習林六十年の歩み (高橋林長の式辞)

本日ここに東京大学北海道演習林の 60 周年の記念式典をむかえ，来賓各位多数の御臨席のもとに盛大に行ない得ますことは，私ども職員の甚だ光栄とするところであります。

本林の創設は明治 32 年農科大学試験地として北海道庁より約 2 万 4 千町歩の森林が文部省に移管編入されたときにはじまります。これに先立ち林内の実地踏査をなし面積，箇所等の選定を行い演習林設置の基礎をきずかれたのは故本多静六教授であります。

その後さらに道庁より隣接地の引継をうけ，合せて 3 万余町歩を所管することになりました。明治 38 年初代主任三浦常雄助手着任するにおよび，地元労力をうる事が至難であったため林

内植民による「林業経営意見書」を本学に提出し、同40年第一期施業案の編成および農地貸下規程の確立を契機として、いよいよ本格的施業が開始されるにいたりました。しかるに44年、林外より発生せる山火は本林に延焼し、原生林3千6百町歩、人工造林地81町歩を失う災害にそうぐうし、経営に変革をきたすの止むなきにいたりました。

この山火を機として、林内植民の価値が高まり、入植は急速に拡張され、一方山火跡地には外国樹種を主体とする大面積の人工造林が実行にうつされました。

大正末期より戦前までは森林軌道、林道、発電所、製材実験室、通信設備などの経営施設が整備拡充され、施業は着々進捗するにいたりました。

戦時中は創業の苦難に劣らない経営の困難な時代でありましたが、これらの経営施設を活用して年々よくその割当軍需材、民需材を生産したが、天然林や貴重な人工造林地を乱伐することなくその大部分を保全しえたことは幸でありました。

終戦後5千町歩におよぶ林内植民地は農地改革の線にそってその大部分を開放し、一方戦災者、外地引揚者などの収容のため平沢、川松沢地区の森林1,300町歩を開拓地として提供いたしましたのであります。

戦後しばらく経営上の空白時代をむかえましたが、27年利用事業を縮小し育成林業に重点をおき、試験研究の拡充を主眼とする経営変革案を立て、これに基いて本林の経営変革が急ピッチに行われた。即ち50kmにおよんだ森林軌道を撤廃し機動性のあるトラック林道に切り替え、製材実験室および発電所を閉鎖し、苗畑の改善、造林、試験研究の拡充に努めました。

然るに29年15号台風は本林にも120万石の被害をあたえ、せっかく軌道にのろうとした経営変革も風害処理のため停滞の止むなきにいたりました。

この間にも林木育種の研究は着々と進展し、現況において資材の交換は欧米13カ国におよび温室や育種実験室も完成され、また森林土壌や森林病虫害に関する研究施設の態勢も整い、一方苗畑改善の五カ年計画を終了し、更に本年より第8期の新しい施業案が編成され、育成林業を合理的にすすめる素地が出来あがりました。

これひとえに60年の永きはわたった先輩各位の努力と、地元民および関係機関の絶大な協力のおかげであり深く感謝の意を表明します。もとより演習林は教官の研究、学生の実習の場でありますが、今日地方林業との関連においても大学演習林の任務とその重要性はかつてないほど増大したので、模範的近代林業の確立のために今後とも一層努力をかたむけたいと思います。

#### E. 森林土壌調査の完成

北海道の森林土壌についての研究(朝日教官担当)が、本演を主なるサンプリング地域として行なわれ、独自の森林土壌の分類を確立した。その方式を系列的に略記すればつぎのようになる。

成帯的土壌群——山岳黒色土壌、ポズゾル、暗色森林土壌(弱度のポズゾル化土壌)、

## 褐色森林土壌

局所土壌群——低湿黒色森林土壌，グライ森林土壌，岩屑森林土壌

昭和29年より，上記の土壌型分類にもとづく森林土壌調査が全林地（22,000 ha）について行なわれ，同31年完了した。

### F. 第8期施業案の編成

本演は昭和33年に8回目の施業案の編成を行なった。新しい施業案改訂の骨子を要約すればつぎのとおりである。

#### 1. 施業列区制度を確立したこと

本演はいままで全林を4つの作業級にわけて施業していたが，定期的に順序だった施業をすることがむずかしく，経営上多くの混乱，停滞をまねいた。そこで今期より3事業区ごとに施業列区をもうけ，列区の担当係を固定して施業する制度をとった。この新制度は32年予備的に実施して以来4年をけいしかしたが，担当係の新制度にたいする認識がふかまるとともに，除々に効果をあらわしている。

#### 2. 新しい天然林施業法の採用

いままでは規定された伐採率を，一律にどの林地にも適用する方法をとってきたが，今期より天然林の林相を撫育，補植，皆伐の3つに区分し，それぞれの林況に応じた施業を行なう方式（林分施業法）をとることにした。

撫育林分は後継樹の多い択伐林型を呈する林分で，施業は一定の年伐量の範囲内で伐採するが，伐採の対象は現在主として成育不良木，樹形のわるい木，針葉後継樹を被圧している広葉樹等におかれ，林相を若がえらして将来生産性の高い林分を仕立てることを目標としている。伐採後大径木の周囲とか，孔状地を整理してトドマツなどの大苗をうえ，林地の完全利用をはかっている。

補植林分というのは比較的疎林であるが，なお将来性のある林木がかなりあって皆伐する必要はなく，ただ不良木の多いところを不定型群状に伐採して積極的に補植する林分である。本演には風害その他の原因によってできた補植を要する林地もかなりあって，従来このようなところはそのまま放置されていたのであるが，今期より積極的に林を育成することにした。

皆伐林分は沢ぞいで蓄積すくなく，立木密度の低いところや，火災跡二次林のうち不良林相を呈するところなどで，これらを皆伐してトドマツ，ストローブマツ，グイマツ，アカエゾマツ，カバ，ハンノキ類などを適所に植栽している。

以上のような積極的育成策を採用することにより，天然林を若がえらして成長量の増大をはかり，かつ価値の高い優良木の量産を期待することが可能と思われる。

### G. 造林事業

#### 1. 苗畑

山部にある第1苗畑（5 ha）は苗木生産の主体をなしており、すでに苗畑改善5カ年計画も終了し、灌水設備を行なったほか苗木生産期間の短縮（成長の促進と夏床替の採用）、土壌管理、施肥法の問題などについて実際に苗畑を利用して研究している。

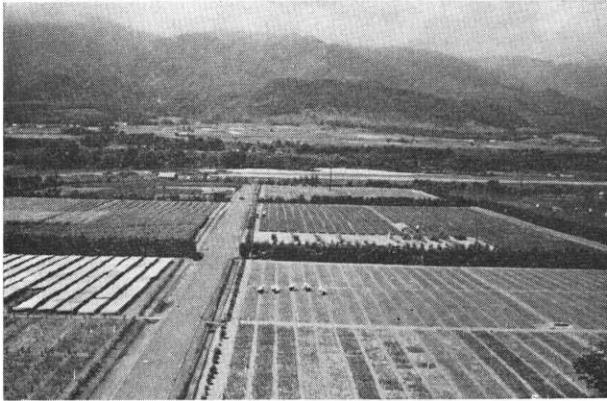


写真 6. 育林の根幹をなす山部第1苗畑

養成苗木の種類は郷土の針・広葉樹のほか、外来、外国樹種など40数種におよび、年間30数万本の山出苗を生産しているが、すべて成林が確実にできるようなすぐれた大苗をつくることに主眼をおいている。

なお東山に第2（4 ha）、麓郷に第3（1 ha）の苗畑があり、いずれも山出用床替苗畑である。

また天然林の補助造林のために昭和

33年から、各所に移動苗畑の設置をいそいでいる。

## 2. 天然林施業

北海道の国有林においては、昭和33年度から経営の合理化計画にもとづいた拡大造林の実行にはいった。しかしながら北海道の造林は本州の造林とことなるとして土地条件、気象条件、諸害などの面でいろいろの障害があるので、拡大造林を成功させるためには幾多の困難と障害が予想される。



写真 7. 伐根造林

北海道演習林においては森林の現況から、大面積の皆伐人工造林の拡大を図るよりも、むしろ天然更新の作業を主体とし、天然林の積極的撫育、および補助造林を全体の80~85%に適用することとした。すなわち林分施



写真 8. 孔状地植栽

業法により、その林分に最も適した択伐、前更、孔状皆伐などの作業種を適宜とりいれ、撫育林分には稚樹の刈出、蔓切、除伐が行なわれ、補植林分には孔状地植栽や伐根造林、皆伐林分には積極的に植栽する。

伐根造林には伐根周囲に3～4本ずつ暗さに耐え、ネズミ・ウサギに抵抗力の高いトドマツ、エゾマツ、ストロブマツなどの大苗を立地に応じて植栽し、下刈などの手入れを簡略して成林させ、孔状地や疎林には整理伐を行なって普通の植えかたをするが、光も相当はいるのでトドマツエゾマツ、ストロブマツのほかにチョウセンカラマツ、グイマツなどもとりいれている。これらは事業的には昭和33年度から実行にうつされたが、活着は100%にちかく、成長状態も良好である。

### 3. 皆伐人工造林

天然林の撫育、補助造林が有効であるとしても、皆伐人工造林によらなければ更新、改良のできないところも多い。

北海道演習林の皆伐人工造林は全林の15～20%に適用され、試験、実験的植栽を主体に毎年20～30 ha ずつ行なわれている。予算上の制約をうけこれ以上の造林は現実に不能である。

新植には研究のため数多くの樹種を採用しているが、事業としてはネズミ、ウサギの害にかからないものを重点とし、早く笹の高さをこえるような大苗を用いている。

これらのことからトドマツ、エゾマツの郷土樹種については、いずれも育種と関連して早生型の発見につとめ、また養苗管理で山出も40 cm以上の高さにする。

また近代化学工業と関連してカラマツ、チョウセンカラマツ、グイマツ、ストロブマツ、カバ類、ハンノキ類、ポプラ類等を立地に応じて適宜採用している。

植栽にあたっては皆伐、全刈地拵をするが、大面積の単一樹種の造林をさけ、風害、病虫害に耐えるよう小群団状(1～5 ha)に植栽する。

創立以来昭和35年末までの造林面積は1,772 haに達するが、野鼠、山火等の被害、手入れ不十分、樹種選定のあやまりなどの諸原因によって消滅したり、広葉樹に圧倒されて、現在の成林面積は873 haで造林の困難さをものがたっている。但し近年の造林はほとんど成功している。

近年の樹種別造林面積は別表のとおりである。

## 造林地面積 (昭和29年度～昭和35年度)

### 1. 皆伐人工造林地

### 2. 天然林補助造林

樹種	面積	樹種	面積	樹種	面積
	ha		ha		ha
トドマツ	64.06	ダケカンバ	0.3	トドマツ	93.16
エゾマツ	1.2	ヤチタモ	8.6	ストロブマツ	40.58
ブカエゾ	2.13	キハダ	0.1	アカエゾ	0.27
ストロブマツ	72.24	シラカンバ	12.14	チョウセンカラマツ	3.33

カラマツ	48.91	ウダイカンバ	7.93	グイマツ	3.4
チョウセンカラマツ	18.17	巨大ポプラ	2.1	ヨーロッパトウヒ	1.8
グイマツ	7.03	ネグンドカエデ	0.6	各種混	0.43
ヨーロッパトウヒ	7.22	ケヤマハンノキ	1.2	針葉樹小計	142.97
ヨーロッパアカマツ	8.93	アメリカシオジ	0.2	ウダイカンバ	0.5
ヒダカゴヨウ	1.0	ヤチハンノキ	0.15	シラカンバ	2.05
バンクシヤナマツ	1.0	ドロノキ	1.4	ケヤマハンノキ	1.52
リギタマツ	0.45	アメリカカンパ類	0.9	ヤチタモ	2.2
トドマツ	3.12	ククルミヤ	4.8	ドロノキ	0.8
ヨーロッパトウヒ	13.04	ニセアカシヤ		広葉樹小計	7.07
トドマツ	13.04			合 計	150.04
カラマツ	1.7	広葉樹小計	40.42		
グイマツ	3.83				
トドマツ	3.83				
カラマツ	7.6	合 計	308.45		
ストローブマツ	7.6				
ストローブマツ	7.6				
カラマツ	6.4				
各種	6.4				
針葉樹小計	268.03				

## H. 野鼠の異常発生とその被害

昭和34年度は日本全土にわたり野鼠大発生がおきた注目すべき年であるが、北海道における異常発生は近年まれな激増を示し、35年春の被害調査によれば、その被害面積は約11万 ha 被害本数約5,860万本、被害損失額約10億円に達し、北海道林力増強計画遂行に重大なる影響をおよぼすにいたった。



写真 9. 造林地における野ネズミの被害状況

当演における被害は下表のとおりである。

樹 種	被害面積	被害本数	損害見込額	備 考	樹 種	被害面積	被害本数	損害見込額
	ha	本	円			ha	本	円
カラマツ	29.3	7,846	153,000	人工林の中でも、ストローブマツ、グイマツ、トウヒ、トドマツ、ウダイカンバ、ヤチタモの79.2 ha は防除が出来なかった。天然林内のストローブマツ、チョウセンカラマツ、グイマツ、トドマツ、シラカンバ、ウダイカンバ、ヤチタモ、ケヤマハンノキ、エゾマツ、アカエゾ等補助造林は一切防除出来なかった。	エゾマツ	0.2	342	5,000
トドマツ	6.4	1,271	22,000		アカエゾマツ	0.2	208	3,000
チョウセンカラマツ	14.7	10,683	173,000		ウダイカンバ	1.6	930	16,000
ストローブマツ	45.1	39,704	828,000		シラカンバ	2.0	430	6,000
バンクシヤナマツ	1.0	300	5,000		巨大ポプラ	2.0	200	4,000
ヨーロッパトウヒ	8.2	15,124	363,000		ヤチタモ	5.3	11,980	258,000
ヨーロッパアカマツ	3.7	1,550	47,000		ケヤマハンノキ	2.2	659	8,000
グイマツ	3.5	2,320	37,000		計	125.4	93,574	1,928,000

野鼠異常発生がおこるや、官民一体となった北海道野鼠防除緊急対策協議会が設置され、とく

に35年度において予算措置、防除等が強力に行なわれた。

当演においても積極的に防除につとめた結果、36年度春融雪直後の調査では各所とも被害をほとんどみない現況にある。

## I. 土木施設

本演の施設は創設から終戦時までは概して利用土木事業に関するものが主とされていたが、最近においては施業計画の変革に伴ない、これに即応して利用事業施設の改廃が行われた。まず森林軌道の敷設は大正14年にはじまり最盛期においては作業線を含め50kmに達し、年間20万石におよぶ造材木を輸送した。戦後トラック運送の急速な発達により、当演のごとき至便の地形においては軌道輸送は不利と考えこれを撤廃した。今後は林道網の開発により、最寄山土場より直接需要地にいたる、自動車輸送に切り替えることに着手した。つぎに製材実験室(年間3万石製材可能)および発電所を閉鎖し、試験研究および育成林業の拡充に経費をふりむけた。

新らしく施設された主なものは次の通りである。

### 1. 試験研究施設

工 事 名	施工年度	建坪	工 事 概 要	総 工 費 円	摘 要
試験研究用電力設備	31		三相交流 3,300KW 自家受電 50KW	425,000	
温室新営	32	30.00	古軌条工作鉄骨組軒高 2.40M 15.00坪	1,350,000	2棟
温室煖房施設	32		温水煖房前田 4M-9 配管 1.0式		
煖房室及渡廊下新営	32	13.50	煖房室ブロック平家建 5.0坪廊下木造平屋建	2,540,000	
標本置場模様替	33	27.00	木造中二階建外部フレキシブルシート張	489,000	旧畜舎
林木育種実験室新営	33	68.04	ブロック平家外部防水モルタル塗	4,102,000	煖房増設
計				8,906,000	

### 2. 経営施設

(イ) 土木施設: 昭和31年度で全線の軌条撤収を終わり、昭和30年8月にD50型アングラーを購入、機械力による林道(簡易車道)網の拡充につとめ、既に施工したものは次の通りである。

#### i 簡易車道 (幅員 4.5~6.0m)

名 称	新設距離	年 度	総 工 費 円
岩魚沢車道	5,652 <sup>m</sup>	29. 30	2,265,000 <sup>円</sup>
事業区界車道	11,080	30. 31	1,684,000
東山本流林道	7,120	32. 33. 35	3,303,000
99林班林道	1,088	31	387,000
山部オノコ沢越林道	6,630	31. 35	358,977
老節布林道	2,312	32	221,000
中部川向林道	3,625	34. 35	477,870
計	37,507		8,696,847

#### ii 歩道: 林内歩道に関して

は既設のものに加うるに15号台風による風虫害木整理のため造られた造林木鉋出道に補修手入を行ない、林道網の強化をはかっている。総延長176,600mである。

iii 専用電話: 通信連絡のための専用電話の改良を行ない、交換器1台、電話機34台を備え



特に電柱は森林古軌条を工作利用した。鉄柱 946 本，総延長 42,600m におよんでいる。山火危険期間には必要箇所に随時電話の仮設ができる。

iv 機動力：作業能率向上を期しオートバイ 15 台，乗用車（マーキュリー）1 台，乗用兼用トラック 1 台，トラック 1 台，乗用車（キャリアー及びジープ）各 1 台を備えている。

(ロ) 建造物：経営合理化のための建造物の内容は次のように変化した。

種 類	名 種	建 坪	年 度	
撤 去 した も の	西達布機関庫	28.00	33	
	発 電 所	27.00	36	
	機 関 車 置 場	10.00	36	
	機 重 機 置 場	24.00	36	
	ト ロ リ ー 置 場	69.00	36	
	製材実験事務室	15.00	36	
	製 品 置 場	45.00	36	
	同 上 麓 郷	15.00	36	
	物 置	27.00	36	
	使用休止せるもの	製材実験室	140.00	31
	鉄 工 作 場	26.00	34	
移 転 改 築 せ る も の	川松沢調査小屋	13.50	29	15号台風倒壊災害復旧
	麓 郷 車 庫	24.00	29	
	検 収 所	15.00	34	
	西達布作業所	79.00	32	老朽化建築のため改修

い) その他：昭和 27 年 3 月十勝沖地震による地下水の断水により年々水量が減少し，西達布作業所の庁舎および官舎 12 棟（80人）が，33年 11 月に到り全く断水されたので，本演より予算の増額がみとめられ，作業所裏約 770m の地点の湧水を利用して給水工事を完了した。

奥地林の開発強化にともなう木材輸送，造林，調査などの諸作業に必要な林道開設がなされたが，予算額の削減で敷砂利が不十分なため，充分所期の目的を達成し得ない実情である。こんご砂利敷が，とくに重要である。

## J. 林木育種試験

育種試験は 1952 年 8 月，スエーデンのリンクスト教授の来演をけいきとして開始され，1953 年 12 月スエーデン，エケブの林木育種研究所長ジョンソン博士から林木育種の協同実験の申し入れを受け，その後，当演は森林植物帯の関係から海外より育種資材の交換要請をひんばんにうけるようになった。1956年に温室 2 棟，1958年に林木育種実験室が樹木園内に新設されてから育種研究も軌道に乗り，この間に以下述べるような業務がなされた。（担当，高橋，功力，倉橋）

### 1. 育種のすすめ方

近代木材化学工業の進展を念頭におき，北海道の林業経営にてきする林木の優良品種をできるかぎり早目に造成することを目標とする。北海道の林業経営における諸害のうち笹の害，鼠の害，霜の害などが最も大きい。一方，本道にはやせ地に適する有用樹種がすくない。したが

ってこれらの諸害に抵抗力の強いもの、またはやせ地に適するものを数多くつくる必要がある。そのため選抜育種、交雑育種、導入育種を主とし、しかもある程度量も多く取り扱い、早期に目的とするものを造成し、実際林業にすみやかに役立たせることにつとめる。

これを具体的にいえば、早生型トドマツ、エゾマツの発見（早く笹の高さをぬけ出して30~40年で伐期のくるようなもの）、成長が早くて鼠害につよいカラマツ、さらにやせ地に適するモミ類マツ類、成長の速いカンバ、ポプラ、ハンノキ類などの品種改良を実際林業と関連して研究する。もちろん実地に応用されるものは、当然病虫害の抵抗性のたかいものであることの検定が必要である。

## 2. 試験の内容

(イ) 選抜育種：演習林で精英樹候補木（変異個体を含む）を選抜する。1960年12月までに演習林内より選抜した数は針・広あわせて168個体である。さらに海外ならびに本州高山地帯および道内各地より精英樹や変異個体の穂木をあつめているが、その個体数は554である。これらの個体について成長、開花、結実状況、其の他の諸特性を検定する。

(ロ) 交雑育種：成長の速い耐鼠性カラマツ品種の育成を目的としてグイマツとニホンカラマツ、チョウセンカラマツとニホンカラマツをできるだけ多量に交雑し、そのF<sub>1</sub>を育苗し、山地にその試植林を設定した。またこれらのF<sub>1</sub>は実験室内および野外において耐鼠性の検定が行なわれ、好結果が得られた。またポプラ類、カンバ類、五葉松類についても交雑を実施した。ポプラ類は山地造林用の品種改良を主眼とし温室内交配室で2~3月に行ない、他は5~6月、野外の植栽木について行なった。すでに育成されたポプラ類のF<sub>1</sub>種苗は各種くみあわせて42組、約3万本に達した。五葉松類の交雑はストロブマツを中心に、発疹さび病に抵抗性のある品種を造成することをねらいとしている。

(ハ) 導入育種：i) 導入資材；海外より導入した育種資材は産地、系統数を含めて種子250、穂木191（穂木のうちポプラは118で、半数は猪熊教授のあっせんによる）、花粉13、計454におよび、さらに本州高山地帯より導入したものは種子79、穂木116、花粉4、計199、合計653に達している（1952・5より1961・3まで）。導入と同時に育種資材の交換もさかんになり、1952年より1961年3月までに海外に送った材料は種子240点、穂木70点、花粉24点、根部1点、樹脂1点、計336点におよんでいる（同じ材料を数カ所の研究所に送った場合などもあるので点と呼

個	所	試 験 林 名	面 積	植栽年度	植 栽 樹 種
72	林 班	老節布導入樹種試験林	22.50ha	1958	カラマツ、ハンノキ属
	"	"	6.00	1959	シラカンバ属
	"	"	7.20	1960	マツ属
西 作 業 所 上		東山導入樹種試験林	5.77	1959	マツ、モミ、トーヒ、シラカンバ属
18	林 班	ポプラ導入試験林	4.79	~1961 1961	ポプラ F <sub>1</sub> 、ドロノキ、チョウセンヤマナラシ、イタリヤ改良系

称する)。海外との資材の交換先は欧、米、アジアを含めて 15 カ国、85カ所におよんでいる。

ii) 導入樹種試験林の設定; 導入種は育種実験圃場で育苗し、下記クローン集植所に植栽のほか、試験林として 1958・5 より次の通りの植栽をはじめた。

(一) 採種園: 次の通りの採種園が設定された

造成箇所	樹種	年度	面積 ha	クローン 数	本数	備考
オンコ沢入口	グイマツ	1956	0.22	9	121	
東山	ストロブマツ	1957	0.31	9	189	
老節布	シラカンバ	1959	0.49	9	121	
平沢1区	ニホンカラマツ	1959	0.36	49	196	
〃 2 〃	チョウセンカラマツ	1959	0.36	9	121	
〃 3 〃	グイマツ及びニホンカラマツ	1959	0.36	64	121	F <sub>1</sub> 造成
平沢6区	グイマツ及びニホンカラマツ	1959	0.36	64	121	F <sub>1</sub> 造成
〃 8 〃	グイマツ	1959	0.36	16	441	
〃 9 〃	ストロブマツ	1959	0.36	16	121	
老節布	トドマツ	1960	1.00	16	848	
三ノ山	ストロブマツ	1960	0.80	16	758	
平沢	チョウセンカラマツ及びニホンカラマツ	1960	0.36	18	121	F <sub>1</sub> 造成
〃	〃	1960	0.36	18	121	〃
東山	グイマツ	1961	*1.15	9	329	〃
〃	チョウセンカラマツ	1961	*1.20	9	208	〃
計			8.05		3,937	

1. F<sub>1</sub> 造成のためニホンカラマツ約45年生林内に植栽した。(花粉源としてニホンカラマツ)

(二) クローン集植所: i) ポブラクローン集植所; 昭和30年5月設定, クローン数 98, 面積 6.14 ha.

ii) 主要針・広葉樹クローン集植所

属	種数	産地 クローン数	本数	面積 ha
モミ	10	107	428	0.535
マツ	17	54	216	0.270
トウヒ	10	42	168	0.210
カラマツ	8	303	1,208	1.515
シラカンバ	2	25	100	0.125
ハンノキ	1	8	32	0.040
計	48	539	2,152	2.695

## K. サシキに関する生理化学試験

発根困難な精英樹の無性繁殖は、林木育種において、今後ますます重要な問題であり、これについて次のような生理化学的研究を行っているが、もちろん一般サシキ苗の生産に関係する基本的研究も含まれている。

### 1. サシホに対する成長ホルモンの供給

法: サシホの末口からの成長ホルモン供給は、従来の元口からの供給より、年間各季節を通じて、一般に発根に良結果を与えること、また最近元口の髓部分を除去し、これに成長ホルモンを挿入する方法が更に優れた結果を示すことを見出し、現在これらの追試を行なっている。

2. 化学試薬による発展促進: 従来この方面にほとんど応用されていなかった数十種の化学試薬を用いてサシホの活着試験を行ない、著効あるもの十数種を見出し、確認試験を続行中であ

る。

3. サシホの活着の良否を化学的に予知することについて：化学的に確認された成長阻害物質（クロロゲン酸、カフェイン酸等）の呈色反応を利用して、十数種の樹種のサシホ切片を検定すると同時に、これらの発根状態を観察し、両結果の間に良い相関が認められたので、この関係からサシホの活着を予知、選別して、結局発根率を高める研究を行なっている。（担当 飯塚）

#### L. 森林土壌林地肥培試験

現在行なわれている主なる試験項目はつぎのとおりである。

##### 1. 北海道における造林樹種の適地に関する研究

トドマツ、信州カラマツ、ヨーロッパトウヒ、ストロブマツなどの道内における造林地について土壌調査、土壌試料の実験を行ない、土壌の性質と林木の成長との関係を検討している。

##### 2. 林地肥培の基礎的研究

昭和32年より林地肥培の研究を本格的にはじめ、トドマツ、信州カラマツ、ストロブマツ、ヨーロッパトウヒ、シラカバ、マカバ、ドロノキ、改良ポプラ類などの施肥試験を行なっている。肥培技術の基礎的問題に主力をそそいでおり、現在まで設定された試験地は10カ所、24試験区、6 haにおよんでいる。

##### 3. 苗畑の合理的施肥法に関する研究

いままで苗畑の施肥は科学的資料のうらづけなしに経験的に行こなわれてきたので、養苗技術の発展がはばまれていた。すなわち施肥技術の確立が基本問題である。このため現在苗木の栄養分吸収機構について検討している。（担当 朝日）

#### M. 森林動物試験

昭和29年の15号台風にともない、各種の針葉樹に穿孔虫が大発生し、立木に激害を与えた。その間、主として外来針葉樹の穿孔虫による立木被害を調査、同時に主要穿孔虫の生態を観察した。調査樹種はドイツトウヒ、ヨーロッパアカマツ、ストロブマツ、チョセンゴヨウマツ、ダグラスファー、コンコロールモミなどで、重要害虫としてヤツパキクイ、トドマツキクイ、カラマツコキクイ、ジョウザンコキクイ、ホンガタキクイ、セイリンドウキクイ、マツキボシなどが調べられた。また、ストロブマツ苗にたいするマツキボシゾウの加害性が実験によって調べられた。

昭和31年以降、ポプラの害虫の形態、生活史および群集生態が研究されている。

さらに、各種針葉樹の耐鼠性に関する実験が続けられており、結果の一部は中間発表された。すなわち、カラマツ類では、グイマツはもっとも耐鼠性が高く、チョウセンカラマツ、アメリカカラマツもかなりすぐれた耐鼠性を示した。また、グイマツを片親にしたカラマツ類の雑種  $F_1$  はいずれも高い耐鼠性を示している。マツ類では、二葉松の系統は一般にネズミに弱い、五葉松の系統はかなり強い。（担当 西口）

## N. 森林病理試験

本試験は1958年(昭和33年)に開始された。前述の如く本演習林には古くから各種の外国造林樹種が植栽されており、近年とくに林木育種関係の一環としてその拡充計画が実行されつつある。

本邦のクリの胴枯病がアメリカのクりに大害を与えた例より見て、外国樹種は本邦の病原菌に対して抵抗力を持っているか否かという点で、充分なる注意を必要としている。したがって本試験研究の主題を外国樹種の病害研究としている。

外国樹種の病害の一例として *Pinus strobus* に見出された葉さび病がある。1961年までに明らかにされた病原菌は *Coleosporium cacaliae*, *C. eupatorii*, *C. petasitis* var. *yamabense*, *C. senecionis* の4種で、これらすべての菌は同じ病徴を示し、若い造林地に大発生する。*C. eupatorii* 以外の3種の菌はさび胞子寄主が日本において明らかにされていなかったさび菌である。

外国樹種病害に関する研究以外に造林地を各種の病害から守り、健康に育てるための研究が行なわれ、特にナラタケ病がとり上げられている。演習林内に試験地が数箇所設定され、各種の試験が開始された。

また、数年来北海道内のカラマツ造林地に蔓延しつつあるカラマツ先枯病が、1961年に本演習林内においても発生し始め、本病に関する対策も早急に研究しなければならない問題となった。

(担当 佐保)

## IV. 秩 父 演 習 林

### A. 造 林 事 業 の 近 況

昭和26年より昭和35年までの10カ年間にわたって、第四次の経営案が編成され、目下それにしたがって、各般の事業が遂行されている。そのうちでもっとも重要な問題は、造林事業の実行であり、そのことについては前に報告（演習林，第10号，演習林の近況）したとおりであるが、かさねて実施の概況を記してみたい。

当秩父演習林の地勢は、雄大な山容に加えて、谷密度もかなりたかく、そして中腹以下はすこぶる急峻峻岨である。海拔高は600~2,000 mにおよび森林帯よりすれば温帯に属するが、その植物の分布、群落形態よりすれば、いわゆる太平洋型で、山地帯をツガ群落、ブナ群落、シオジ群落、亜高山地帯をコメツガ群落、シラベ-アオモリトドマツ群落等によって代表する広い範囲をもつ、変化にとんだ樹相をなしている。

一方、地層は古生代に属する秩父系地層の、いわゆる秩父古生層で、日本本土の代表的古生代の地層の地域で、地味はきわめて肥えている。そして山系の中腹以上は比較的緩斜で土壌も深い。

しかしながら、現在の森林は、モミ、ツガ、ブナ等の天然生林で、その成長は期待できない。残余は、これらの森林の伐採跡地に生育する、価値の低い、成長量のすくない再生林であつて、森林の経済価値はひくい。

このような現況にあるうえに、交通の便もわるいので、林業の経営にはめぐまれているとはいえない。そのために、林道網の拡充と樹種転換とによって、森林の経済価値を高めていく必要がある。その一環として、年間40 haの植林が計画され、それにしたがって目下事業を実行しているわけである。

昭和26年以降の造林実行の概況は次表のようである。

年 度	摘 要 地 拵 ha	面 積 ha	新 植				
			ス ギ	ヒ ノ キ (サ ワ ラ)	カラマツ	他 各 種	合 計
26	6.34	20.34	9,600	19,000	6,000	0	34,600
27	40.87	23.16	22,380	18,242	33,000	0	73,622
28	50.98	37.10	91,661	14,072	0	0	105,733
29	53.38	44.22	46,999	58,668	18,000	0	123,667
30	30.42	46.28	19,700	97,345	36,685	167	153,897
31	42.33	42.10	40,850	68,210	23,500	395	132,955
32	16.37	30.88	30,276	48,875	25,900	185	105,236
33	39.43	29.65	74,945	10,664	4,160	4,100	93,869
34	57.37	51.42	20,563	67,560	48,000	1,712	137,835
35	68.89	65.18	19,920	70,005	41,900	11,334	143,599
合 計	436.38	390.33	376,894	472,641	237,145	17,893	1,105,013

補 植		保 育 (ha)						苗木養成及人工植栽保護等造林経費が当該年度実行額に対する百分率 (%)
面積(ha)	苗木本数	下 刈	ツル切	除 伐	枝 打	間 伐	合 計	
0	0	32.43	6.67	62.05	12.14	0	113.29	15.86
8.26	6,337	35.16	5.54	142.05	34.02	0	216.77	27.57
38.72	30,282	79.89	10.71	22.54	8.16	0	121.30	34.02
55.85	19,244	110.51	13.44	0.78	16.93	3.05	144.71	30.67
97.25	79,733	148.06	0	19.32	37.59	3.68	208.65	51.82
122.32	56,950	185.18	22.38	33.20	21.81	17.95	280.52	50.83
159.49	135,699	207.72	18.47	20.19	15.74	19.93	282.05	41.05
136.40	50,720	243.54	12.39	9.27	7.51	19.06	291.77	44.24
35.04	13,675	265.48	36.92	8.94	1.80	23.80	336.94	50.69
134.02	68,275	279.32	32.36	10.88	4.15	15.84	342.55	54.44
787.35	460,915	1,587.29	158.88	329.22	159.85	103.31	2,338.55	

新植, 補植に対する苗木の需給関係の大要は次表のようである。

年度	使用苗木			購 入 苗 木				差引 白 宮生産及 び被分譲 苗木(本)	備 考
	新 植 (本)	補 植 (本)	合 計 (本)	スギ (本)	ヒノキ (本)	カラマツ (本)	合 計 (本)		
26	34,600	0	34,600	0	19,000	0	19,000	15,600	購入苗木のうち, スギ, ヒノキ, は最寄埼玉県下の苗木生産組合より, カラマツは王子造林株式会社生産によるもので, 産地は長野県南佐久郡よりそれぞれ入手した。 分譲苗木中には千葉演習林よりはスギ, ヒノキ北海道演習林よりはストロブマツ, エゾマツ, トドマツヨールツパトウヒ等を受けた。
27	73,622	6,337	79,959	11,200	12,000	33,000	56,200	23,759	
28	105,733	30,282	136,015	91,000	0	9,000	100,000	36,015	
29	123,667	19,244	142,911	48,030	0	21,000	69,030	73,881	
30	153,897	79,733	233,630	24,250	134,500	60,000	218,750	14,800	
31	132,955	56,950	189,909	18,100	37,350	31,000	86,450	103,455	
32	105,236	135,699	240,935	63,580	47,060	82,540	193,180	47,755	
33	93,869	50,720	144,589	20,000	10,000	12,400	42,400	102,189	
34	137,835	13,675	151,510	16,900	25,950	46,200	89,000	62,510	
35	143,599	68,275	211,874	0	63,800	46,800	110,600	101,274	
合計	1,105,013	460,915	1,565,928	293,060	349,660	341,940	984,610	581,318	

前掲表よりみるに, 最近 10 カ年間の年平均人工植栽面積は, 約 39 ha, 植栽本数 11 万 7 千本で, 計画面積の 40 ha には達していない。

前施業期末, 昭和 25 年度 (昭和 26 年 3 月) における人工造林面積は 421 ha で, 演習林の全面積に対しては, 7.18 % であった。昭和 26 年度より昭和 35 年度の 10 カ年の人工造林面積は, 390.33 ha で, 昭和 35 年度末における人工造林地の総面積は約 810 ha となり, これは演習林全面積, 約 5,860 ha の 13.82% で約 6.5 % の増となった。

今後造林実行は, 海拔高の比較的高いところにも及ぶが, 現在の造林は 600~1,000 m にはスギ, ヒノキを, 1,000~1,200m にはヒノキ, カラマツを, 1,200 m 以上にはカラマツを主として植栽している。1,400~1,500 m 以上の高地にはモミ, コメツガ, カラマツ等の天然更新も一部には期待もできうるが, 積極的にカラマツ, ウラジロモミ, バラモミ, アオモリトドマツ, エゾ

マツ、トドマツ、ストロブマツ等寒地性の樹種の造林をこころみる予定である。昭和30年には、北海道演習林よりクロエゾマツ、アカエゾマツ、アカトドマツ、アオトドマツ、ストロブマツ等寒地性樹種の種子をうけて養苗中である。また、昭和33年には、ヨーロッパトドヒ、ヨーロッパアカマツ、エゾマツ、トドマツ、アカエゾマツ等の苗木をうけて試植をしている。

なおまた、1,200~1,400mの高い箇所に対しても、場所をえらび、品種を吟味すれば、スギの生育も期待することもできるのではなかろうかとのことで、中村前演習林長を通じて立山スギ(富山県)、桃洞スギ(秋田県)の種子を入手、それに千葉県演習林より秋田地方産のスギ、長野県のクマスギ、千葉県の山武スギ等のサシホを得て、それぞれ養苗中である。

なお、北海道演習林よりストロブマツ苗を、千葉演習林よりクマスギ苗をうけ、当秩父演習林養成の地スギのサシ木苗、実生スギ苗とともに、海拔高、方位のことなる林内各所に植栽をして、耐寒性と成長との関係を検討中である。

耐寒性スギの育種は、きわめて緊要な問題であり、その検討がいそがれてもいる。かく造林事業に課せられた仕事の位置は重く、かつ困難は大きい、それだけにこんごの興味と期待は深い。

## B. 秩 演 の 樹 木 園

昭和12年より昭和19年まで、8カ年にわたって造成をした秩父演習林の樹木園は、天然性の樹木を主体とし、それに演習林地内および隣接する附近の山林、原野に生育する樹木を移植して、あたかも天然に生育をしていたように植栽をしたものである。そして現在までに整備した面積は7.25 haであるが、予定している樹木園の面積は25.98 haであるから、こんご逐次内外国産樹種を導入して、整備をしていく予定である。

本園の海拔高は850 mで温帯林に属し、園内には幅員2.5 mの林道が延長830 m、幅員1.0 mの歩道が延長920 m、計1,750 mが設けられている。

この林道にそって、49科、185種の樹木が植栽してあるが、うち97種は自生樹種、88種は他より移入し植栽をしたもので、北海道、カラフト、その他の地方産のものが2科、6属、7種ある。

次にその樹種を列記する。

### 1. 自生樹種

#### a. 針葉樹……………4種

イヌガヤ、モミ、ウラジロモミ、ツガ

#### b. 広葉樹……………87種

オノエヤナギ(ナガバヤナギ)、バッコヤナギ(ヤマネコヤナギ)、ミズメ(ヨグソミネバリ)、オノオレカンバ、クマシデ、アカシデ、イヌシデ、アサダ、クリ、ブナノキ(シロブナ)、イヌブナ(クロブナ)、ミズナラ、エゾエノキ、オヒョウ、ケヤキ、ヤマグワ、フ



サザクラ, ダンコウバイ, クロモジ, オオバクロモジ, ヒメウツギ, マルバウツギ, ノリウツギ, タマアジサイ, サワアジサイ, バイカウツギ, マンサク, コゴメウツギ, ウラジロノキ, ヤマブキ, ノイバラ, クマイチゴ, イスザクラ, ウワミズザクラ, フジキ, チョウジザクラ (メジロザクラ), コクサギ, サンショウ, ヤマアサクラサンショウ, スルデ, ニシキギ, エゾツリバナ, ツリバナ, マルバカエデ, ヤマシバカエデ, ウリカエデ, ホソエカエデ (アシボソウリノキ), ウリハダカエデ, イタヤカエデ, アサヒカエデ, コミネカエデ, カエデ, オオモミジ, イタヤメイゲツ (キバナウチワカエデ), ハウチワカエデ, ミヤマハハソ, アワブキ, ケンポナシ, キブシ (マメブシ), ナツグミ, ウリノキ, コシアブラ, イモノキ (タカノツメ), オニセン (ケセンノキ), ミズキ, リョウブ, アセビ, ミツバツツジ, バイカツツジ, ネジキ (カシオシミ), ハクウンボク, オオバアサガラ (ケアサガラ), アラゲアオダモ, ヤマトアオダモ, オクイボタ, フジウツギ, ヤブムラサキ, ムラサキシキブ, クサギ, メツクバネウツギ, ミヤマウグイスカグラ, ニワトコ, オトコヨウゾメ, ミヤマガマズミ, コバノガマズミ, スズタケ, マルバサンキライ。

c. 藤本植物……………6種

ミツバアケビ, イワガラミ, フジ, ツタウルシ, オオクマヤナギ, シラクチズル。

2. 移入樹種

a. 針葉樹……………66種

イチイ, アオモリトドマツ, カラマツ, トウヒ, イラモミ, アカマツ, ゴヨウマツ, チョウセンマツ, コメツガ, ヒノキ, サワラ, ミヤマネズ, クロベ (ネズコ)。

b. 広葉樹……………66種

イスコリヤナギ, シライヤナギ, オニグルミ, サワグルミ, ミヤマヤシヤブシ, ウダイカンバ (サイハダカンバ), シラカンバ, ダケカンバ, サワシバ, ツノハシバミ, ハルニレ, コウゾ, ナガバノヤマグルマ, カツラ, メギ, ヒロハヘビノボラズ, アブラチャン, スグリ, ズミ (コリンゴ), コアジサイ (シバアジサイ), コンテリギ (ガクウツギ), ヤシヤビシヤク (テンバイ), イワシモツケ (コシモツケ), オオウラジロノキ (ヤマナシ), アズキナシ, カマツカ, ナンキンナナカマド, サビハナナカマド, ナナカマド, エドヒガン (タチザクラ), ヤマザクラ, ミヤマザクラ, ユクノキ, ヤマウルシ, アオハダ, ヒロハツリバナ, ホソバマユミ (チョウセンマユミ), ミツバウツギ, ミツデカエデ, メグスリノキ, テツカエデ, オニモミジ (カジカエデ), アサノハカエデ, ヒナウチワカエデ, トチノキ, クロカンバ, シナノキ, ナツツバキ, クマノミズキ, ヤマボウシ, ハナイカダ, サラサドウダン, チチブドウダン, ホツツジ, トウゴクミツバツツジ, ハコネコメツツジ, シオジ, サワフタギ (ルリミノウシコロシ), コバシジノキ, イボタノキ, アオダモ (コバノトネリコ), ツクバネウツギ, ニシキウツギ, オオカメノキ (ムシカリ), ヤブデマ

リ、アラゲガマズミ。

c. 藤本植物……………2種

オニツルウメモドキ、クマヤナギ。

3. 他 地 方 産

a. 針葉樹……………6種

アオトドマツ、アカトドマツ、チョウセンカラマツ、オレゴンパイン、オーシュウトウヒ、オーシュウアカマツ。

b. 広葉樹……………1種

スモークツリー。

C. 最近おこった秩父演習林の被害あれこれ

1. 野生鹿による人工造林地の被害

奥多摩より奥秩父地方の森林には、往時より野生鹿が棲息していたことは周知のところである。最近になってその鹿の繁殖がとくに旺盛になったものとは思われないが、附近の奥地林の開発がすすみ、いたるところで原生林が伐採されているためか、ここ数年来、人工林の被害が漸増の傾向がある。とくに、大血川事業区に点在するスギ、ヒノキ、サワラ、およびヨーロッパトーチ等の人工造林地、百数十ヘクタールに、鹿の被害が甚だしい。

この地域の人工造林地は、1年生より40数年生になるものが散在している。これらの造林地のうち、13,4年生以上の林分に、樹幹剝皮の被害がおおく、両3年の被害はものすごく、林内造林地の全区域におよびつつある（一説には鹿ではない。熊の被害であるとの主張も流れているが、現在のところ、調査した結果では鹿によるものと推察される）。そしてこれらの剝皮被害が林分の内部にも見受けられるが、被害は林縁におおく、かつその林分のなかの径級の大きいものばかりが対象にされている。被害の状況は、地上より1.5mあたりまでの高さが、樹幹の周囲の半分、ときに全部が剝皮されている。

被害の時期は、5月中旬～7月中旬にわたる樹液の流動がもっともさかんなときで、ときには3～4mの高さにおよぶ。被害木は遂次枯死するにいたる。ときに枯死はまぬかれたとしても、成長はおとろえる。ごく軽微のものは成長をつづけ、マキコムものもあるが、そのために幹にクサレの発生の原因をつくり、材質をいちじるしく損傷する。そしてやがて枯死にいたらしめることになるので、これが対策には腐心している。

次にその被害の実態を表示する。

箇所	直径級 cm	1～5	6～10	11～15	16～20	21～25	26～30	31～35	36～40	全林	摘 要
新山沢 3い12	本数 (%)	0	3.91	11.89	17.82	36.82	67.44	95.83	100.00	20.40	大正8年植栽、ヨーロッパトーチ、植栽面積1.28ha測定本数1868本、全体の平均胸高直径17.1cm、被害木同22.8cm
	材積 (%)	0	4.85	13.03	17.88	38.58	70.19	96.41	100.00	36.07	

西谷奥 5い8	本数 (%)	0.58	0	2.20	21.26	69.75	100.00	100.00	—	10.12	昭和10年植栽ヨーロッパト ビ、植栽面積1.44ha、測定本 数3,280本、全体の平均胸高 直径13.9cm、被害木同19.9cm
	材積 (%)	0.68	0	2.52	24.09	71.03	100.00	100.00	—	20.71	
西谷朶 5い5	本数 (%)	0	3.04	20.49	53.53	79.45	66.67	—	—	27.17	大正14年植栽ヒノキ植栽面 積619ha、測定本数4,632(類 疎)全体の平均胸高直径13.9 cm、被害木同16.0cm
	材積 (%)	0	3.31	22.11	55.35	79.76	67.50	—	—	39.39	

## 2. 異状気象による若い造林地の被害

最近の気象異変は、当埼玉県山間部の地方の林業経営に対しても、大きな衝激をあたえた。すなわち、昭和29年～30年にかけての寒気、同31年～32年の乾燥に加えてのきびしい寒冷、そしてまた、同32年の秋より33年の春に及んでの異状乾燥と、前後5カ年、3冬の異状天候は、育林のうえに種々な研修の必要を教示した。

当時の気象の概況を当演の栃本における観測結果より抄録してみる。

	平均日照%	平均温度C	最高温度C	同 極	平均最低 温度 C	同 極	平均湿度%	合計降水量 mm
平 年	52.16	5.70	9.95		-0.09		66.23	379.96
白昭和29年11月 至昭和30年4月	53.22	4.69	10.17		0.02		60.16	468.63
白昭和31年11月 至昭和32年4月	55.48	4.76	9.75	8.8(2月) ～ 24.3(4月)	-1.24	-9.3(2月) ～ -2.5(11月)	61.67	226.29
白昭和32年11月 至昭和33年4月	54.95	5.49	10.45	14.1(1)月 ～ 24.1(4月)	-0.07	-9.8(1)月 ～ -0.4(11月)	64.22	351.62
自昭和33年11月 至昭和34年4月	50.60	5.23	10.44	(4月)(12月) 23.0～15.1	0.01	(1月)(11月) -10.7～ -2.0	68.65	103.17
白昭和34年11月 至昭和35年4月	55.09	5.21	10.64	11. (4月)12月 2.27～16.5	-0.21	(1月)(11月) -10.4～ -0.7	64.28	76.14

当時に発生をした林地における植栽木の被害は次のようである。

箇 所	海 抜 高	方 位	昭和29年～同30年(寒害)					昭和31年～同32年(乾寒害)				
			植 年	被 害 度	被 害 を う け た 小 班 面 積	同 上 の 被 害 面 積	被 害 樹 種	被 害 本 数 %	植 年	被 害 度	被 害 を う け た 小 班 面 積	同 上 の 被 害 面 積
和名倉方面	950～1,070	SN	—	—	—	—	—	27～31	19.57	11.97	ス ノ ギ	22.40
豆焼 "	1,100～1,300	NW	—	—	—	—	—	31	4.09	3.10	ス ノ ギ	32.55
滑沢 "	1,050～1,300	S～ SE	28～29	18.98	18.98	ス ノ ギ	59.90	28～29	18.98	16.78	ス ノ ギ	43.77
赤沢 "	1,050～1,470	N～ NE	28～29	30.85	30.50	ス ノ ギ	37.99	28～31	63.01	27.41	ス ノ ギ	21.54
大滑小滑 "	800～1,150	NE NEN	29	7.76	3.76	ヒ ノ ギ	34.53	30～31	22.66	6.40	ス ノ ギ	6.84
大血川 "	1,000～1,100	WSE	—	—	—	—	—	31	1.20	1.20	ス ノ ギ	60.00

計				57.59	53.24				129.51	66.86		
被害率(%)					92.45		44.14			51.63		31.18

箇 所	海 抜 高	方 位	昭和32年~同33年(乾害)				
			植年	被害を受けた小班面積	同上の被害面積	被害樹種	被害本数 %
和名倉方面	950~1,070	SN	27	4.00	2.50	スギ	19.11
豆 焼 //	1,100~1,300	NW	26~32	5.06	3.47	ヒノキ	34.74
滑 沢 //	1,050~1,300	S~SE	28~32	24.76	14.02	スギ ヒノキ	34.41
赤 沢 //	1,050~1,470	N~NE	28~32	75.21	26.00	スギ ヒノキ	30.07
大滑小滑 //	800~1,150	NE~NEN	29~30	25.96	7.60	ヒノキ	13.57
大血川 //	1,000~1,100	WSE	31~32	2.42	2.42	スギ	21.67
計				137.41	56.01		
被害率%					40.76		25.60

箇 所	海 抜 高	方 位	昭和33年~同34年(寒害)				昭和34年~同35年(乾寒害)					
			植年	被害を受けた小班面積	同上の被害面積	被害樹種	被害本数 %	植年	被害を受けた小班面積	同上の被害面積	被害樹種	被害本数 %
和名倉方面	1,320~1,400	NW	—	—	—	—	33~34	15.94	8.48	ヒノキ	22.84	
滑 沢 //	1,000~1,450	S~E	28~32	25.31	8.02	スギ カラマツ	29.78	30~34	25.31	10.76	スギ カラマツ	44.13
久慶沢 //	700~900	E	—	—	—	—	34	3.72	3.35	スギ ヒノキ	56.64	
矢竹沢 //	800~1,090	ES~E	32~33	4.89	1.66	スギ	28.08	34	2.28	2.28	スギ ヒノキ	75.54
豆 焼 //	850~950	NNE	33	2.05	0.93	ヒノキ	17.14	—	—	—	—	—
赤 沢 //	1,150~1,550	N~NW	—	—	—	—	30~34	48.86	34.88	ヒノキ カラマツ	28.60	
井戸沢 //	900~1,050	N	—	—	—	—	34	2.50	2.50	スギ ヒノキ	34.92	
大血川 //	1,060~1,400	NE	—	—	—	—	31	1.20	0.54	ヒノキ	58.82	
計				32.25	11.61			99.81	63.79			
被害率%					36.00		41.66		63.91		45.92	

被害は順次その面積を大きくしたが、これは若い植栽地が増したためである。そしてこの被害は、いずれも植栽後の若いものばかりである。被害樹種については、スギ60%、ヒノキ35%、サワラ、カラマツ5%の見当である。

土地の古老の言によれば、このようなことは、10~15年目ぐらいにはあるとのことであるが、このたびのように連続しての襲来は、すくなかったことと思う。林業の経営にたずさわるものに

対して失意の色を濃くするものがあった。

ちなみに、昭和31年～32年にかけての乾寒害は、本州の相当に広い地域にわたったようにきている。当地方民有林関係の被害をみるに、大約次のようである。

当演の所在する秩父郡内の人工造林面積は、14,500 ha、うち1～5年生の若い造林地約5,000 haに被害があったが、概況は次のようである。

造林地樹種別寒害被害表 (白昭和31年度  
至昭和35年度) 秩父農林事務所管内

摘要 年度	スギ			ヒノキ			アカマツ		
	植栽面積	被害面積	被害本数	植栽面積	被害面積	被害本数	植栽面積	被害面積	被害本数
31	675.94	628.82	881,007	144.77	4.15	12,480	9.02	3.62	2,600
32	831.54	647.79	644,820	158.73	72.36	70,665	54.20	10.77	7,245
33	671.24	705.10	618,930	154.14	68.64	104,055	36.44	13.52	7,525
34	798.82	813.40	192,990	195.13	129.42	27,720	44.09	26.17	7,363
35	899.43	501.10	675,870	207.33	83.51	121,807	63.47	2.54	2,580
計	3,876.97	3,296.21	3,013,617	860.10	358.08	336,727	207.22	56.62	27,313

摘要 年度	サワラ			カラマツ			計		
	植栽面積	被害面積	被害本数	植栽面積	被害面積	被害本数	植栽面積	被害面積	被害本数
31	10.97	17.96	29,570	35.32	5.99	2,850	876.02	660.54	928,507
32	20.06	—	—	—	—	—	1,064.53	730.92	722,730
33	15.38	—	—	69.24	—	—	946.44	787.26	730,510
34	14.97	—	—	39.68	—	—	1,092.69	968.99	228,073
35	5.63	12.38	22,115	16.14	0.52	320	1,192.00	600.05	822,692
計	67.01	30.34	51,685	160.38	6.51	3,170	6,171.68	3,747.76	3,432,512

### 3. 頻発した台風のと

台風のあたり年といわれた昭和33年および34年は、年間20数度におよぶ台風が日本各地を襲った。昭和34年は21号(9月18日)と22号(9月26日)に、昭和34年は7号(8月14

### 気象の概況

摘要 台風別	栃本観測所					大血川	影森苗畑
	降雨時間	同上におい での降水量	1時間当りの 最大降水量	平均 最大風速	瞬間 最大風速	降水量	降水量
1958. 9/18 21号	17日 4h 15m 18. 10. 20	234.75mm	37.20mm	7h/18 6.9m/s	11.0m/s	338.00mm	209.00mm
1958. 9/26 22号	25日 11h 30m 27. 2. 40	258.97	18.05	1h/26 3.4m/s	6.8m/s	267.90	356.00
1959. 11/26 7号	12日 11h 05m 14. 9. 15	314.10	29.9	8h/13 12.2m/s	20.2m/s	402.90	382.00
1959. 9/26 15号	25日 14h 35m 27. 1. 20	212.35	34.9	1h/27 16.6m/s	33.2m/s	188.00	230.00

台風別	秩 父 測 候 所					
	降雨時間	同上におい での降水量	1時間当りの 最大降水量	平均最大風速	瞬間最大風速	最低気圧
1958. 9/18 21号	17日17h 22m 18. 10. 30	210.00mm	6h/18mm 33.3mm	8h/18 13.2m/s	19.1m/s	8h/18 976.7mb
1958. 9/26 22号	25日11h 0m 27. 3. 15	335.60	19h/26 25.7	1h/27 5.4m/s	7.3m/s	1h/27 986.9 //
1959. 11/14 7号	12日10h 30m 14. 8. 4	342.00	35.9	8h/13 15.0m/s	22.6m/s	988.6mb
1959. 9/26 15号	25日12h 20m 27. 02. 04	264.50	77.0	20h/26 16.6m/s	28.7m/s	978.9mb

備考：昭和13年9月1日の降水量364.5mm（栃本）昭和24年8月31日244.2mm（栃本）

### 林地, 林木, 軌道その他の被害

台風別	被害種類	被害額 円	備 考
昭和33年 (1958) 21号	影 森 苗 畑	260,900	土留, 石積, 耕土の流失 練積石積1222m <sup>2</sup> 空積石積25m <sup>2</sup> 土砂片付770m <sup>3</sup> (道床手入298m 橋修理1カ所 崩壊20カ所 総崩壊延1.53ha 屋根及石積21m <sup>2</sup> )
	軌 道 被 害	2,746,000	
	山 地 崩 壊	766,000	
	造 林 小 屋	35,500	
		3,808,400	
昭和33年 (1958) 22号	軌 道 被 害	253,700	練積石積88m <sup>2</sup> 土砂片付387m <sup>3</sup> 道床手入248m 崩壊7カ所 面積延0.99ha
	山 地 崩 壊	495,900	
		749,600	
昭和34年 (1959) 7号	影 森 苗 畑	171,000	土壌の破壊, 耕土流失 練積石積94m <sup>2</sup> 橋被害延40m 道床手入130m 土砂片付410m <sup>3</sup> 山地及び造林地の崩壊0.5ha 面積1.07ha 281m <sup>3</sup> // 5.07ha 885m <sup>2</sup>
	軌 道 被 害	415,900	
	山 地 崩 壊	141,000	
	人工造林地の立木被害	1,011,600	
	原生林その他	3,332,500	
昭和34年 (1959) 15号	軌 道 被 害	187,000	練積, 石積32m <sup>2</sup> 道床手入296m 土砂片付84m <sup>3</sup> 川俣学生宿舎のガラス戸破損 面積1.66ha 408m <sup>3</sup> // 4.37 // 953 // // 2.31 // 116 //
	建 物 被 害	1,000	
	人工造林地の立木被害	1,468,800	
	原生林その他	1,715,400	
	再 生 林	127,600	
		3,499,800	
総 計		10,670,300	民有林人工造林地の被害は尨大であった。

日), 15号(9月26日)と2カ年, しかも2回も連続して日本本土を襲い, その被害はまことに大きいものがある。

これらが当地方を通過したその爪あとを記録してみると前表のようである。

昭和33年連続2回の台風は, いずれも風は比較的弱かったので, 林地における立木の被害は至極軽微にすんだが, 34年のそれは雨も多く, そして風も強く, 奥地一帯の森林地帯にはその被害がすこぶる大きい。とくに, 東京都, 山梨に境するあたりの国有林, 村有林, 共有林の原生林の被害は甚大である。

当演習林内では, 斫伐に従事している事業所の住宅2戸が流失をし, またもより栃本部落で民

家1戸が土砂で倒壊をしたが、いずれも人命に異状はなかつた。

#### D. 無線電話の設置

秩父演習林の通信施設は、秩父事務所所在の秩父市と、直接事業実行の衝に当る大滝村所在の栃本、大血川両作業所とはそれぞれ36軒、22軒の距離に隔遠されているので、これが管理、経営を能率的に遂行するため、昭和10年には専用電話線が前記3カ所相互間に、延33.7軒設置されたところである。

以来、20有余年、経営上幾多の至利、至便を与えて使用されていたが、永年使用による施設の自然老朽化は、昭和30年ごろより急速に損耗がはげしくなり、電柱、腕木等全線に亘り腐朽損傷し、ために風雨、雪による倒潰・断線の通信障害が相ついで発生し、応急的な補修工事の程度ではとうてい保全し得ない状態となった。加えて二瀬ダムの建設および、秩父～二瀬間の道路改修工事实施による専用電話路線の移設の問題が起こり、路線の全面的補修工事が緊急必要とされるにいたったわけである。

専用電話線の補修工事实施については、種々検討が加えられ、保守等の関係から電電公社の既設路線への添架使用等も計画されたが、いずれも200万～300万円の工事費を要するのみならず、施設後も年々20万～30万円の保守費を要するとき、有線電話に比しあらゆる面に利点の多い無線電話設置のことが、演習林本部において発議された。

栃本作業所、大血川作業所はいわゆる奥秩父といわれる地域内にあって、周辺には標高1,000m～1,500mの高嶺が重畳し、無線電話の設置のうえには地理的、地形的条件極めて悪く、当初は専門技術者さえも危懼していたところあったが、たまたま本演よりの要請に応え、東京大学地震研究所より宮村助教授外3名来演されて、昭和32年3月5日、6日の両日にわたり実地試験を行なったところ、技術担任者が驚くほどの好結果が得られ、秩父、栃本、大血川の3局相互間は完全に通信可能のことが立証されるにおよび、ここに既設の有線私設電話にかえて、超短波無線電話設置のことが決定されるや、既設の有線電話は全線撤去するとともに、無線電話開設申請が本演よりなされたわけである。

かくして昭和32年7月免許申請いらい8ヵ月、翌33年2月21日には予備免許承認となるや、工事人日本電気株式会社代理店、三信電気株式会社において機械の設計取付を行ない、同年4月4日関東電波管理局免許部栗田事務官外2名による検査もとどこおりなく完了して、昭和33年5月12日日本免許が交付されるとともに、ここに近代的な超短波無線電話による通信施設が完備し、秩父、栃本、大血川を結ぶ3局が同時に開設運用される運びとなった。

超短波無線電話の運用については、当演職員富田事務官外3名は技術を習得、梨莚無絨技士国家試験に合格し各局に配置専任従事しているが、機械の故障は殆んどなく、完全に通信機能を果たし、有線電話に比し保守、保線業務の煩しさもなくなり、秩父演習林管理経営上至大なる貢献となり、こんにち常時便法活用されているわけである。

機 械 の 種 類	固 定 用 超 短 波 無 線 電 話		
電波の型式及び周波数	F 3 60.17 MC		
設置場所及び呼出符号	秩父市 大滝村 大滝村	秩父事務所 栃木作業所 大血川作業所	(とうえん, ちちぶ) (とうえん, とちもと) (とうえん, おおちがわ)
運 用 時 間	常 時		
免 許 申 請 年 月 日	昭和32年7月15日	予備免許承認年月日	昭和33年2月21日
落 成 及 検 査 年 月 日	昭和33年4月4日	本免許承認年月日	昭和33年5月12日
工 事 費	2,129,500 円		

無線電話周波数変更;

秩父演習林無線局の周波数は、東京大学地震研究所の無線局と全く同一の60.17 MC を割当てられ使用していたが、たまたま同研究所においては無線地震計による秩父山地内の微小地震観測実施のため、秩父支所（秩父演習林栃木作業所構内設置）設置計画がおし進められているさい、業務上支障をきたすとのことで、当演習林の周波数について変更方の協議依頼がなされた。

周波数の変更については、諸般の手続き、ならびにすくなからざる経費も要するが、演習林においてはこれを諒とし、昭和35年6月28日付をもって関東電波管理局あて周波数変更申請書提出する運びとなり、昭和36年3月18日許可承認とともに同月22日管理局大村好維持官外2名の検査も完了して現在では周波数61.13 MC に変更し使用している。

#### E. 大血川作業所の電気工事なる

秩父演習林大血川作業所は、大滝村へき遠の地にあるために、大正6年作業所開設以来無電灯の不備をかこっていたが、たまたま大血川部落(12戸)の共同出資で自家発電組合を組織点灯せるを機に、同組合と受電需給契約を締結、ここに懸案の電気工事が行なわれて、40年の長期にわたるランプ生活に終止符をうった。

工事竣工年月日; 昭和32年2月28日                      工事費; 459,200 円

内	直接工事費	159,200 円	外線引込 367 m	屋内点灯 2 棟 20 灯
訳	間接経費	300,000 円	需給契約負担金	

#### F. 研究に活用される奥秩父森林土壌

秩父演習林は、通称奥秩父地帯に包含される地域にあって、地層は古生代に属する秩父古生層よりなっており、土壌の生成過程によく特徴があらわれているものがおおく、いわゆる生成形態が変化に富んでいる状況が随所に発見できる。特に、種々のポドソール化土壌が当地域内にみることのできるの、特筆してよかるう。したがって、これら変化に富む生成土壌に関連して、植生が成立しているため、土壌の研究調査に、また、講習会等にはまことに好適であるとの定評がある。



昭和27年10～11月にかけては、林野庁の全国林業専門技術普及員の森林土壌講習会が、栃本事業区の管内で行なわれた。昭和30年11月および同31年4月には、同林業講習所によって、全国の各営林局関係官による森林土壌講習がそれぞれ実施された。

そのご地方庁関係のこの種の講習が、引続いて行なわれている。

これら講習の講師は、林野庁の指導部や、林業試験場の研究官が担当した。そして農林技官の面々が学生にかえて、いろいろの用具を背負って、急峻の山地を2m余においしげるスズタケの中を、また、シヤクナゲの森をもぐり、くまなく森林を跋渉して研究をつづけ、多大の成果をおさめた。

次に既往の土壌講習の一覧を示す。

回次	日 程	講 習 団 体	参加人員	講師の人数 とその所属	備 考
1.	昭27-10-31~11-2	林業専門技術普及員	約30名	林試1名	{林業専門技術普及員協議会 土壌調査 林野庁主催
2.	30-11-17~22	営林局土壌調査関係官	34	林試10	{林野庁土壌調査技術講習 会林業講習所主催
3.	31-4-22~29	〃	30	林試8	〃
4.	33-4-16~24	各県林務課土壌調査担当官	13	林試5	{土壌調査講習会 林野庁造 林保護課主催
5.	33-5-18~25	営林局土壌調査関係官	30	林試8	{土壌調査実務現地実習 林 業講習所主催
6.	35-5-26~6-3	〃	31	林試6	土壌調査講習会 〃

#### G. 第5回目の会計実地検査をうける

秩父演習林では、昭和9年、14年、25年、27年及び昭和30年と、都合5回の会計実地検査をうけた。第5回目の検査は、昭和30年9月14日～17日の4日間にわたって実施された。かつての検査は書類の検査が主体で、書類の作成整理のうえには、相当きびしい困難があったが、事業現場や山林の作業の状態については、単に概要を知る程度に終わっていた。

しかるに、最近の検査は、もとより書類上の検査も厳正をきわめるが、現地の立木払下げや工事の実施状況等に、その重点がおかれてきたようにかがわれる。

昭和9年、14年、25年、27年といずれも、現場の実査もされたが、今次の検査はことさらに現場に力がそそがれたもののように、栃本作業所より10km余の森林軌道をトロリーで奥地山林に、そして急坂をのぼり、ツガ、モミ、ブナ等の末木枝条が錯雑する赤沢、豆焼沢、トーバク沢等天然林の皆伐、択伐の跡地を、早朝より夕陽はるかに落ちるまで、熱心に踏査、査察をした。

当演習林は、普通一般の山林とちがって、見かけは山調査も案外容易にできそうだが、現地の踏査にはまったく想像以上の困難があるために、検査官の一行はさぞかし苦心をしたようだった。

このような急峻な山地に係官が外向して、現地作業の認識を深めたことは、事業実行の上に、また、事務処理の上にもまことに幸いであった。

今回来演した検査官は、田島 淳，守谷寅雄の両事務官で，本学会計課より原武福松事務官が随行した。

## H. 大血川東谷林道の開設はじまる

秩父演習林2団地の一つ，大血川団地は，国道（甲府，熊谷線二級国道）より 6km の村道を入った地域にある。そして面積は 945.44 ha で演習林の入口より，東谷と西谷の二つの深い谷が最奥地までのびて動脈のようにこれを支えている地形をなしている。この地域における森林の現況は，人工造林地 154.49ha ( $N=34,509\text{m}^3$   $L=689\text{m}^3$ )，原生林 1.70ha ( $N=15\text{m}^3$   $L=133\text{m}^3$ )，再生林 788.70 ha ( $L=69,590\text{m}^3$ )，雑種地 0.55 ha 計 945.44 ha ( $N=34,524\text{m}^3$   $L=70,352\text{m}^3$ ) となっている。

そして東谷の流域について見ると，面積で 63% の 596 ha，蓄積で 70% の  $73,900\text{m}^3$  ( $N=82\%$  の  $28,200\text{m}^3$   $L=65\%$  の  $45,700\text{m}^3$ ) を占めている。しかして， $N, L$  ともにすでに適正伐期令に達するものが多いが，現在は車のはいれる道がなく，そのために立木価格はなほだ安価となるので，伐採処分が行きなやんでいるわけである。

ために，林道の開設方を久しく要望していたが，昭和 35 年度に新営費 300 万円の配付を受けることができた。これによって，幅員 4 m の車道が延長 282.94 m と車橋架設用古レール使用による 15m の加工トラス 5 桁を作ることができた。

昭和 35 年度の開設林道の施工の種別は次のようである。

路面築造 282.94m，練積石積 764.70 $\text{m}^2$ ，硬岩切取 1,401.51 $\text{m}^3$ ，硬土切取 1,279.57 $\text{m}^3$ ，盛土 258.56 $\text{m}^3$ ，暗渠築設 1カ所となっている。

因みに，東谷林道については，昭和 32 年度設計をしたが当時の概算は延長 2,237m，総工費 13,375 千円となっている。その後の賃金や物価の高騰で，予定全線を完成するとすれば 3,000 万円を要するだろう。

## I. 秩父演習林の最寄りにおこった最近のできごとなど

### 1. 二瀬ダムの建設

熊谷甲府線二級国道の，秩父市を西にへだてること約 25 km，甲武信岳にその源を発する荒川本流と東京都に境する雲取山を源流とする大洞川の合流するところ，ここに二瀬という大滝村に属する十余戸の部落がある。ここがこの二瀬ダム建設である。

台風の時節ともなれば，東京の都を襲い，また沿岸をいためつけるといわれる荒川の源流である。奥秩父の清流を堰とめて，灌漑用に，発電用に，そして洪水調節に活用する，多目的ダム，工事名，二瀬ダム（ダムの型式，アーチ式ダム，高さ，95m，天端延長 235m，貯水池の容量，2,510 万立方米，貯水池の広さ，76 ヘクタール，最大発電能力，17,500 キロワット時，総予定経費 58 億）が，建設省の直轄工事として進められていたが，ダムの本体はこのほど完成をした。

そして貯水は昭和35年11月15日よりはじめられ、これに附属する発電所は、昭和36年2月より運転されることとなった。

思えば、このダムの建設は、昭和26年予備調査に着手をし、国道の切替工事、土地の買収、補償業務等は順調にすすんだ。そして昭和30年11月には、ダム建設の起工式が行なわれて、本格的の工事が開始された。砂利、砂、セメント等の骨資材は、秩父市、および最寄りより採取され運搬の工程も順調にて、昭和33年11月には本体のコンクリート打ち込みのはこびとなった。

この工事は、昭和35年11月には完了した。この大きさは現在完成した全国のダムの中で第6位におかれるとのこと、76ヘクタールの広大な池面、貯水池容量は実に2,510万 $m^3$ の一大人造湖が産まれたわけで、これには「秩父湖」なる名称が与えられた。そして秩父湖は、下流における各種の産業の発達に、洪水対策に、また国民のレクリエーションの場としてあることになって、秩父多摩国立公園の一つの名勝地となって行くことだろう。

なお、附帯する管理の施設その他の完了にはしばらく期間を要するものようであるが、昭和36年の秋季にはすべてが完成することである。

最寄りには、ユース hostel も完成をして、現在活用されているが、一方貯水とともにダムの上流左岸の国道にそって、約200mに及んで地這りを見るようになり、住民の人家の移動と国道の保持とで、最近巷間に話題を提供している。

## 2. 奥秩父に発達する架空索道

奥秩父地方一帯は、山容がすこぶる雄大である。加えて中腹以下は急峻絶壁で、地勢はきわめてわるい。このため林産物の搬出には、すくなからざる腐心と経費が消耗されている。自動車道路、森林軌道、林道とその開設には意がそそがれてきたが、なお充分とはいえない。換言すれば、素材生産費に石当り900円～1,000円を要するのが通常であるから、業者も山林所有者も互にその打開策に努力をつくしている。

戦前や戦時においては、まったく幼稚な重力式鉄線運搬が装置されていたにすぎなかったが、最近各地で用いられている索道運搬が、遂次普及しつつあり、とくに、当演の吊修羅や屈折索線による搬出など、他に例の少ない施設が設けられるにいたった。

複線交走式（釣瓶式）で、主索径20～30mm程度、スパン300～800mのものももっともおおいのであるが、昭和28年当演に近い、二瀬の大洞川流域に、本学加藤誠平教授の指導によって架設されたものは主索径30～50mm、延長約8,500mにおよぶ補助動力付索道の大規模のもので、この種の画期的のものとして、当地方の関係業者に対して、多大の感銘をあたえた。

当演習林の内部にも、昭和25年以来主索径30mm、スパン1,000m、延長3千数百米におよぶ重力式索道が架設されている。そして海拔高1,000～1,400mの山中の土場には50～70馬力の集材機が据付けられ、森林の機械化は、奥地林における林産物の搬出に、いちぢるしい成果をあげている。

かくして奥秩父の海拔高 2,000m に及ぶ原生林も、この索道の発達によって、急速に更新がすすめられ、ここに多種多様の搬出装置が施設されているため、この方面の研究にはまことに興味深いものがあり、勉強のための来訪者の数も最近はとくにおおくなった。

### 3. 大洞発電所の開設工事おわる

二瀬グムの建設が完成された（昭和 36 年秋）後は、埼玉県に移管され、県がこれの運営をすることになっているよしである。したがって附帯している発電事業（出力、54 kw）も県の管轄になるわけである。このような関係から、県営発電工事事務局が、現地に近い秩父市に設置となり、ダム附属の発電所と平行して、これと総合計画だった大洞発電所（出力、1万2千kw）、の建設工事（工事費 18 億）が、荒川と大血川の合流点最寄りに、昭和 32 年 10 月から着工になっていたが、昭和 35 年 3 月には完了して、4 月より正規の運転がはじまっている。

これが水源は、大洞川の奥地に堰提を築設して、トンネルで大血川筋に、そして大血川の源流も、当演東谷、西谷分を取水して大洞川よりのものと合せて使用している。一方、ダムの水不足を補うため、中津川は、当演の小滑地先で堰止めてトンネルで荒川におとすという工事が各所ではじめられ賑はしいことだったが、何れも工事は完了して現地は静寂の境地にかえた。

なお、大洞第二発電所新設の工事が大滝村の入口、強石地先にはじめられることと併せて、しばらく、文部省と県当局との間で協定ができず話題を投げていた天然記念物長瀬峽を含む波久礼の県営発電所工事も最近解決を見たよしである。それで近く着工になるという。

かくして荒川の水流は、川俣より寄居地先まで、延長 80km 約に及んで川に水を見ることのないまでに利用されることになった。荒川の水源函養林である奥秩父の原生林の価値は、経済に文化にその度はいよいよ高くなってきている。

### 4. 埼玉大学の奥秩父自然科学研究所が開設

三峯神社（海拔 1,100m の山稜にある）の裏参道、やがて二瀬ダムの水が漂う湖畔の大洞川に面して、埼玉大学の奥秩父自然科学研究所、秩父山寮が、土地の提供、地均しその他大滝村当局の多大の力添えで、昭和 32 年 10 月 29 日に開設となった。

これは、埼玉大学が奥秩父を一円とする植物、動物、ならびに地下資源等総合的研究をし、これを科学的に解析をし総合して産業振興の基盤を確立するところに、ねらいがあると思う。

### 5. 影森町の秩父市に合併

幾多の問題を提起して懸案であった影森町（浦山村は昭和 31 年 9 月 30 日影森町に合併していた）の秩父市への合併は、昭和 33 年 5 月 31 日付で実現した。

それで秩父市は、面積 133.1 平方キロ、人口 6 万 2 千人となったが、1 平方キロあたりは 666 人強という全国でも有数の人口稀薄の市となったわけである。チチブセメント会社の主骨である原石山（石灰岩の山）、武甲山（1,336 m）はスッポリとこの地区に包含されている。

## V. 愛 知 演 習 林

### A. 災害復旧工事の竣工

#### 1. 台風 13 号（昭和 28 年 9 月 25～26 日）

降水量 121.5mm，1 時間最大雨量 29.8 mm と台風 13 号による被害は風雨そのものより東海地方の沿岸では，高潮によって蒙った被害が甚大であった。

新居団地においても，高潮による最前線の砂丘が 9 カ所に亘り決潰し，砂礫と共に海水が造林地内に流入し，しかも海水が 10 数日間も停滞したため，植栽木は枯死または甚だしく衰態を示すに至った。

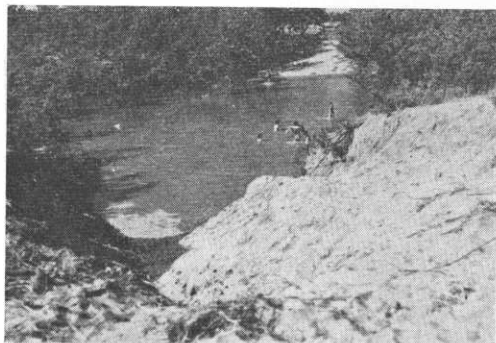


写真 1. 新居団地：台風 13 号により砂丘決潰し海水が造林地に停滞



写真 2. 新居団地：砂丘決潰

東山団地では林道約 200m が破壊され橋梁の流失 4 カ所に及んだ。

水野及び犬山団地では浸蝕による崩壊 9 カ所に及び，この面積 4.3 ha である。

この復旧のため 28 年度に 169 万円の予算が承認されたが，工事の実行は 29 年度に着手することが条件であった。30 年 2 月に全工事は竣工した。

#### 2. 台風 15 号（昭和 31 年 9 月 27 日）

降水量 144.6mm，1 時間最大雨量 21.8mm の台風 15 号は熊野灘から遠州灘沖を通過したため，東海地方では主として海岸沿いに被害が多かった。当演習林では犬山及び水野団地にかなりの被害があった。

犬山団地では，既設山腹工事の崩壊 3 カ所，水路の決潰 2 カ所，その他コンクリート土堰堤などの破潰があった。

水野団地では，2 カ所の山腹工事が崩壊した。この復旧費として 56 万円が承認され，直ちに工事に着手して，32 年 3 月に完成した。

#### 3. 昭和 32 年 8 月 8 日の集中豪雨による被害

降水量 374.6mm，1 時間最大雨量 64.6mm と瀬戸附近から岐阜県多治見地方に亘り局地的集

中豪雨あり、瀬戸周辺に甚大な被害があった。定光寺、品野の山岳地帯には大小無数の山崩れが発生し、中央線並びに開通間もない愛岐道路は寸断され、10数日不通となった。ことに瀬戸市内では古いはね山の崩壊で9戸の民家が流失し、22名の犠牲者を出すの惨事があった。

当演習林の災害は東山、白坂両団地がもっとも甚大であった。定光寺附近の古生層、東山、白坂の花崗岩地帯に災害が多発し、水野団地の第三紀層地帯には被害は殆んどなく、地質的にみて災害の発生に大きな差のあることは深く考えさせられる。

次に東山、白坂の災害状況を示すと、

山腹崩壊 44カ所、堰堤の破壊 7カ所、鉄線蛇籠の破壊 62カ所、山腹石積工破壊 9カ所、石積谷止工破壊 30カ所、林道流失 200m、量水堰堤湛水池土砂流入 802m<sup>3</sup>

この災害に対して228万円の復旧費が承認され、12月27日に予算令達があり直ちに工事に着手した。工事は順調にすすみ予定通り3月末までに竣工させた。

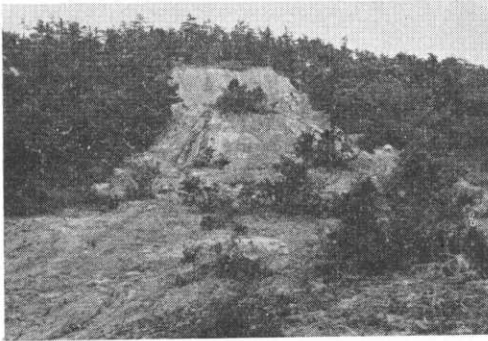


写真 3. 水野団地：32年8月の集中豪雨による山腹の崩壊

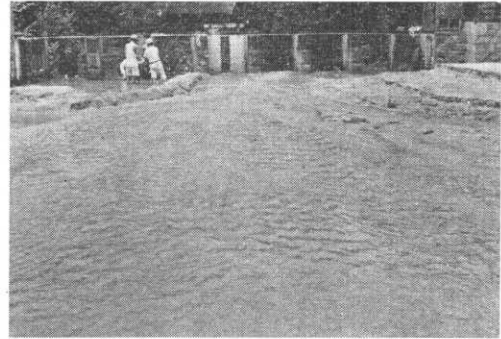


写真 4. 東山団地：量水堰堤湛水池に土砂堆積

#### 4. 台風17号（昭和33年8月26日）

降水量206mm、1時間最大雨量76.2mmを伴って17号台風は白浜と御坊の間に上陸し、近畿を縦断して富山湾に抜けたが、雨量は特に多いといふ程でもないが、強雨であったために各地にかなりの被害があった。



写真 5. 白坂団地：台風17号による林道流失

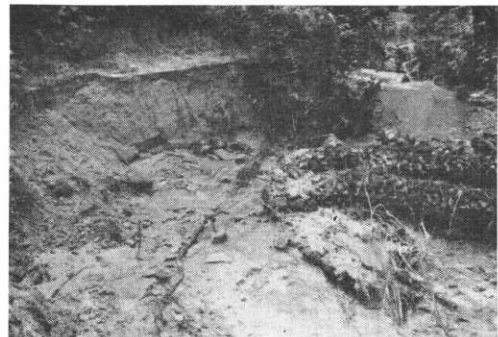


写真 6. 白坂団地：台風17号による蛇籠谷止工の破壊

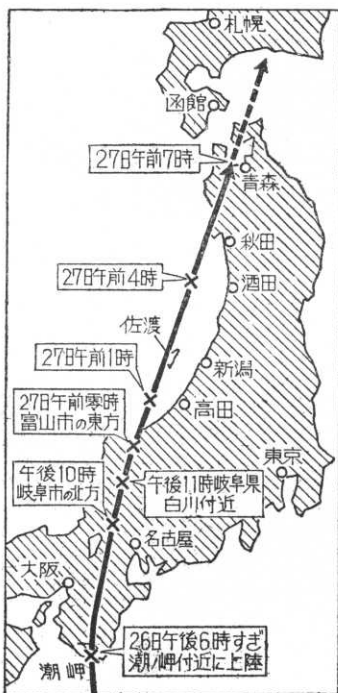
本演習林も各団地に被害があったが特に犬山、水野及び白坂団地が甚大であった。災害状況は次の通りである。

山腹工事崩壊 3カ所、コンクリート堰堤破壊 3カ所、張芝水路破壊 2カ所、護岸工破壊 2カ所、石積谷止工破壊 3カ所、林道流失 200m、量水堰堤湛水池土砂流入 740m<sup>3</sup>

この災害に対し 100 万円の復旧費が承認され、34年 1 月予算令達があり、年度内に工事を完了した。

#### 5. 台風 15 号 (伊勢湾台風・昭和 34 年 9 月 26 日)

降水量 137.2mm, 1 時間最大雨量 39.4mm, 10 分間平均最大風速 21.1m の規模で、台風 15 号



台風 15 号 (伊勢湾台風) の中心進路

は雨量はそれ程大したものではなかったが、猛烈な暴風で最大瞬間風速 43m という記録的なものであっただけに、到るところに家屋の倒壊あり、また各地の社寺境内の多くの巨木は倒木した。ことに伊勢湾沿岸地方は 4~5 m の高潮の来襲により、その災害は実に惨状を極めた。当演習林での災害は建物に比較的多く、屋根や雨戸を吹きとばされ家財は完全に水浸しとなった実に気の毒な職員もいた。これらの罹災者に対し本学部の諸先生並びに職員の方々から多大な見舞金を戴いたことは感銘の至りであった。

水野団地においては練積護岸工及びコンクリート土堰堤の破壊各一カ所、電話線は 2,000m に亘り寸断し、電柱は折損したり倒れたりした。百葉箱は 50m も吹き飛ばされてこわされ、また庭園木や見本木の倒木も多かった。

白坂団地では造林木、天然林の風倒木約 600 石に及び、山腹石積工、練石積谷止工及び空積石堰堤が破壊され、林道約 120m が流失した。



写真 7. 白坂団地: 台風 15 号 (伊勢湾台風) による風倒木



写真 8. 水野団地: 台風 15 号による倉庫倒壊

新居団地では高潮により最前線の砂丘が8カ所侵蝕されたが、その内4カ所がかなり深く侵蝕して海水が造林地内に流入した。

これらの災害に対して建物関係の復旧に99,000円、砂防関係に675,000円が承認され、前者が34年度に実行され、後者が35年度に実行することが条件であった。何れも該当年度内に順調に竣工せしめた。

各年度の工事内訳表は次の通りである。

## B. 鉱業権設定の概要

昭和26年鉱業法の改正によって、耐火粘土（ゲーゼルゴーン31番以上のもの）及びけい石が鉱業権の対象鉱物として取扱われることになったので、演習林内に埋蔵するこれらの鉱物も第三者が鉱業権を設定し得ることになった。

瀬戸市及びその周辺には、これらの鉱物が多量に埋蔵しているが、長年の採掘により最近はその量が激減し、将来の窯業生産が憂慮される実状である。演習林には300余haに亘りこれらの鉱物が埋蔵されており、古くから業者の間では“大学粘土”と称して名声が高く、この“大学粘土”は主として陶器及び画鉢の原料として多量に使用されているので、昔から地元の業者に払下げてきたが、採掘には一定の制限を加えてきたため現在ではその量においては見るべきものが残されている。このため民間からの鉱業権設定の出願が殺倒し、林内だけでも40余件に及んだ。鉱業権が民間の手に渡ると林内各所に乱掘が始まり、演習林の試験研究に直接に支障を来す恐れがあるのと、同時に荒地が急速に増加することが憂慮された。当演ではこの状態を防ぐために、全域に亘り鉱業権設定の出願をしたが、従来から林内で採掘してきた2名の業者には、以前から採掘している区域において鉱業権設定を許可した。

他の出願者には個別に協議を行ない、出願の取り下げを行なわしめてきたが、なお数人の者は演習林の協議に応じようとしなない実状であった。

通産局はこの紛争を憂慮し、仲裁につとめ、彼等には租鉱権により最小区域の採掘を許可することを条件として和解し、同時に演習林に鉱業権設定を許可した。（昭和32年3月）



写真 9. 水野団地：けい砂採掘状況

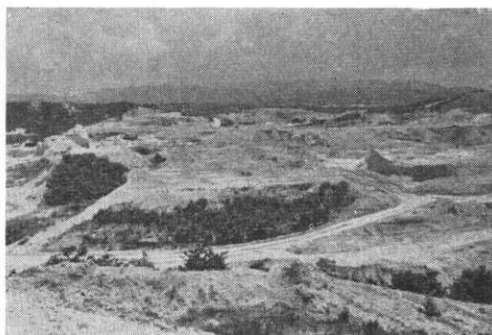


写真 10. 水野団地：採掘地全景



### C. 昭和25～27年に互り竣工した犬山団地の砂防工事のその後の概況

施工後既に10～8年を経過しており、一部を除いてはいずれも順調な成長をつづけているが、

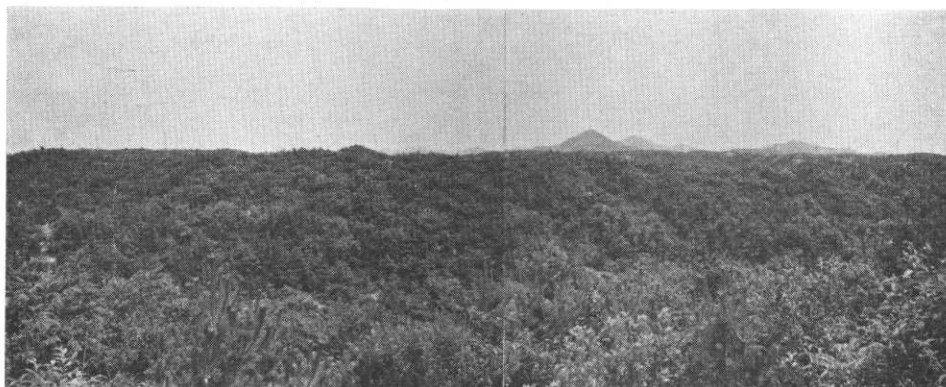


写真 11. 犬山団地：昭和25年度砂防工事施行地（36年7月2日写す）

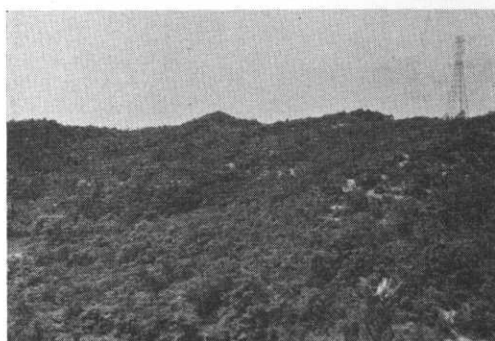


写真 12. 犬山団地：昭和25年度砂防工事施行地  
（36年7月2日写す）

一般に法切勾配の急な処では成績はよくない。竣工まもない28年7月，同9月，及び29年7月とその後もたびたび豪雨に見舞われたため，26年～27年度施工地がいずれも10数カ所，局部的に崩壊し，竣工年度の新しいものほど，被害が大きかった。25年度施工地は殆ど被害はなかった。この工事は12月に入って予算令達があったため全くの突貫工事であった。そのため法切土の充分落ち付かないうちに，次の作業を

すすめねばならなかったので豪雨による崩壊を憂慮したが，それが杞憂に終わったことは幸であった。

一般にクロマツの成長は良好であるが肥料木は概して不良である。殊にシシユ、ネムは枯死または衰退が甚しく，これにひきかえニセアカシア，ヤマハンノキは5～6年までは非常に良好な成長をつづけたが，その後次第に衰退し枯死するものが続出した。しかし中腹以下の法切土の堆積地に植栽したニセアカシアはいまほ良好な成長をつづけている。

ヤシャブシ類は最初から中庸な成長をつづけ，峯筋に近い立地条件のわるい個所を除いては現在も成長は良好である。ヤマモモは植栽当時から良好な成長をつづけ，ことに峯通りの最も条件の悪い土地にでもよく成長して現在では見事なヤマモモ林を形成している。従って最近各地ではヤマモモを砂防植栽木として用いるものが多くなった。一般にヤマモモは幼樹のうちはヤシャブシ類に比し，成長が緩慢であると言われているが，当演の成績では優劣が認められないほどの成長ぶりである。

植栽期は一般の樹種のように3月植栽では霜害のために全滅したにがい経験をくり返したがこの地方では、晩霜をすぎた4月下旬～5月上旬が適期である。

#### D. 山腹コンクリートブロック工の効果について

白坂団地には約25haの崩壊地がある。これは花崗岩の風化侵蝕で出来た崩壊地だけに、峯筋に多く発生し山骨を露出してその崩壊斜面は急峻で、全く手のつけ様のない状態である。それに基岩は風化がはげしく、降雨のたびにおびただしい風化物が流出して水量観測を一時的に不能



写真 13. 白坂団地：コンクリートブロック工

にすることがしばしばである。そのため本流、支流には数多くの砂防堰堤が築設されているが、既に各堰堤の堆積体は充満し、増水のたびに土砂は湛水池に流れ込む現状である。このような状態であるから堰堤に主力を注いでも十分な効果はあがらない。それで土砂の生産される崩壊地において侵蝕を防止し、一方では風化物の安定をはかる施設が必要である。それには崩壊地の口元から階段式にコンクリートブロックを積上げて土砂止ブロック工を設け、その上方にヤマハンノキ、ヤシャブシ類を植栽することは非常に効果をあげている。

本年度もこの工事を風化のもっとも甚だしい個所から逐次実行の予定である。最初は間知石を使って築造したが近くに石材がなくなるにつれ遠隔の地から運ばねばならなくなり、従って運搬に莫大な経費を要する

ので、現地で手頃な大きさのブロックを作り実施したが経費も比較的安く、目的を達せられた。

工事の単価表は次の通りである。

山腹コンクリートブロック工			1 m <sup>2</sup> 当り		ブロックの大きさ 面 12×20cm, 扣 40cm	
名 称	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考	
セメント	85	疋	7.40 <sup>円</sup>	629.00 <sup>円</sup>	ラブルコンクリート配合 1:4	
砂 採 集	0.17	人	540.	91.80	0.15m <sup>3</sup>	
栗石採集	0.05	〃	540.	27.00	0.07m <sup>3</sup> ラブル用	
ブロック製作	1.3	〃	540.	702.00	1m <sup>2</sup> に4カ所を要す	
〃 運搬	0.5	〃	540.	270.00	距離 50m 上り勾配	
据 付	0.6	〃	540.	320.00	床掘, 据付共に行う	
雑 役	0.2	〃	540.	108.00	材料, 運搬, その他雑役	
計				2,147.80	一コ材料共 51円20 但し実体コンクリート 0.6 中詰石 0.4	

## E. 送電及び上水道工事

### 1. 送電施設

白坂試験地では試験用及び灯用として送電線の引込み工事を実行した。この付近では冬季は零下8～10度に降ることが、しばしばあり、それがために量水堰堤湛水池が凍結して、自記水位計が役立たなくなることがある。その場合にも電気暖房により、これを防ぎ、又自記雨量計の凍結も未然に防ぐことが出来る。当試験地では従来から自家発電の施設があり、灯用として使用してきたが、冬季の渇水期、又は夏期の乾燥期には減水甚しく発電不能になる期間が長く、そのたびに代用灯を使用するなど苦心してきたが、今回の送電施設の完成によって生活の面にも試験研究にも明るい見通しがついた。なおこの工事は中部電力、株式会社の指定請負会社、東海電気工業会社が担当した。

送電線延長	1,646m
電 圧	6,600V
工 費	436,000円

### 2. 上水道施設

最近寄宿舍の利用が頻繁となったので、従来からの不完全な井戸では十分な給水が出来ない。ことに冬季から春季に亘る渇水期には全く井戸水は涸渇することがあるので数100米も離れた場所から運搬しなければならない状態がつづいていた。この苦勞を除き、一方では防火用も兼ねて上水道の引込みを希望していたが、たまたま瀬戸市の上水道が延長されて、約250m離れた場所にまで布設されたので給水施設を完成させることができた。

4吋エタニットパイプ 延長265m。

消火栓2カ所。 水圧50 lb。

工費 406,120円

これによって長年苦勞した水不足は解決し、更に防火用としても2台の大型及び小型の自動消防ポンプが同時に放水可能であり、防火の点においても万全を期することができた。

## F. 犬山団地成沢林道工事について

成沢団地の入口に当たる処までは県道が通じているが、これから奥地に通ずるトラックの道路がひらけていないために、工事用資材その他の運搬に多大な不便を感じていた。28年の豪雨により奥地の演習林及び民有地（耕地）に甚大な被害があり、この復旧に当りトラック道路の必要に迫られ、地元からも早急着工の陳情があった。たまたま中村演習林長が現地の惨状を視察せられ、急速に具体化し第一期工事として即時実行することになった。

これより奥、約300mまでは民有地で耕地に沿ふ小径であるが、33年度に犬山市の協力を得て地元部落民の献身的な努力により幅員3.6mの道路を完成した。更にこれより先きが再び演習林となるので第二期工事として34年度に673.8m、幅員3.6mの林道を完成した。

この林道は最初から耕地に沿ふ平坦地であるが、ここから初めて山地に入り山腹を斜めに横切り、やや急勾配をなして峯通りに至る。これより先きは比較的起伏の少ない峯筋を通っている。

この工事の実行には佐藤工業株式会社がブルドーザーを使って協力してくれたので、工費も安く工事期間も短くて完成させることができた。

36年度には更にこの先き約1,260mを完成の予定である。これが竣工のあかつきは団地を縦貫する唯一のトラック道路となり便益は大きなものがある。

犬山団地 成沢林道竣工経費

年 度	名 称	数 量	単 位	金 額	備 考
昭和30年度 第一期工事	成沢・林道新設工事 林道延長 労務費 材料費 計	352.3 730.0	m 人	円 255,400 94,600 350,000	幅員 3.60m 芝、砂利、土管、 着手、昭和30年3月1日 竣工、"年3月28日
昭和34年度 第二期工事	林道延長 労務費 材料費 計	673.8 519.0	m 人	221,760 52,430 274,190	佐藤工業がブルドーザを使って協力した為、労務費が節約出来た 幅員 3.60m 着手、昭和35年1月26日 竣工、"年3月31日
	合 計			624,190	

### G. 水量観測試験の拡充強化

従来の水量観測は地表水、中間水、及び地下水の総合された結果の観測であって、水文学的価値を検討するに当たっても、統計的な取扱いにおいてもその傾向を知る程度であった。従ってこれらの現象に対し、理論的な追求をするにたる資料とはいえない状態にあった。

しかるに、水資源を対象としての森林の経営方針を進めるに当り、流域内における水の動態を究明する基礎資料並びにその解析が必要となっている。

これらの要求に応えるために特に、従来から流量記録解析の際に盲点とされていた地下水の山

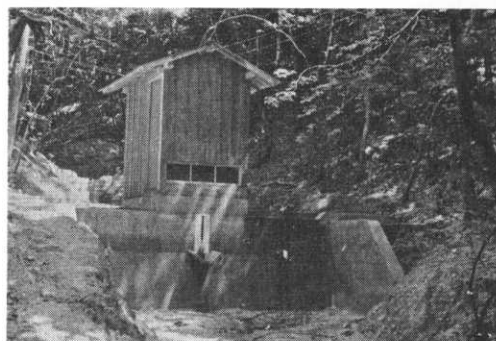


写真 14. 白坂団地：地下水観測ダム

地における動態を把握するために、白坂の比較流量測定試験地の水源地域に、それぞれ地下水観測試験地を更に設置した。観測施設は地下水流出測定ダムと地下水位観測井戸から出来ている。これらの流域からの地下流は地表流と分離され、単独に測定され得るように堰堤が築設されている。観測井戸はこれらの流域内に2個ずつ設置れき地下水位の変動が測定されている。

これらの測定施設には、すべて自記水位計を装置し、自記記録を可能にした。

## H. 私設電話路線（演習林専用）一部変更

事務所から白坂試験地に通ずる電話路線は、東山団地を経て山越しに白坂団地に架設されていた。東山団地から白坂団地に至る間は山が深く急峻であるのと同時に、ほとんどが私有林であるので障害木の取り除きにも一々所有者の同意を求めねばならず、また電柱その他の資材の運搬には莫大な労費を要する現状である。最近はこの私有林の作業のために人の出入りが多くなり、架線の盗難がひんぴんと起こり、事故の発見にも大変であった。

たまたま電柱の取替え時期になっていたので、この機会に路線を変更して品野鳥原より市道に沿って赤津部落の平坦地に出て、白坂団地に通ずるように計画した。この路線の通る土地はほとんど民有地であり、山寄りの耕地に沿って架設したため障害となるものは少なく、その上電柱などの長大資材の運搬には頗る容易であり、従って工費は非常に安く完成することができた。同時に電話線の事故も全くなり管理にも便利となった。

この工事については地元部落では全面的に協力し、全部の電柱敷地も無償で契約が出来感謝にたえない。このため東山庁舎への電話線は支線となった。

路線変更延長 4,981.4m 工費 237,000円

### I. 用途廃止及び所管換えについて

#### 1. 道路、学校など公共施設の敷地の用途廃止について

古くから演習林内の各地に於て愛知県ならびに瀬戸及び犬山両市に対して、道路、小・中学校及び公立病院の敷地を貸付けていたが、たまたま白坂団地の県道改修工事に伴い愛知県知事から土地使用許可願の申請があったのに対して大蔵省から返地の見込みのない公共施設の敷地は用途廃止するよう要請があったので、本部と協議の結果該用地は一括して用途廃止することになった。35年度にこれらの土地の再調査を行ない、書類を作成し目下その手続中である。

要用途廃止面積は次の通りである。

団地別	県貸付面積(坪)		市貸付面積(坪) (瀬戸市及び犬山市)					計	備 考
	道 路	個所	道 路	個所	学 校	個所	病 院		
白 坂	4,270.20	1						4,270.27	白坂, 水野は, 瀬戸市内小・中学校
水 野	5,042.45	5	15,853.01	12	19,466.40	2	2,210.77	42,572.63	
犬 山	2,505.25	1	5,236.42	2	9,594.93	1		17,336.60	
計	11,817.9		21,089.43		29,061.33		2,210.77	64,179.43	

#### 2. 建設省所管国有財産（土地）の所管換えについて

新居団地はほぼ平行する二つの砂丘にはさまれた細長い帯状の海岸砂地であって、海岸線に沿って東西に約2kmに亘っている。しかもその境界線は両砂丘の中腹を走っているため砂丘の頂部にまで海岸砂防造林試験地として使用できない不便があった。それで昭和9年にこの部分を要行為承認地として管理者静岡県知事より使用承認を得て今日まで試験事業を実行してきた。しか

るに今回この附近一帯の砂地を静岡県が無償払下げを受けることとなったので、当演においても前記地域 32,745 坪を建設省より無償所管換えを受けることとなり、既に同省の同意も得られ、文部、大蔵両省の協議も完了したので近いうちに事務手続を終える予定である。

昭和 29 年度 工 費 内 訳 表

場 所	名 称	数 量	単 位	金 額	摘 要
犬 山 団 地	山 腹 工 事			円	5 カ所
	施 工 面 積	3.0	ha		
	筋 工 延 長	9,000	m		
	張 芝 水 路 延 長	1,200	//		
	鉄 線 蛇 籠 延 長	200	//		
	労 務 費	1,531.5	人	462,440	
	材 料 費			254,560	
	計			717,000	
溪 間 工 事	コ ン ク リ ー ト 土 堰 堤	14.0	m <sup>3</sup>		1 カ所
	労 務 費	92.0	人	30,360	
	材 料 費			52,200	
	計			82,560	
	犬 山 団 地 計			799,560	
水 野 団 地	山 腹 工 事				4 カ所
	施 工 面 積	1.3	ha		
	筋 工 延 長	3,900	m		
	張 芝 水 路 延 長	520	//		
	鉄 線 蛇 籠 延 長	100	//		
	労 務 費	810.0	人	274,100	
	材 料 費			115,344	
	計			389,440	
	水 野 団 地 合 計			389,440	
東 山 団 地	林 道 補 修	200	m		4 カ所
	橋 梁 補 修	25.65	m <sup>2</sup>		
	労 務 費	282	人	98,700	
	材 料 費			101,300	
	計			200,000	
	東 山 団 地 合 計			200,000	
新 居 団 地	砂 丘 決 潰 復 旧	2,000	m <sup>3</sup>		9 カ所 1 カ所
	堆 砂 板 垣 復	100	m		
	材 務 料 費	733	人	217,300	
	計			83,700	
	新 居 団 地 合 計			301,000	
	新 居 団 地 合 計			301,000	
	総 計			1,690,000	

昭和31年度工費内訳表

場 所	名 称	数 量	単 位	金 額	摘 要
犬 山 団 地	山 腹 工 事				3カ所
	施工面積	0.12	ha		
	筋工延長	685	m		
	張芝水路延長	108	〃		
	鉄線蛇籠延長	42	〃		
	労務費	223.5	人	75,990	
	材料費			22,880	
	計			98,870	
	溪 間 工 事				1カ所
	練積石護岸工	119	m <sup>2</sup>		
空石積護岸工	47	〃			
コンクリート堰堤補修	2.7	m <sup>3</sup>			
鉄線蛇籠補修	41	m			
空石積堰堤補修	45	m <sup>3</sup>			
労務費	475.0	人	177,310		
材料費			133,130		
計			310,440		
犬山団地合計			409,310		
水 野 団 地	山 腹 工 事				2カ所
	施工面積	0.27	ha		
	筋工延長	1,065	m		
	張芝水路延長	186	〃		
	鉄線蛇籠延長	10	〃		
	労務費	274.5	人	93,330	
	材料費			15,160	
	計			108,490	
	溪 間 工 事				1カ所
	水路改修	26.0	m		
労務費	130	人	44,200		
計			44,200		
水野団地合計			152,690		
總 計			562,000		

昭和32年度工費内訳表

場 所	名 称	数 量	単 位	金 額	摘 要
水 野 団 地	山 腹 工 事				4カ所
	施工面積	0.928	ha		
	筋工延長	1,560	m		
	張芝水路延長	282	〃		

	鉄線蛇籠延長 勞務費 材料費	345 858	m 人	333,670 179,395	
	計			513,065	
	溪間工事 空積石堰堤補修 勞務費 材料費	9.5 25.5	m <sup>3</sup> 人	12,155 6,650	1カ所
	雜費			26,550	
	計			45,355	
	水野団地合計			558,420	
東山団地	溪間工事 石積谷止工 空積石堰堤 鉄線蛇籠 空積石堰堤補修 勞務費 材料費	174.8 15.4 18.0 11.9 68.9	m <sup>2</sup> m <sup>3</sup> m m <sup>3</sup> 人	297,960 211,000	3カ所 1カ所 " "
	計			508,960	
	事業外 量水堰堤土砂搬出 官舎上水道修繕 電話線修繕 勞務費 材料費 雜費	240 150 1,040 148.5	m <sup>3</sup> m m 人	59,255 124,490 34,630	1カ所
	計			218,375	
	東山団地合計			727,335	
白坂団地	溪間工事 空積石堰堤	42.56	m <sup>3</sup>		1カ所
	"	24.48	"		"
	"	27.38	"		"
	コンクリート堰堤補修	3.5	"		"
	空積石堰堤補修	6.5	"		1カ所
	鉄線蛇籠補修	47	m		2カ所
	石積谷止工補修	51.6	m <sup>2</sup>		2カ所
	林道補修 勞務費 材料費	200 1,381.5	m 人	583,615 272,150	
	計			855,765	
	事業外 量水堰堤土砂搬出	562	m <sup>3</sup>		



	勞務費	241	人	93,990	
	雜費			47,490	
	計			141,490	
	白坂団地合計			997,245	
	總計			<b>2,283,000</b>	

昭和33年度工費内訳表

場所	名称	数量	単位	金額	摘要
犬山団地	山腹工事				
	施工面積	0.115	ha		1カ所
	筋工延長	300	m		
	張芝水路延長	50	〃		
	勞務費	104	人	40,560	
	材料費			9,750	
	計			50,310	
	溪間工事				
	練石積護岸工	30	m <sup>2</sup>		1カ所
	空石積護岸工	96.5	〃		〃
コンクリート堰堤補修	5.0	m <sup>3</sup>		2カ所	
〃	3.0	〃			
勞務費	203	人	90,125		
材料費			119,966		
雜費			12,599		
計			222,690		
犬山団地合計			273,000		
水野団地	山腹工事				
	施工面積	0.36	ha		2カ所
	筋工延長	1,201	m		
	張芝水路延長	230	m		
	勞務費	347	人	135,330	
	材料費			52,180	
	計			187,510	
	溪間工事				
	石積谷止工	43.4	m <sup>2</sup>		2カ所
	鉄線蛇籠護岸工	49.0	m		1カ所
勞務費	173.5	人	72,215		
材料費			51,898		
雜費			3,377		
計			127,490		
水野団地合計			315,000		

東山団地	量水堰堤土砂搬出 労務費	180 77	m <sup>3</sup> 人		
	計			30,000	
	東山団地合計			30,000	
白坂団地	溪間工事 鉄線蛇籠護岸工	20	m		1カ所
	鉄線蛇籠補修	15	//		//
	石積谷止工補修	5.4	m <sup>2</sup>		//
	コンクリート堰堤補修	7.7 (200)	m <sup>3</sup>		//
	林道補修 労務費	108 528	m <sup>2</sup> 人	219,365	
	材料費			59,765	
	計			279,130	
事業外	量水堰堤土砂搬出 労務費	562 241	m <sup>3</sup> 人	93,990	
	雑費			13,880	
	計			107,870	
白坂団地合計			387,000		
総計			1,005,000		

## 昭和34年度工事内訳表 (伊勢湾台風)

場所	名称	数量	単位	金額	摘要
水野団地	庁舎官舎屋根瓦修繕 労務費	25	人	11,040	8カ所
	材料費			87,960	
	計			99,000	

## 昭和35年度工事内訳表 (伊勢湾台風)

場所	名称	数量	単位	金額	摘要
水野団地	山腹工事 練石積土留工	6.6	m <sup>2</sup>		2カ所
	工種別試験地山腹石積	30	m <sup>2</sup>		
	ススキ筋工	2,925	m <sup>2</sup>		
	労務費	226	人	96,085	
	材料費			89,500	
計			185,585		
溪間工事	コンクリート堰堤補修 労務費	3,538 15	m <sup>3</sup> 人	6,110	

	材 料 費				13,768	
	計				19,878	
	電 話 復 旧 勞 務 費 材 料 費	2 29	km 人		11,720	
	計				81,840	
	計				93,560	
水 野 団 地	見 本 林 倒 木 復 旧 勞 務 費 材 料 費	50 90	本 人		33,675	
	計				3,750	
	計				37,425	
	気 象 観 測 百 葉 箱 補 修 百 葉 箱 勞 務 費	1 1 7	コ コ 人		20,000	
	計				2,950	
	計				22,950	
	水 野 団 地 合 計				359,398	
白 坂 団 地	山 腹 工 事 山 腹 石 積 工 勞 務 費 材 料 費	26 68.5	m <sup>2</sup> 人		31,155	
	計				25,970	
	計				57,125	
	溪 間 工 事 空 積 石 堰 堤 補 修 練 石 積 谷 止 工 林 道 補 修 勞 務 費 材 料 費	13.24 19 117.50 240	m <sup>3</sup> m <sup>2</sup> m 人		104,860	練積護岸 45m <sup>2</sup> , 盛土 170m <sup>2</sup>
	計				67,806	
	計				172,666	
	量 水 堰 堤 土 砂 搬 出 勞 務 費	280 40.5	m <sup>3</sup> 人		14,000	
	計				14,000	
	白 坂 団 地 合 計				243,791	
新 居 団 地	静 砂 垣 復 旧 勞 務 費 材 料 費	200 95	m 人		30,085	
	計				41,726	
	計				71,811	
	新 居 団 地 合 計				71,811	
35 年 度 総 計					675,000	
災 害 旧 復 費 総 計					6,314,000	29年度より 35年度まで

## VI. 富士演習林

### A. 寒地性樹種育苗育林試験

富士山麓をはじめ、中部山岳林の造林樹種としては、これまでは主としてカラマツのみが取り上げられてきたが、近年次第にカラマツ以外の寒地性樹種への関心が高まってきた。富士演習林においても昭和30年度から、これ等寒地性樹種の育苗方法と、その造林樹種としての適否を判定するための試験に着手し、現在なお継続実施中である。

なお、本試験は、山梨県林業試験場の要請もあり、実施に当つては、随時その協力を得て行なっている。

### B. 一般管理

管理面では、地元中野村長からの出願によって昭和30年に、役場建設用地を野球場の北端の部分に1,116坪貸下げた。さらに、昭和35年に同村長から中学校運動場敷地として約3,300坪の出願があったが、これについては財務局の指示もあり、協議の結果、従前からの貸下地（中学校敷地3,664坪、同教員住宅敷地999坪、道路敷390坪）と合わせて合計9,453坪を用途廃止の上大蔵省に引継ぐこととなり、昭和35年11月にその手続を完了した。

## VII. 樹芸研究所

### A 一般管理

イ 昭和30年3月12日、加納の裏山に寄贈を受けた山林約4.07haの登記を完了した。翌31年度には上記境界へ石標を設置した。

ロ 昭和30年8月31日、賀茂郡南六カ村の町村合併により、今まで行政面では2カ村（南中村、南上村）にまたがっていた樹芸研究所も、ここに1新町のもとに含まれることになり、なにかと町当局との事務連絡も便利になった。

### B 22号台風による災害の復旧工事

昭和33年9月26日伊豆半島に上陸し、狩野川地区に大被害をもたらした台風22号は当地方においてもかなりの豪雨をとめない、青野川のはんらんによって村道が拾数ヶ所にわたって崩潰した。被害の復旧工事費予算120万円の要求に対し、80万円が承認された。工事は予算の配布の都合にて、翌34年度7月に完工8月に完了した。

### C 外来植物目録

先に（昭和30年演習林第10号）目録をあげておいたが、その後新たに増加したものの或は消滅したのもかなりあるので新たに整理した。

## 東京大学農学部附属樹芸研究所

### 外 来 植 物 目 録 \*

1 9 6 1

- 
- \* 1. この目録は温室植物および構内に植栽した外来植物だけを記載した。
2. 演習林第10号（1955年）に報告した樹芸研究所の外来植物目録に記載されたものに、このたびさらに追加あるいは削除（枯死のため）したものを含め総数89科405種を記載した。
3. 科名は日本植物分類学会編の標準科名表によった。排列順序は学名のA. B. C順にならべた。
4. 植物名の頭の記号は野外での越冬試験の結果をしめたもので
- ◎ は野外でも越冬したもの
- は地上部は枯死したが春季地中より発芽再生したもの
- △ はまったく枯死したもの
- また当然越冬できると思われるものやまだ越冬試験をしないものには記号をつけなかった。

学名	和名	原産地	用途
<b>Pteridophyta</b> しだ植物			
<b>Marattiaceae</b> リュウビンタイ科			
<i>Angiopteris evecta</i> HOFFM.	りゅうびんたい	台湾	観賞
<b>Polypodiaceae</b> ウラボシ科			
<i>Asplenium anirquum</i> MAKINO	おおたにわたり	本邦南部	観賞
<i>Diplazium esculentum</i> SWARTZ	くわれしだ	台湾	観賞・嫩葉一食用
<i>Platyserium bifurcatum</i> C. CHR.	びかくしだ	オーストラリア	観賞
<b>Gymnospermae</b> 裸子植物			
<b>Araucariaceae</b> ナンヨウスギ科			
△ <i>Agathis alba</i> FOXW.	まにらこぼるのき	スマトラ, ジャロ フィリッピン	樹脂—ワニス, 封蠟, 琥珀代 用, 材—建築板材, 家具, 楽器
<i>A. australis</i> SALISB.	かうりこぼるのき	ニュージーランド	樹脂—屋外用塗料, リノリウ ム, 材—用材
◎ <i>Araucaria angustifolia</i> KUNTZE	ばらなまつ	ブラジル南東部の 大湿林	果実—食用, 材—バルブ用材
◎ <i>A. cunninghamii</i> SWEET	なんようすぎ	オーストラリア	建築材, 造船材
<b>Cupressaceae</b> ヒノキ科			
<i>Chamaecyparis lawsoniana</i> PARL.	ろーそんひのき	北アメリカ西部	用材, 庭園樹
<i>Cupressus sempervirens</i> L. var. <i>horizontalis</i> GORD.	いたりーさいぶれす においひば	ヨーロッパ南部	庭園樹 "
<i>Libocedrus decurrens</i> TORR.	おにひば	北アメリカ, オレゴ ン, カリフォルニア	"
<b>Cycadaceae</b> ソテツ科			
<i>Cycas revoluta</i> THUNB.	そてつ	九州南部, 琉球	庭園用
<i>Macrozamia spiralis</i> MIQ.			
<b>Pinaceae</b> マツ科			
<i>Keteleeria davidiana</i> BEISS. var. <i>formosana</i> HAYATA	ゆさん	台湾	庭園樹, 用材
<i>Picea abies</i> KARST.	どいつとうひ	ヨーロッパ	バルブ材, クリスマストリー 庭園樹
<i>Pinus bungeana</i> ZUCC.	しろまつ	中国北西部	樹脂, 用材
<i>P. canariensis</i> C. SMITH.		カナリー島	" "
<i>P. caribaea</i> MORELET		北アメリカ東部沿 岸地方	用材, バルブ
<i>P. echinata</i> MILL.		北アメリカ	" "
<i>P. greggi</i> ENGELM.		カナリー島	樹脂, 用材

学名	和名	原産地	用途
<i>Pinus halepensis</i> MILL.	おうしゅうかさまつ	イタリア	樹脂, 用材
<i>P. insularis</i> ENDL.	べんげつとまつ	フィリッピン	建築材, 電柱, パルプ, 松脂
<i>P. khasya</i> ROYLE	かしまつ	インドシナ	建築, 指物
<i>P. luchuensis</i> MAYR	りうきうまつ	琉球	用材
<i>P. massoniana</i> LAMB.	たいわんあかまつ	台湾	樹脂, 用材
<i>P. merkusii</i> JUNGH. et DE VRIES	すまとらまつ	スマトラ	// 建築材, テレピン油
<i>P. michoacana</i>			// 用材
<i>P. nigra</i> ARNOLD		イタリア	// //
<i>P. palustris</i> MILL.	だいおうまつ	北アメリカ東南部	用材, 切葉, 庭園樹
<i>P. pinaster</i> AIT.	ふらんす海岸松	南ヨーロッパ	松脂, 建築材
<i>P. ponderosa</i> LAWS.		北アメリカ西部	樹脂, 用材
<i>P. radiata</i> DON		北アメリカ南部	用材, パルプ
<i>P. rigida</i> MILL.		北アメリカ	松脂採集, 薪材, 庭園樹
<i>P. silvestris</i> L.	おうしゅうあかまつ	ヨーロッパ	樹脂, 用材
<i>P. sinensis</i> LAMBERT		中国	樹脂, 用材
<i>P. strobus</i> L.	すとろーぶまつ	北アメリカ東部	用材
<i>P. taeda</i> L.		北アメリカ	樹脂—テレピン油
<i>P. uncinata</i> RAMOND		ポルトガル	樹脂, 用材

**Taxodiaceae**      ス   ギ   科

<i>Cunninghamia lanceolata</i> HOOKER	こうようざん	中国中南部	建築, 船舶, 家具, パルプ
var. <i>konishi</i> FUJITA	らんだいすぎ	台湾	
<i>Glyptostrobus pensilis</i> K. KOCH	水松	中国南部	
<i>Metasequoia glyptostroboides</i> HU et CHENG	めたせこいや	中国, 四川省	
<i>Sequoia sempervirens</i> ENDL.	せんぺるせこいや	北アメリカ	建築材, 枕木
<i>Sequoiadendron giganteum</i> BUCHHOLZ	せこいや	北アメリカ, シェラネバダ山脈	用材
<i>Taiwania criptomeroioides</i> HAYATA	たいわんすぎ	台湾	
<i>Taxodium distichum</i> RICH.	らくうしよう	北アメリカ	庭園樹
<i>T. mucronatum</i> TEN.	めきしと落羽松	メキシコ	

双 子 葉 類

**Acanthaceae**      キツネノマゴ科

△ <i>Aphelandra spuarrosa</i> NEES var. <i>leopoldii</i> von HOVTTÉ	きんようぼく	ブラジル	観賞
○ <i>Beloperone guttata</i> T. S. BLANDEGEE	こえびそう	メキシコ	切花

学 名	和 名	原 産 地	用 途
<i>Eranthemum nervosum</i> R. BR.	るりはながさ	インド	観賞
<i>Fittonia veschaffeltii</i> E. COEM.	べにあみめぐさ	ブラジル	〃
var. <i>argyroneura</i> NICHOLS.	しろあみめぐさ	ペルー	〃
<i>Iacobinia caranea</i> NICHOLS.	さんごばな	ブラジル	〃
<i>Strobilanthes dyerianus</i> MASS.	うらむらさき	ビルマ	〃
<b>Aceraceae</b> カ エ デ 科			
<i>Acer negundo</i> L.	ねぐんどかえで	北アメリカ中北部	用材
<b>Amaranthaceae</b> ヒ ユ 科			
<i>Iresine herbstii</i> HOOK. F.	けしよびゆ	ブラジル南部	花壇用
△ <i>Telanthera betzickiana</i> REGEL var. <i>aurea</i> HORT. f. <i>nana—compacta</i> HORT.	あるた-なんせら	熱帯アメリカ	〃
<b>Amygdalaceae</b> サ ク ラ 科			
<i>Prunus serrasoides</i>		シッキム	
<b>Anacardiaceae</b> ウ ル シ 科			
<i>Anacardium occidentale</i> L.	かしゅう	熱帯アメリカ	果物—ウルシ, 食用, 花梗— 食用, 樹液—アラビヤゴム代 用, 防腐剤葉, 樹皮—タンニ ン, 黒色染料
<i>Dracontomelum edule</i> SKEELS.			用材
◎ <i>Pistacia chinensis</i> BGE.	楷	中国	
◎ <i>P. formosana</i> MATS.	らんしんぼく	台湾	材—工芸用
△ <i>Rhus succedanea</i> L. var. <i>dumortieri</i> KUDO et MATSUMURA	あんなんうるし	インドシナ	塗料
<i>Mangifera indica</i> L.	まんぎょう	インド, マレー	果実—食用, 薬用, 緩下剤
<i>Schinus molle</i> L. var. <i>areira</i> (L.) DC.			
<b>Annonaceae</b> バンレイシ科			
<i>Annona muricata</i> L.	とげばんれいし	熱帯アメリカ	果汁—飲料
△ <i>Annona squamosa</i> L.	ばんれいし	西インド	果実—食用
◎ <i>Asimina trieoba</i> DUNAL.	ほぼーのき	北アメリカ	〃 庭園樹
<i>Canangium odoratum</i> BAIL.	いらんいらん	フィリッピン	花—香水
<b>Apocynaceae</b> キョウチクトウ科			
○ <i>Allamanda cathartica</i> L. var. <i>hendersonii</i> RAFFL.	あらまんだ	ブラジル	観賞
△ <i>Carissa Caranpas</i> L.	かりっさ	南アメリカ	果実—食用, ジャム, ゼリー 観賞木, 生垣用
<i>Plumeria rubra</i> L.	いんどそけい	メキシコ, ベネゼ ラ	観賞



学名	和名	原産地	用途
<i>Strophanthus divaricatus</i> HOOK. et ARN.		南アフリカ	種子—強心剤, 利尿
<i>S. gratus</i> FRANCHET		東アフリカ	蒴果—強心剤, 利尿剤, 矢毒
<i>Strophanthus speciosus</i> REBER.			
△ <i>Thevetia nereifolia</i> JUSS.	きばなきようちく とう	メキシコ	観賞
<i>Vinca rosea</i> L.	にちにちそう	マダカスカル島	"
L. var. <i>alba</i> HORT.		"	"
<b>Araliaceae</b> ウコギ科			
◎ <i>Fatsia papyrifera</i> VENT.	かみやつで	中国, 台湾	随一通草紙, 絵葉書, 短冊
<b>Asclepiadaceae</b> ガガイモ科			
<i>Asclepias curassavica</i> L.	とうわた	熱帯アメリカ	種子毛—充填材料, ふとん, クッション, 枕
△ <i>Hoya carnosa</i> R. BR.	さくららん	琉球, 台湾	観賞
var. <i>variegata</i> DE VRIES	ふいりさくららん	"	"
<b>Begoniaceae</b> シュウカイドウ科			
<i>Begonia argentes-guttata</i> LEMOINE	あまのがわべごに や		観賞
<i>B. schmidtiana</i> REGEL.	ひめべごにや	ブラジル	"
<b>Betulaceae</b> カバノキ科			
<i>Alnus cordata</i> DESF.		イタリア, コルシカ	
<i>A. glutinosa</i> GAERTN.		ヨーロッパ, コーカサ ス, シベリヤ, 北アフ リカ	
<i>A. incana</i> MOENCH.		ヨーロッパ, コーカサ ス, 北アメリカ	
<i>A. nepalensis</i>		ハワイ	
<b>Bignoniaceae</b> ノウゼンカズラ科			
△ <i>Jacaranda acutifolia</i> HUMB. et BONPL.	じやからんだ	ブラジル	観賞
△ <i>Pandorea jasminoides</i> SCHUM.	なんてんそけい	オーストラリア	"
△ <i>Spathodea campanulata</i> BEAUV.	かえんぼく	西部熱帯アフリカ	日蔭樹, 観賞
○ <i>Tecomaria capensis</i> SEEM.	ひめのうぜんかず ら	南アフリカ	観賞
<b>Bixaceae</b> ベニノキ科			
△ <i>Bixa orellana</i> L.	べにのき	ブラジル	種子—染料, 食品の着色料, 材—摩擦発火剤
<b>Bombaceae</b> パンヤ科			
<i>Ceiba pentandra</i> GAERTN.	かぼっくのき	インド, マレーシ ア, 熱帯アメリカ	種子綿毛—救命胴衣, クッシ ョン, 種子—油

学名	和名	原産地	用途
<i>Bombax malabaricum</i> DC.	ほんやのき	インド, ジャワ	種子綿毛—救命胴衣, 枕, クッション
<b>Boraginaceae</b>		ムラサキ科	
<i>Heliotropium peruvianum</i> L.	へりおとろ—ぶ	ペルー	花—香水, 観賞
<b>Cactaceae</b>		サボテン科	
<i>Cereus marginatus</i> DC.	はくうんかく	メキシコ	観賞
<i>C. silvestrii</i> SPEG.		アルゼンチン	〃
<i>Epiphyllum truncatum</i> HAW.	かにさぼてん	ブラジル	〃
<i>Opuntia elongata</i> HORT. forma albo-variegata HORT.	ほうけん	メキシコ	〃
<i>O. leucotricha</i> DC.	ぎんせかい	〃	〃
<i>O. microdasys</i> LEM.	きんえぼうし	〃	〃
<i>Phyllocactus ackermanni</i> SALM. var. hybridus HORT.	べにくじゃく	〃	〃
<i>P. grandis</i> LEM.	月下の美人	〃	〃
<b>Caricaceae</b>		パパイヤ科	
△ <i>Carica Papaya</i> L.	ばいばい	ブラジル	果実—食用, 未熟果—パパイン, 薬用, 消化薬
<b>Casuarinaceae</b>		モクマオウ科	
◎ <i>Casuarina equisetifolia</i> FORST.	もくまおう	オーストラリア	薪炭材, 砂防林, 防潮林, 水中材, 樹皮—タンニン
<i>C. glauca</i> SIEB.		〃	〃
<b>Combretaceae</b>		シクンシ科	
△ <i>Terminalia catappa</i> L.	ももたまな	マレー	樹皮, 葉—染料, 材—床柱,
○ <i>T. chebula</i> RETZ.	みろばらん	インド	果実—タンニン
<b>Compositae</b>		キク科	
<i>Gynura aurantiaca</i> DC.	びろうどさんしち	ジャワ	観賞
<b>Convolvulaceae</b>		ヒルガオ科	
<i>Ipomoea reptans</i> L.	あさがおな	熱帯アジア	葉—食用
<b>Crassulaceae</b>		ベンケイソウ科	
<i>Bryophyllum daigremontianum</i> BERGER	しころべんけいそう	北アメリカ	観賞
<i>B. tubiflorum</i> HARV.	きんちょう	マダガスカル島	〃
<i>Graptopetalum paraguayense</i> E.W. WALTHER	おぼろづき	メキシコ	〃
<i>Kalanchoe Blossfeldiana</i> VON POELLIRITY	べにべんけいそう	マダガスカル島	〃
<b>Dipterocarpaceae</b>		フタバガキ科	

学名	和名	原産地	用途
<i>Dialium cochinchinensis</i> RIERRE			
<b>Ericaceae ツツジ科</b>			
◎ <i>Erica melanthera</i> L.	えりか	南アフリカ	切花, 庭園用
<b>Erythroxylaceae コカノキ科</b>			
<i>Erythroxylon lucidum</i>			
<b>Eucommiaceae トチャウ科</b>			
◎ <i>Eucommia ulmoides</i> OLIVER	とちゅう	中国中西部	樹皮—グッタペルカ, 強壯剤
<b>Euphorbiaceae トウダイグサ科</b>			
<i>Acalypha hispida</i> BURM. f	べにひものき	インド	観賞
△ <i>A. wilkesiana</i> MUELL. ARG. var. <i>marginata</i> W. MILLER	ふくりんあかりは	南洋諸島	観賞
◎ <i>Aleurites fordii</i> HEMSLEY	しなあぶらざり	中国	種子—乾性油, 材—下駄
<i>A. moluccana</i> WILLD.	くくいなと	マレー	核—乾性油, ソース原料
◎ <i>A. montana</i> WILLS.	かんとんあぶらざり	広東	種子—乾性油, 材—下駄
<i>Bischoffia javanica</i> BLUME	あかぎ	インド, マレー, 台湾, オーストラ リア, フィリッピン	建築材, 家具材, 額縁, 楽器
<i>Codiaeum variegatum</i> BLUME. var. <i>pictum</i> MUELL. ARG. forma <i>crispum</i> MUELL. ARG.	らせんくるとん	マレー	観賞
forma <i>platyphyllum</i> PAX.	おおぼくるとん	東部マレーシャ	〃
forma <i>taeniosum</i> MUELL. ARG.	ほそぼくるとん	マレー	〃
<i>Emblica pectinata</i> RIDL.		マレー	果実—食用
<i>Euphorbia neriiifolia</i> L. var. <i>variegata</i> HORT.	せっかきりんふ		観賞
△ <i>E. pulcherrima</i> WILLD.	ぼいんせちゃ	メキシコ 中央アメリカ	〃
<i>E. splendens</i> BOJER.	はなきりん	マダガスカル島	〃
<i>E. Tilucalli</i> L.	みどりさんご	台湾南部	〃
<i>Excoecaria cochinchinensis</i> LOUR.	せいしぼく	コーチシナ	〃
<i>Hevea brasiliensis</i> MULL. ARG.	ばらごむのき	ブラジル	樹皮乳液—ゴム製品
<i>Hura crepitans</i> L.			
△ <i>Manihot utilissima</i> POHL.	きやっさば	ブラジル	根—タピオカ澱粉
<i>Pedilanthus tithymaloides</i> POIT. var. <i>variegatus</i> HORT.	りゅうほうぼく	フロリダ—ベネゼラ	観賞

学名	和名	原産地	用途
△ <i>Phyllanthus nivosus</i> BULL. var. <i>roses-pictus</i> HORT.	洋種こぼんのき	サウスシー島	〃
◎ <i>Sapium sebiferum</i> ROXB.	なんきんはぜ	台湾	種子—ローソク, 石鹼材料, 葉—青色染料
<b>Fagaceae</b> ブナ科			
◎ <i>Quercus cerris</i> L.	とるこなら	ヨーロッパ, 小アジア	樹皮—タンニン
<i>Q. rubra</i> L.	あめりかあかなら	北アメリカ, カナダ	建築材, 樹皮—タンニン
◎ <i>Q. suber</i> L.	こるくがし	ポルトガル	樹皮—コルク
<b>Flacourtiaceae</b> イイギリ科			
<i>Hydnocarpus anthelmintica</i> PIERRE.	だいふうし	インドシナ	種子—大風子油, 治癩用
<b>Geraniaceae</b> フウロソウ科			
○ <i>Pelargonium denticulatum</i> JACQ.	ぜらにうむ	南アフリカ	葉—香料
<i>P. quersifolium</i> AIT.	かしわばぜらにうむ	〃	茎葉—香料
<i>Saintpaulia ionantha</i> WENDL.	あふりかすみれ	熱帯アフリカ	観賞
<b>Guttiferae</b> オトギリソウ科			
<i>Garcinia loureirii</i> PIERRE			
<i>G. oblongifolia</i> CHAMP			
<i>G. xanthochymus</i> H.K.	たまごのき	南インド	果実—食用
<b>Hamamelidaceae</b> マンサク科			
◎ <i>Liquidambar formosana</i> HANCE	ふう	台湾, 中国	庭木
<b>Hippocastanaceae</b> トチノキ科			
◎ <i>Aesculus hippocastanum</i> L.	まろにえ	ギリシヤ北部 アルバニヤ	街路樹
<b>Juglandaceae</b> クルミ科			
◎ <i>Carya illinoensis</i> K. KOCH	ぺかん	北アメリカ	果実—食用
<b>Labiatae</b> シソ科			
<i>Coleus blumei</i> BENTH.	にしきじそ	ジャバ	観賞
<i>Iboza riparia</i> N. B BR.	ふぶきばな	南アフリカ	〃
△ <i>Pogostemon cablin</i> BENTHAM	ばちよりー	スマトラ, ジャバ	葉—香料
<b>Lauraceae</b> クスノキ科			
◎ <i>Cinnamomum camphora</i> SIEB. var. <i>linaloolifera</i> FUJITA	ほうしょう	中国, 台湾	全樹—香料 (リナロール)

学名	和名	原産地	用途
<i>Persea americana</i> MILL.	あぼかど	メキシコ, 西インド	果実一食用
◎ <i>Phoebe formosana</i> HAY.	たいわんいぬくす	台湾	建築材
◎ <i>Sassafras albidum</i> NEES. var. <i>molle</i> FERNALD	さっさふらす	北アメリカ, カンサス, カナダ	煙草の添香料, 枕木, 船材
<b>Lecythidaceae</b>		サガリバナ科	
<i>Barringtonia acutangula</i> GAERTN.			根・葉一下剤, 種子・果実一吐剤
<b>Leguminosae</b>		マメ科	
<i>Acacia atabida</i>		Suddan	
◎ <i>A. baileyana</i> F. v. MUELL.	ぎんばあかしや	オーストラリア	切花, 庭木
<i>A. catechu</i> WILLD.	阿仙薬	インド, ビルマ, タイ	樹皮—タンニン, 健胃収斂剤 黒色染料, 鞣皮料
○ <i>A. cavenia</i> BERT.		チリー	生垣用
△ <i>A. confusa</i> MERRILL	そうしじゅ	台湾, 中国南部	薪炭材, 家具材, 庭園樹, 街路樹, 樹皮—タンニン
◎ <i>A. cyanophylla</i> LINDL.			
◎ <i>A. dealbata</i> LINK.	ふさあかしや	オーストラリア	切花, 庭木
◎ <i>A. decurrens</i> WILLD.		"	" "
○ <i>A. farnesiana</i> WILLD.	きんごうかん	インド, 台湾	花—香水, 皮・莢—染料, 材—家具材, 樹液—アラビヤゴム代用
<i>A. horrida</i> WILLD.	ほりだあかしや	南アフリカ	樹皮—タンニン, アラビヤゴム材料
◎ <i>A. longifolia</i> WILLD.		オーストラリア	庭園樹
◎ var. <i>floribund</i> F.V.M.		"	"
◎ <i>A. melanoxylon</i> R. BR.		"	切花, 庭木
◎ <i>A. mollissima</i> WILLD.	あかしやもりしま	"	樹皮—タンニン, 材—薪炭, 葉—飼料
◎ <i>A. podalyriaefolia</i> CUNN.		"	切花, 庭木
<i>A. senegal</i> WILLD.	あらびやごむのき	西アフリカ セネガル地方	樹液—糊料
<i>A. sieberiana</i>		Suddan	
◎ <i>A. verticillata</i> WILLD.	すぎばあかしや	オーストラリア	切花, 庭木
<i>A. visco</i>			
△ <i>Adenantha pavonia</i> LINN.	なんばんあかあづき	西インド諸島	材—染料, 建築材, 行通樹, 種子—頸飾
<i>Albizzia acle</i>		フィリッピン	
<i>A. lebbeck</i> BENTH.	びるまねむのき	インド, ビルマ	材—建築, 家具材, 樹皮—タンニン, 葉・枝—駱駝の飼料, 庭園用
<i>A. lucida</i> BENTH.	るしだねむのき	インド	家具材, 運動具, 炭材
◎ <i>Amorpha fruticosa</i> L.	いたちはぎ	北アメリカ	砂防用, 肥料木
△ <i>Bauhinia alba</i> HORT.	こばぼうひにや	中国, インド	観賞, 庭木
◎ <i>B. candicans</i>			

学名	和名	原産地	用途
○ <i>Bauhinia purpurea</i> L.	むらさきそしんか	西部ヒマラヤ山麓	観賞, 庭木, 農具
<i>Cassia alata</i> L.	はねせんな	南アメリカ	葉一薬用, 皮膚病薬
<i>C. fistura</i> L.	なんぼんさいかち	インド	莢一緩下剤
<i>C. floribunda</i>			
<i>C. multijuga</i> RICH.		エジプト	葉一下剤
<i>C. siamea</i> LAM.	たがやさん	インド, ビルマ, マレー	器具材, 建築材, 街路樹
◎ <i>Ceratonia siliqua</i> L.	いなごまめ	アメリカ	莢果一薬用, 葉一飼料
◎ <i>Cercis chinensis</i> BUNGE	はなすおう	中国	庭木, 切花
◎ <i>Cytisus scoparius</i> LINK.	えにしだ	中南部ヨーロッパ	活花用, 庭園用
△ <i>Derris elliptica</i> BENTH.		ビルマ, インド, マレーシャ	根一殺虫剤
<i>D. sinuata</i> BENTH.			
<i>Desmodium gyrans</i> DC.	まいはぎ	インド	動く植物として教材
△ <i>Enterolobium contortisiliquum</i>			
◎ <i>Erythrina crista-galli</i> L.		ブラジル	庭園樹
<i>Gleditsia triacantha</i> L.	あめりかさいかち	北アメリカ	
<i>Haematoxylon campechianum</i> L.	ろっぐうっど	メキシコ	心材一色素ハマトキシリン
○ <i>Leucaena glauca</i> BENTH.	ぎんごうかん	熱帯アメリカ	薪材, 庇蔭樹, 荒地地復旧用
◎ <i>Medicago sativa</i> L.	あるふあるふあ	北アフリカ	牧草
△ <i>Mimosa pudica</i> L.	おじぎそう	南アメリカ	観賞
<i>Ormosia calavensis</i> AZAOLA	ばらおあかまめのき	フィリッピン	種子一食用, 材一建築材
△ <i>Peltophorum inerme</i> NAVES.	とげなしじゃけっ	熱帯アジア	街路樹
<i>Pithecolobium dulce</i> BENTH.	きんきじゅ	フィリッピン	材一建築, 樹皮一染料, 假種皮一食用, 飲料
△ <i>Poinciana regia</i> BOJOR	ほうおうぼく	マダガスル島	庭園樹, 街路樹
<i>Pterocarpus indicus</i> WILLD.	いんどしたん	インド, ビルマ, フィリッピン	家具, 建築材, 心材一パルプ
<i>P. vidaliaous</i> ROLFE.		フィリッピン	用材
◎ <i>Robinia pseudoacacia</i> L. var. <i>bessoniana</i> NICHOLS.	青島とげなしにせあかしや		砂防樹, 肥料木, 飼料, 薪炭
◎ var. <i>inermis</i> DC.	英国 "		" " " "
<i>Samanea saman</i> MERRILL	あめふりのき	西インド, 中アメリカ	果皮一飼料
<i>Tamarindus indica</i> LINN.	たまりんど	中央アフリカ	農具, 車輛, 果肉一緩下剤, 飲料剤, 葉・花・実一染料
<b>Loganiaceae</b>		<b>フジウツギ科</b>	
◎ <i>Buddleia dovidii</i> FRANCH.	ぶっどれあ	中国	切花
<i>Strychnos ovalifolia</i> WALL.		マレー	全植物一毒失, 有毒
<i>S. spinosa</i>			

学名	和名	原産地	用途
<b>Lythraceae</b> ミソハギ科			
△ <i>Lagerstroemia speciosa</i> PERS.	大花さるすべり	インド	家具材, 高級建築材, 船材, 風致木
◎ <i>L. subcostata</i> KOEHNE	しまさるすべり	中国中部, 琉球	建築用柱, 薪炭材, 枕木, 庭園樹
◎ <i>Lamsonia inermis</i> L.	しこうか	西南アジャ	葉一爪, 頭髮の紅色染料
<b>Magnoliaceae</b> モクレン科			
◎ <i>Liriodendron tulipifera</i> L.	はんでんぼく	北アメリカ, フロリダ	用材, 街路樹
◎ <i>Michelia fuscata</i> BLUME	とうおがたま	台湾	庭園樹
<i>M. longifolia</i> BLUME	ぎんこうぼく	中国南部	観賞
<b>Malvaceae</b> アオイ科			
△ <i>Bombycidendron campylosiphon</i> WARB.	らぬたん	タイ, マレー	車軸, 銃座, 梁, 指物
△ <i>Hibiscus glaber</i> MATSUMURA.	もんでんぼく	小笠原島	装飾材, 指物, 建築材
△ <i>H. rosa-sinensis</i> L.	ぶっそうげ	中国南部	庭園用, 観賞
△ <i>H. sabdariffa</i> L.	ろうぜりそう	熱帯アフリカ	総苞片—清涼飲料, 酒, 葉一食用, 香料
<i>H. schizopetalus</i> HOOK. f.	ふうりんぶっそうげ	東部熱帯アフリカ	観賞
△ <i>H. tiliaceus</i> L.	やまあさ	台湾	皮一繊維
<i>Malvaviscus arborens</i> CAV.	ひめぶっそうげ	西インド, ジャマイカ	用材, 街路樹
<b>Melastomataceae</b> ノボタン科			
<i>Melastoma candidum</i> D. DON.	のぼたん	琉球, 台湾	観賞
<b>Meliaceae</b> センダン科			
○ <i>Cedrela odorata</i> L.		西インド, 南アメリカ	材—葉巻煙草の箱, 家具材
◎ <i>Melia Azedarach</i> L.	たいわんせんだん	台湾, インド, ビルマ, 中国, 琉球	家具材, 乾葉—駆虫剤
<i>Swietenia macrophylla</i> KING	おおばまほがにー	ペルー	家具材, 街路樹
<i>S. mahogani</i> JACQ.	まほがに	西インド諸島, 北アメリカ, フロリダ	高級家具材
△ <i>Toona calantas</i> MERR. et ROLEE	となからんたす	フィリッピン	葉巻タバコの箱, ピアノ用材
<i>T. sinensis</i> ROEM	ちゃんちん	中国	器具, 土木, 桶材
<b>Menispermaceae</b> ツヅラフヂ科			
◎ <i>Cocculus laurifolius</i> DC.	こうしゅうやく	九州南部, 琉球, 台湾	根—駆虫及利尿剤

学名	和名	原産地	用途
<b>Moraceae</b> クワ科			
<i>Artocarpus integrifolius</i> AUTH. non L. fil.	ばらみつ	インド, マレー	果実—食用
△ <i>Ficus elastica</i> ROXB.	いんごむのき	インド	樹液—弾性ゴム, 観賞
var. <i>variegata</i> HORT.	ふいりごむのき		観賞
<i>F. religiosa</i> L.	いんごぼだいじゅ	インド	庭園樹, 街路樹, 神聖樹
△ <i>F. retusa</i> L.	がじゅまる	熱帯アジア, 日本暖地	玩具
○ <i>F. wightiana</i> WALL.	あこう	台湾, 九州, 四国	〃
<b>Myrtaceae</b> フトモモ科			
◎ <i>Callistemon rigidus</i> R. BR.	まきばぶらっしのき	オーストラリア	切花
○ <i>Eucalyptus citriodora</i> L. HERIT.	しとりおどらゆかり	〃	葉—香料, 材—杭材, 薪炭
<i>E. f. stigata</i> DEANE et MAIDEN		ビクトリア, ニュー サウスウエール	
◎ <i>E. globulus</i> LABILL		オーストラリア	葉—薬用, 香料
<i>E. maculata</i> HOOK		南部ニューサウス ウエールス	
<i>E. resinifera</i> SM.		〃	
<i>E. robusta</i> SM.		クインズランド	
◎ <i>E. saligna</i> SM.		オーストラリア	用材
◎ <i>Feijoa sellowana</i> BERG.	へいじょあ	〃	
		ブラジル, パラガイ	果実—食用, ジャム
<i>Melaleuca leucodendron</i> L.	かゆぶてのき	インド, マレー, フィリッピン	葉—鎮痛薬, 材—用材, 皮— 炬火
◎ <i>Myrtus communis</i> L.	まーとる	ヨーロッパ	葉—香料
◎ <i>Psidium cattleianum</i> SABINE	すとろべりーぐわ ば	ブラジル	果実—食用, ジャム
◎ var. <i>lucidum</i> HORT.	きみのばんじろう		
△ <i>P. Guajava</i> L.	ばんじろう	台湾	果実—食用, 樹皮—タンニン
<b>Nepenthaceae</b> ウツボカズラ科			
<i>Nepenthes maxima</i> REINW.	べにじまうつぼかずら	セレベス, ボルネオ, ニューギニア	観賞用, 食虫植物
<b>Nyctaginaceae</b> オンロイバナ科			
<i>Bougainvillea glabra</i> CHOISY. var. <i>mrs Butt</i> HORT.	べにぶーげんかずら	コロンビヤ	観賞
○ <i>B. spectabilis</i> WILLD.	いかたかかずら	ブラジル	生垣, 観賞
<b>Nymphaeaceae</b> スイレン科			
<i>Nymphaea capensis</i> THUNB. var. <i>zanzibariensis</i> CONARD	熱帯すいれん	ザンジバル	観賞



学名	和名	原産地	用途
<i>Nymphaea capensis</i> THUNB. var. <i>zanzibariensis</i> CONARD forma <i>rosea</i> HENKEL et REHN.	熱帯すいれん	ザンジバル	観賞
<i>Victoria cruziana</i> d'ORB		南パラナ, 北アル ゼンチン, パラグ アイ	〃
<i>V. regia</i> LINDL.	おおおにはす	アマゾン地方	〃
<b>Oleaceae</b> モクセイ科			
◎ <i>Fraxinus Ornus</i> L.	まんたとねりこ	南ヨーロッパ	煎汁×緩下剤, 矯味薬
○ <i>Iasminum Sambac</i> ALT.	まつかり	インド	花香水, 包種茶賦香料, 観賞
◎ <i>Ligustrum lucidum</i> AIT.	とうねずみもち		
◎ <i>Olea europaea</i> L.	おりーぶ	地中海沿岸 小アジア	果実—オリーブ油, 材—細工物
◎ <i>Fraxinus formosana</i> HEMSL.	しまとねりこ		
<b>Oxalidaceae</b> カタバミ科			
<i>Averrhoa Bilimbi</i> L.	ごれんし	インド, マレーシ ア	果実—食用
<i>Biophytum sensitivum</i>	おさばふうろ	台湾	観賞
<i>Oxalis variabilis</i> JACQ.	ふようかたばみ	アフリカ南部	〃
<b>Passifloraceae</b> トケイソウ科			
◎ <i>Passiflora edulis</i> SIMS.	くだものといせう う	ブラジル	果実—食用
<b>Piperaceae</b> コシヨウ科			
<i>Peperomia incana</i> A. DIETR.	わたげペペろみや	ブラジル	観賞
<i>P. tithymaloides</i> A. DIETR. var. <i>variegata</i> HORT.	きふペペろみや	サント・ドミンゴ	〃
<i>Piper nigrum</i> L.	こしょう	南インド	果実—コショウ
<b>Polygonaceae</b> タデ科			
<i>Antigonon leptopus</i> HOOK. et ARN.	あさひかずら	メキシコ	観賞
<b>Proteaceae</b> ヤマモガシ科			
◎ <i>Grevillea robusta</i> A. CUNN.	しのぶのき	オーストラリア クインスランド	材—器具, 彫刻材
<i>Grevillea robusta</i> CUNN. var. <i>forsteri</i> HORT.	べにはごろも	オーストラリア	観賞
<i>Macadamia termifolia</i> F. MUELL.	くいんすらんどな っと	東北 〃	果実—食用, 材—家具, ベニヤ
<b>Rhamnaceae</b> クロウメモドキ科			
<i>Rhamnus purshiana</i> DC.	かすからさぐらだ	北米西部	樹皮—便秘症及消化剤
<b>Rubiaceae</b> アカネ科			
<i>Coffea arabica</i> L.	こーひーのき	北アフリカ	種子—コーヒー

学名	和名	原産地	用途
<b>Rutaceae</b> ミカン科			
<i>Aegle Marmelos</i> CORREA	まるめろ	東インド, ビルマ セイロン	果実—生食・飲料
△ <i>Citrus madurensis</i> LOUR.	月橘	中国南部	果実—食用
<b>Sapindaceae</b> ムクロジ科			
<i>Euphoria Longana</i> LAM.	りゅうがん	南中国	果実—食用, 材—家具材, 建築材, 種子—洗髪料
<i>Litchi chinensis</i> SONN.	れいし	中国南部	" "
○ <i>Serjania fuscifolia</i>		南アメリカ	
<b>Sapotaceae</b> アカテツ科			
<i>Achras sapota</i> L.	さぼじら	熱帯アメリカ	果実—食用
<i>Mimusops elengi</i> L.		東インド	樹皮—収斂剤, 種子—下剤, 毒蛇の咬傷
<b>Scrophulariaceae</b> ゴマノハグサ科			
◎ <i>Antirrhinum majus</i> L.	きんぎょそう	欧洲南部	切花
<i>Maurandia erubescens</i> A. GRAY	きりかづら	メキシコ	観賞
◎ <i>Paulownia kawakamii</i> ITO	たいわんぎり	台湾	用材
<b>Solanaceae</b> ナス科			
<i>Brunfelsia americana</i> L.	あめりかばんまつり	西インド	観賞
<i>B. hopeana</i> BENTH.	ばんまつり	ブラジル	"
○ <i>Cestrum nocturnum</i> L.	やこうか	西インド	庭園樹
○ <i>Datura suaveolens</i> HUMBOLDT et. BONPLAND	きだちようせんあお	メキシコ	庭園用
<b>Sterculiaceae</b> アオギリ科			
<i>Ochroma pyramidale</i> URB.	ばるさ	メキシコ南部 ペルー	材—浮標用, 救命帯, 飛行機材
<i>Sterculia foetide</i> L.	やつであおぎり	熱帯アフリカ " アジア	庭園樹, 種子—食用
<i>Theobroma cacao</i> L.	かかお	熱帯アメリカ	種子—ココア, チョコレート
<b>Tamaricaceae</b> ギョリュウ科			
◎ <i>Tamarix juniperina</i> BUNGE	ぎょりゅう	中国	庭園樹
<b>Verdenaceae</b> クマツヅラ科			
<i>Clerodendron japonicum</i> MAKINO	ひぎり	インド	観賞
△ <i>C. speciosum</i> LEM.	べにげんぺいかづら	アフリカ	"
<i>C. thomsonae</i> BALFOUR	げんぺいくさぎ	西アフリカ	"
<i>Lantana camara</i> L.	しちへんげ	熱帯アメリカ	"

学名	和名	原産地	用途
○ <i>Lantana sellowiana</i> LINK et OTTO.	こぼのしちへんげ	熱帯アメリカ	観賞
<i>Tectona grandis</i> L. f.	ちーく	インド, マレーシヤ	材—船艦用材
<i>Vitex negundo</i> L.		中国, インド	葉・樹皮—歯痛, リウマチス眼病薬
<b>Vitaceae</b> ブドウ科			
<i>Cissus discolor</i> BLUME	せいしかずら	ジャバ	観賞
<b>Zygophyllaceae</b> ハマビシ科			
<i>Guajacum officinale</i> L.	ゆそうぼく	西インド, ベネゼラ, コロンビア	材—滑車, 軸受, ソロバン珠

### Monocotyledoneae 単子葉類

#### Amaryllidaceae ヒガンバナ科

◎ <i>Agave americana</i> L.	あおのりゅうぜつらん	メキシコ	葉—繊維, 船具, 綱索 花茎—酒, 観賞
◎ var. <i>variegata</i> NICHOLS.	りゅうぜつらん	"	葉—繊維, 観賞
△ <i>A. sisalana</i> PERRINE	さいざる	"	葉—繊維, 綱索
○ <i>Clivia nobilis</i> LINDL.	くんしらん	アフリカ, 喜望峰	観賞
◎ <i>Crinum asiaticum</i> L. var. <i>japonicum</i> BAKER	はまゆう	琉球, 我国暖地の海浜砂地	観賞用, 砂防用
<i>C. gigas</i> NAKAI.	おおはまおもと	小笠原島	"
○ <i>Curculigo recurvata</i> DRYAND.	おおばせんぼう	熱帯アジア	観賞用

#### Araceae サトイモ科

<i>Alocasia lowii</i> HOOK.	あろーかしあ	ボルネオ, マラッカ	観賞
<i>Anthurium andraeanum</i> LINDL.	おおべにうちわ	南北コロンビア	"
<i>Caladium bicolor</i> VENT.	からじうむ	アマゾン河沿岸地方	"
<i>Diffenbachia picta</i> SCHOTT var. <i>bausei</i> ENGL.		ブラジル	"
<i>Eppremnum mirabile</i> SCHOTT	はぶかつら	台湾	"
<i>Monstera deliciosa</i> LIEBM.	ほうらいしょう	メキシコ	" 果実—食用
<i>Philodendron erubescens</i> C. KOCH.		コロンビア	"
<i>Scindapsus aureus</i> ENGLER	おおごんかつら	ソロモン群島	"

#### Bromeliaceae パイナップル科

△ <i>Ananas comosus</i> MERR.	ばいなっふる	ブラジル	果実—食用, 葉—織物
var. <i>variegatus</i> HORT.	ふいりばいなっふる	"	" " 観賞

学名	和名	原産地	用途
<i>Aregelia spectabilis</i> MEZ.	つまべにあななす	ブラジル	観賞
△ <i>Billbergia liboniana</i> DE. JONGH	こばなつつあなな す	"	"
◎ <i>B. nutans</i> WENDL.	ようらくあななす	"	"
<i>Tillandsia lindeniana</i> REGER	てらんでしや	南米エクアドル ペルー	"
<b>Commelinaceae</b>		ツユクサ科	
△ <i>Rhoeo discolor</i> HANCE	むらさきおもと	メキシコ, 東イン ド	観賞, 葉一整腸菜
<i>Spironema fragrans</i> LINDL.	しだれつゆくさ	メキシコ	"
<i>Tradescatia fluminensis</i> VELL.	しるふはかたがら くさ	南アメリカ	"
<i>Zebrina pendula</i> SCHNIZL	はかたがらくさ	メキシコ	"
<b>Cyperaceae</b>		カヤツリグサ科	
○ <i>Cyperus alternifolius</i> L.	しゅろがやつり	熱帯アメリカ	観賞
<i>C. papyrus</i> L.	かみかやつりぐさ	アフリカ	" 茎一紙
<b>Gramineae</b>		イネ科	
◎ <i>Arrhenatherum elatius</i> MART. et KOCH var. <i>tuberosum</i> HALAC. forma <i>variegatum</i> HORT.	りぼんぐらす	ヨーロッパ	観賞
◎ <i>Cortaderia argentea</i> STAPP	ばんばすぐらす	南米, ウルガイ, パラガイ	庭園用
◎ <i>Cymbopogon citratus</i> STAPP.	れもんぐらす	インド, マダガス カル島	葉一香料
<i>C. nardus</i> RENDLE	しとろねらぐらす	アフリカ	"一石鹼香料
△ <i>Saccharum officinarum</i> L.	さとうきび	東部太平洋島嶼	茎一砂糖
◎ <i>Vetiveria zizanioides</i> STAPP	べちべる	インド	根一香料
<b>Iridaceae</b>		アヤメ科	
△ <i>Marica northiana</i> KER.	あめりかじゃが	ブラジル	観賞
<b>Liliaceae</b>		ユリ科	
◎ <i>Agapanthus africanus</i> HOFFING	むらさきくんしら ん	西部アフリカ	観賞
○ <i>Aloe arborescens</i> MILL. var. <i>natalensis</i> BERGER	きだちろかい	南 "	葉一薬用
<i>A. saponaria</i> HAW.	しやぼんろかい	アフリカ, 喜望峯	観賞
<i>Asparagus myriocladus</i> BAKER		南アメリカ	切葉
<i>A. plumosus</i> BAKER var. <i>nanus</i> NICHOLS.	あすばらがす	"	"
<i>A. sprengeri</i> REGEL	すぎのはかずら	アフリカ, ナター ル地方	観賞
<i>Aspidistra attenuata</i> HAYATA	ありさんばらん	台湾	"

学名	和名	原産地	用途
<i>Brodiaea uniflora</i> ENGLER	はないら	アルゼンチン, ブエノスアイレス	観賞
◎ <i>Chlorophytum comosum</i> BAK.	おりづるらん	南アフリカ	"
◎ <i>Cordyline australis</i> HOOK. F.	においしゅろらん	ニュージーランド	庭園用
○ <i>C. terminalis</i> KUNTH.	せんねんぼく	東部インド	観賞
<i>Dracaena deremensis</i> ENGL.	しろしませんねん ぼく	熱帯アフリカ	"
<i>Nolina recurvata</i> HEMSL.	とつくりらん	メキシコ	"
◎ <i>Phormium tenax</i> FORST.	まおらん	ニュージーランド	葉一繊維, 敷物, 帆布, 製紙 原料
△ <i>Sansevieria Laurentii</i> N.E. BR. WILDEM.	ふくりんちとせら ん	熱帯アフリカ, コンゴ地方	観賞
△ <i>S. nilotica</i> BAKER	ちとせらん	" ナイル河地方	"
◎ <i>Yucca aloifolia</i> L. var. <i>marginata</i> BOMMER.	ふいりせんじゅら ん	メキシコ	庭園用
◎ <i>Y. gloriosa</i> L.	あつばきみがよら ん	北アメリカ	"
<b>Marantaceae</b> クグウコン科			
<i>Cathea insignis</i> BULL.		ブラジル	観賞
<i>C. picta</i> HOOK.		"	"
<i>Maranta bicolor</i> KER.	まらんだ	"	"
<i>Stromanthe Sanguinea</i> SANDER	すとりまんで	"	"
◎ <i>Thalia dealbata</i> FRAS.		北アメリカ	"
<b>Musaceae</b> バショウ科			
<i>Musa cavendishii</i> LAMB.	三尺ばなな	中国南部	果実一食用
<i>M. sapientum</i> L.	仙人種ばなな	インド	"
<i>M. uranoscopas</i> LOUR.	ひめばしょう	中国南部, 安南	観賞
<i>Ravenala madagascariensis</i> J.F. GMELIN	おおぎばしょう	マダガスカル島	庭園樹
<i>Strelizia augusta</i> THUNB.	おおぎばしょうも どき	アフリカ	"
<i>S. reginae</i> BANKS	ごくらくちょうば な	南アフリカ	切花
<b>Orchidaceae</b> ラン科			
<i>Vanilla planifolia</i> L.	ばにら	メキシコ	チョコレート, アイスクリー ム, 菓子の香料
<b>Palmae</b> ヤシ科			
<i>Areca catech</i> L.	びんろうじ	マレー	種子一食用染料, 庭園樹
<i>Arenga engleri</i> BECCARI	くろつぐ	台湾	葉一結束用, 繊維, たわし, 箒, 嫩芽一食用
<i>A. saccharifera</i> LABILL.	さとうやし	東インド	肉穂花序一砂糖

学名	和名	原産地	用途
<i>Calamus margaritae</i> HANCE.	とう	熱帯アジア	蔓—家具, 器具
<i>Caryota mitis</i> LOUR.	こもちくじやくやし	マライ	観賞
<i>Chrysalidocarpus lutescense</i> H. WENDL.	あれかやし	マダガスカル島	〃
◎ <i>Cocos australis</i> MART.		パラガイ	〃
<i>C. nucifera</i> L.	ココヤシ	熱帯アジア	果実—油脂, 食用, 葉—繊維
<i>C. plumosus</i>			
<i>Elacis guinensis</i> JACQ.	あぶらやし	西アフリカ	中果皮—バーム油
<i>Hyophorbe amaricaulis</i> MART.	とっくりやし	モーリシャス諸島	庭園用
△ <i>H. verschaffeltii</i> WENDL.	とっくりやしもどき	〃	観賞
<i>Kentia forsteriana</i> F. MUELL.	ひろはけんちゃやし		〃
◎ <i>Livistona chinensis</i> R. BR.	びろう	九州, 四国, 台湾 琉球	葉—編物, 毛—靴拭, 敷物, 嫩芽—食用
<i>L. cochinchinensis</i> MART.	せるだんやし	中国南部	観賞
<i>Oreodoxa regia</i> HUMBOLDT, BONPLAND et KUNTH	だいおうやし	熱帯アメリカ	庭園樹, 行道樹
◎ <i>Phoenix canariensis</i> HORT.	かなりーやし	カナリー島	〃 観賞
◎ <i>P. dactylifera</i> L.	なつめやし	インド西部	果肉—食用, 樹液—油
<i>P. Roebelenii</i> O'BRIEN.	しんのうやし	仏領印度支那	観賞
<i>Rhapis flabelliformis</i> AIT.	かんのんちく	琉球	〃
◎ <i>R. humilis</i> BLUME	しゅろちく	中国南部	〃
◎ <i>Washingtonia filifera</i> WENDL.	わしんとんやし	南カリホルニア	庭園用, 街路樹
◎ <i>W. robusta</i> WENDL.		メキシコ カリホルニア南部	庭園樹
<b>Pandanaceae</b>		<b>タコノギ科</b>	
△ <i>Pandanus boninensis</i> WARB.	たこのき	小笠原島, 台湾	気根, 葉—繊維, 繩, 草履, 模造パナマ
<i>P. veitchii</i> DALL.	ふいりたこのき	ポリネシア	観賞
<b>Zingiberaceae</b>		<b>シヨウガ科</b>	
○ <i>Alpinia speciosa</i> K. SCHUM.	げつとう	台湾, インド	葉鞘部—マット, 帽子, 草履, 魚網, 葉—食物をつつむ
○ <i>Curcuma longa</i> L.	うこん	インド	根茎—止血剤, 食品の着色料
○ <i>Hedychium coronarium</i> KOEN. var. <i>chrysoleucum</i> BAKER	じんじや	インド, ビルマ	観賞

## VIII. 田 無 苗 畑

田無苗畑は、従前は農学部林学科に所属して、実際の管理経営は造林学教室がこれに当たっていたが、昭和31年3月に、農学部長と演習林長との話合いの結果、同年以降は、予算と定員を演習林で見ることとなった。その申合せに従って、逐次定員の振り替えを行い、また、31年5月には、農学部長、演習林長連名で大学本部各課に対して、上記の旨を通知した。しかし、実際の運営は33年度迄は従前のままの形で行われてきたが、その後林学科との話合いによって、34年度からは、実質的にもその管理経営共に演習林において行うこととなって現在に至っている。演習林においては、この田無苗畑において、育苗および育種に関する基礎的研究を強力に推進する計画であるが、そのためにはまずもって、研究施設の整備と研究員の増員が急務と考え、年々その予算を要求中である。

田無苗畑における大きな出来事としては、原子核研究所との土地の問題をとりあげなければならぬ。これは、昭和35年秋、隣接の原子核研究所の用地として、苗畑東北端の土地約260坪を割愛して貰いたい旨、総長から農学部長に非公式の申越しがあった。これに対し、同年9月22日の農学部教授会にはかつた結果、全学的見地からその使用は認めるが同時に、隣接地にその代替地が得られることを強く本学当局に要請すること、ただし最後のには、農学部長に一任ということに決定した。